

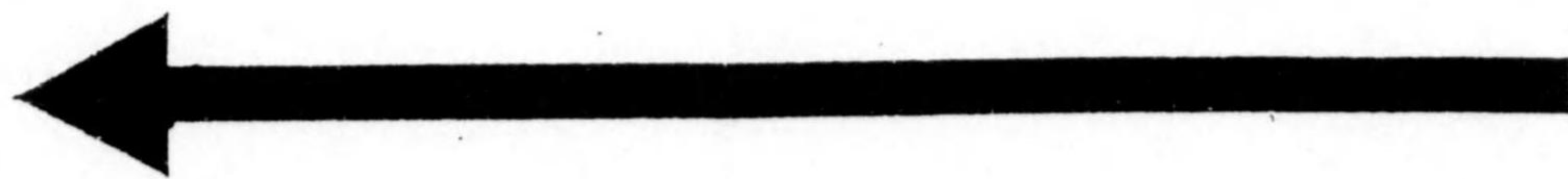
14.2□-149



\*1200600005165\*



始



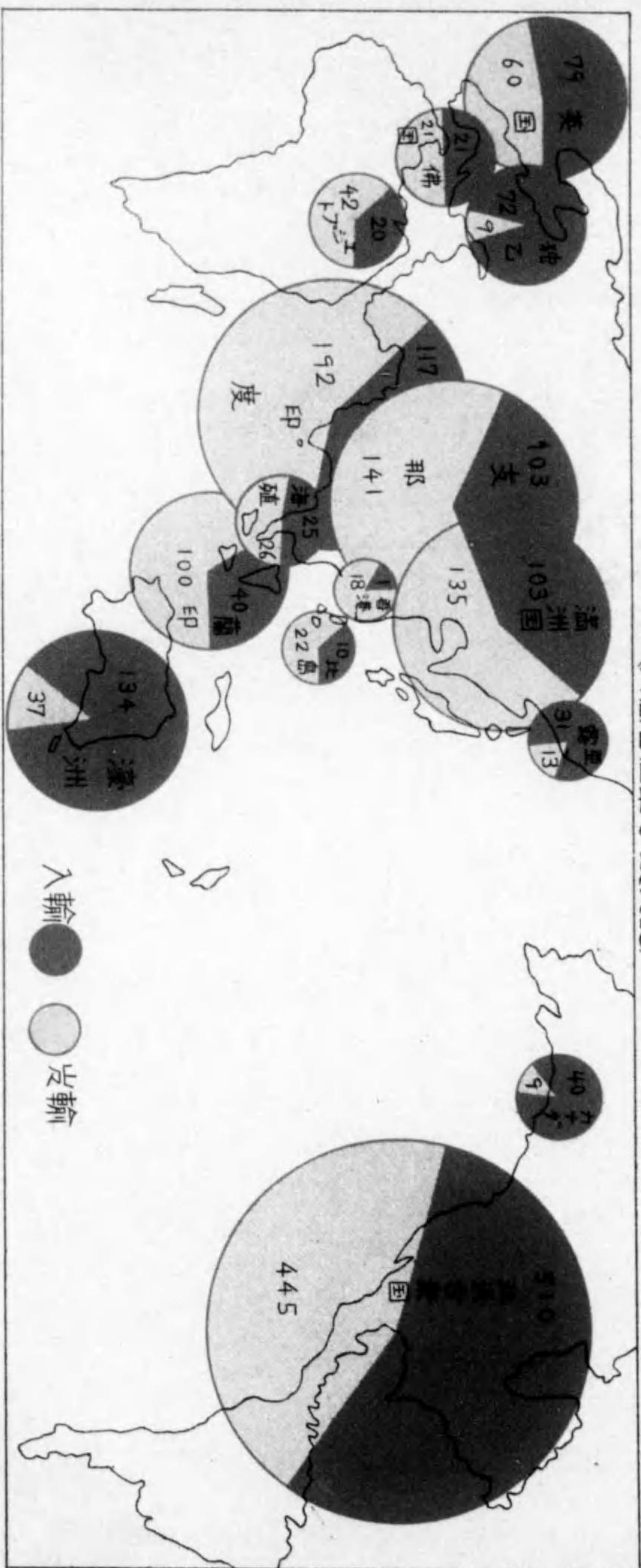
シ C 18.

昭和9年4月5日  
本誌發行所  
展寄贈

七昭和  
大阪貿易彙纂

表照對入出輸國手相要主對邦本

(ウマ含ヲ灣台及鮮朝) 年七和昭  
(円萬百位單字數入記)



圖書大類

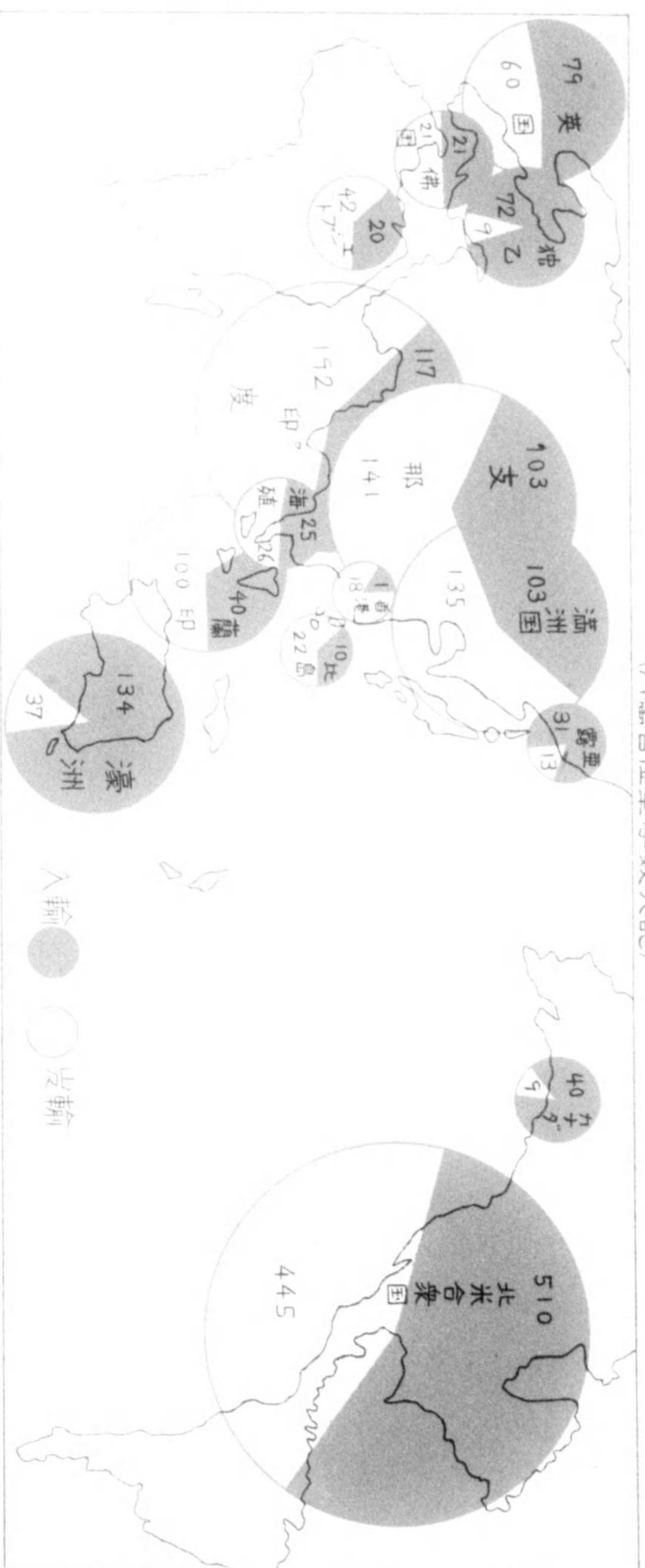


圖書大類

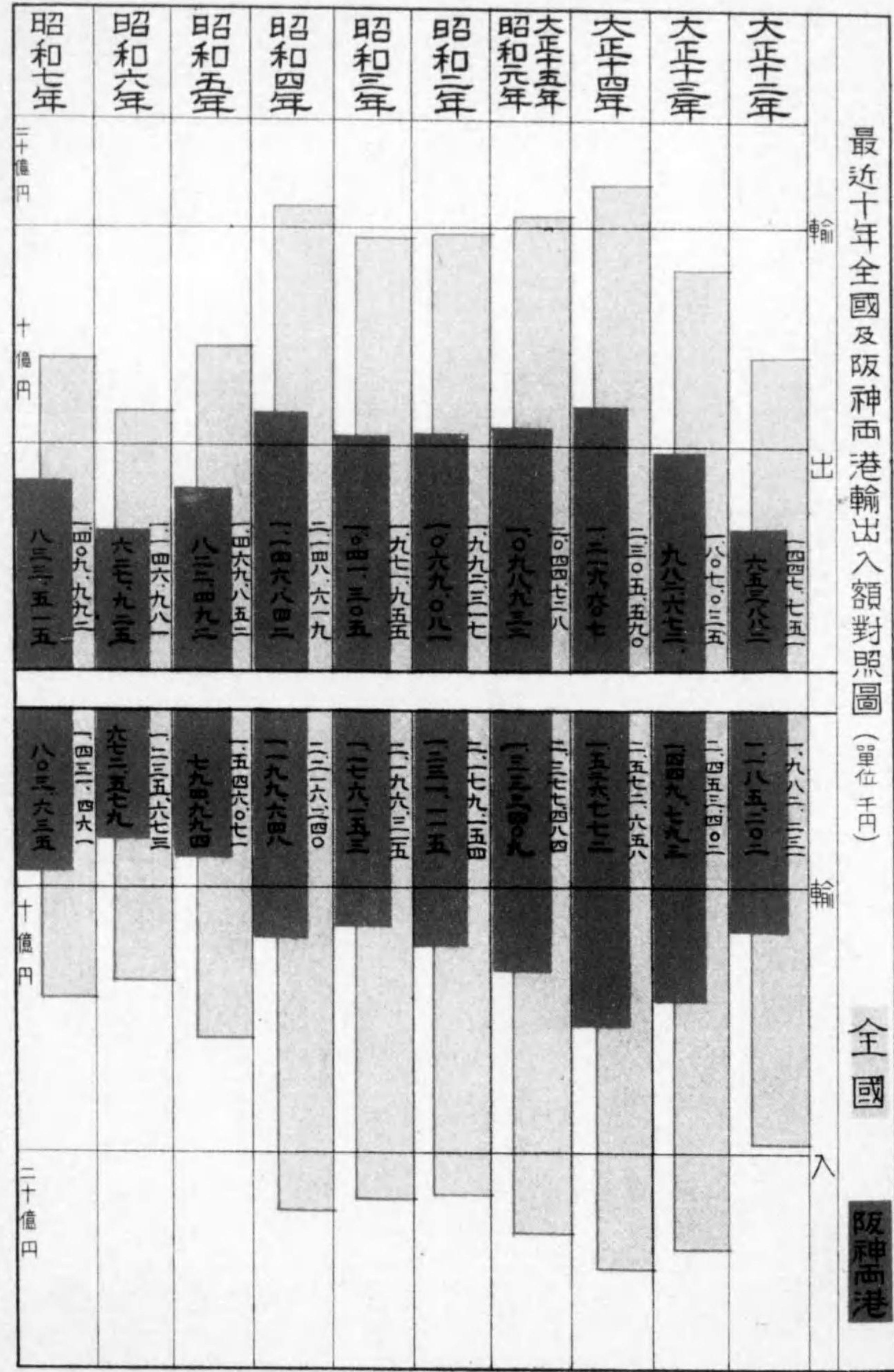
873052

本邦對主要手國輸出對照表

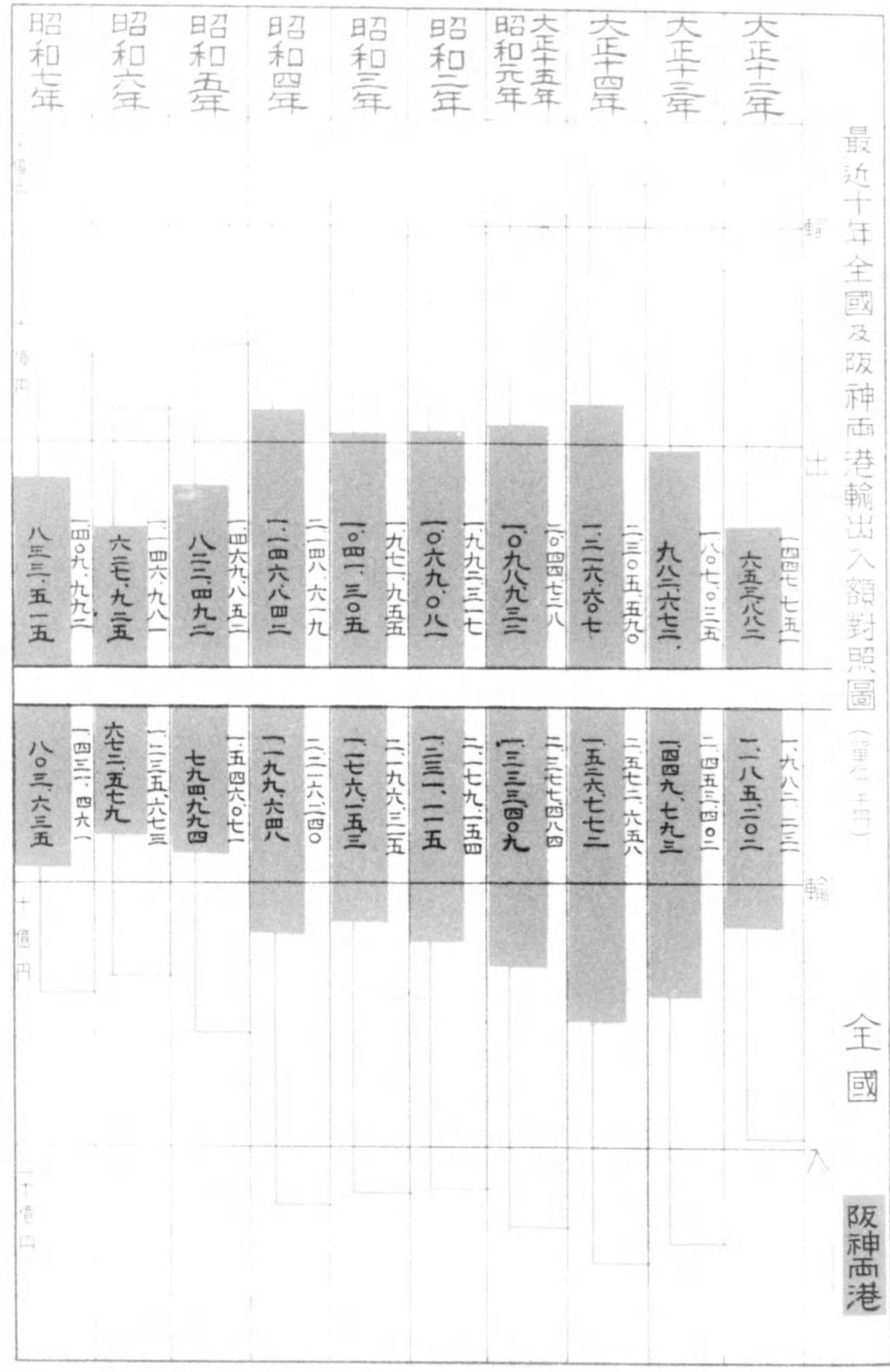
昭和七年(朝鮮及台灣を含む)  
 (記入數字單位百萬元)



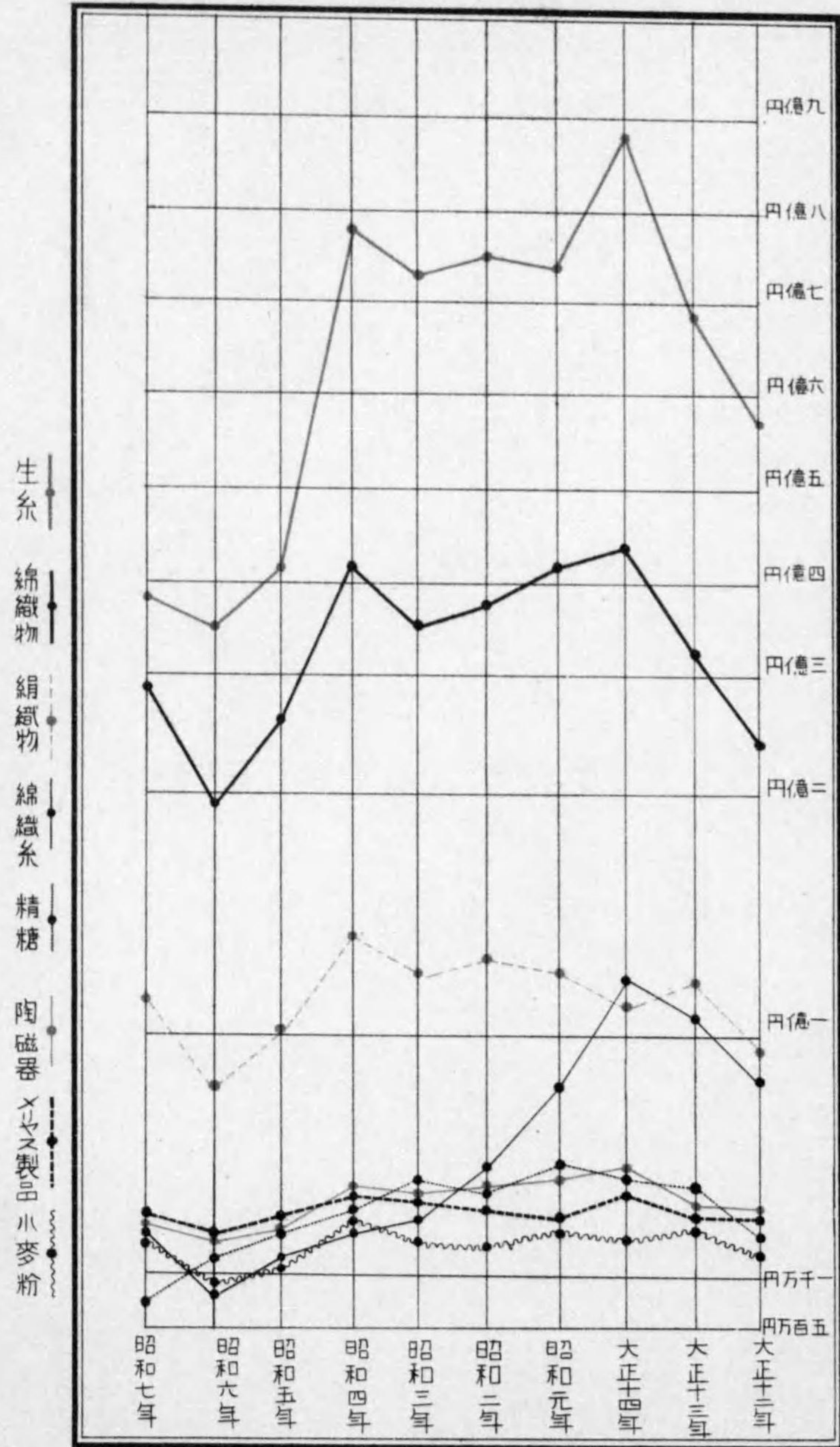
# 露光量違いの為重複撮影



# 露光量違いの為重複撮影

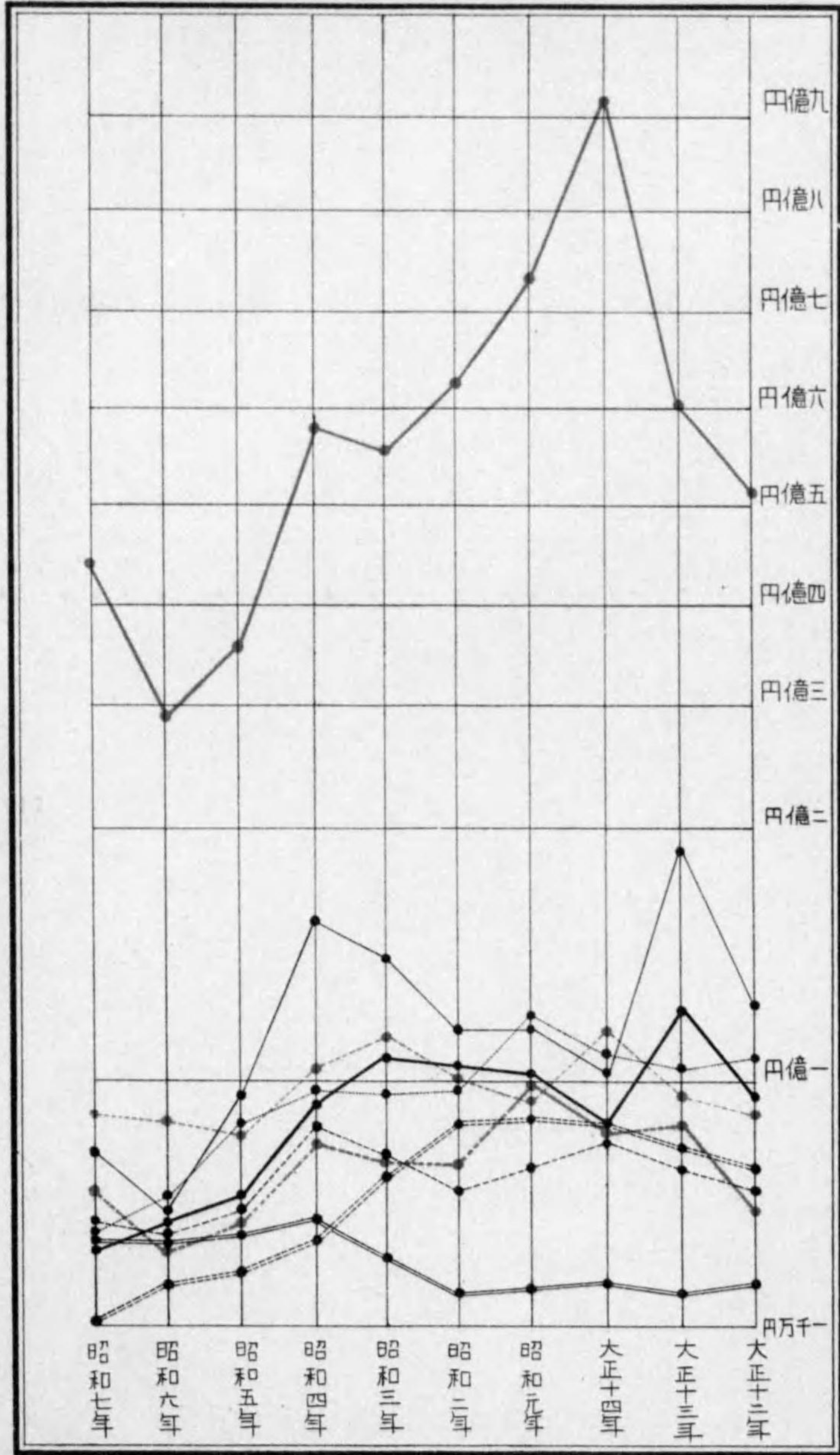


# 重要輸出品年推移表



# 表移推年累品入輸要重

棉花  
鉄類  
肥料  
木材  
羊毛  
豆類  
小麦  
砂糖  
石油



昭和十三年  
三月  
三十一日





### 凡 例

- 一、本書は昭和七年に於ける阪神兩港の重要輸出入品の概況を叙述す
- 一、叙述のために採録の商品は阪神兩港に於て輸出又は輸入年額二百萬圓以上のものを標準としたり
- 一、卷末の大阪港及神戸港輸出入國別表は本館の特別調査に係るものにして江湖の資料として其價值大なるを信ず、第二、第三章叙述の品目に關しても本表を参照せられんことを望む

年計表に使用せる國別名表示例左の如し。

滿一七年十月以降の滿蒙を指す、支滿一舊滿蒙、支北一支那北部、支中一支那中部、支南一支那南部、關一關東州、香一香港、印一英領印度、海一海峽殖民地、ボ一英領ボルネオ、蘭一蘭領東印度、フ一佛領印度支那、ソ一露領亞細亞、比一比律賓、暹一暹羅、ア一アデン、細一其他亞細亞諸國、英一英吉利、佛一佛蘭西、獨一獨逸、白一白耳義、伊一伊太利、瑞一瑞西、澳一澳地利、チ一チエコスロベキア、和一和蘭、典一瑞典、諾一諾威、露一露西亞、波一波蘭、西一西班牙、丁一丁抹、希一希臘、土一土耳其、葡一葡萄牙、歐一其他の歐洲諸國、合一米國、加一加奈陀、北米一其他北米諸國、墨一墨西哥、玖一玖馬、サ一サルウアドル、パ一パナマ運河地帯、中米一其他中米諸國、秘一秘露、智一智利、亞一アルゼンチン、伯一ブラヂル、ウ一ウルグアイ、南米一其他南米諸國、埃一埃及、阿一南阿聯邦、東一東部アフリカ、弗一其他のアフリカ諸國、濠一濠洲、新一新西蘭、布一布哇、其他一以上に國名なきもの、工一保税工場、指一指圖式

昭和八年十一月

大阪府立貿易館

昭和七年 大阪貿易彙纂

目次

第一章 總說	一
第一節 本年度貿易概勢	二
a、國別貿易概況	四
b、品種別貿易概況	三
第二節 主要相手國別貿易概況	六
a、中華民國(香港を除く)	六
b、滿洲國(關東州を含む)	三
c、英領印度	三
d、蘭領東印度	二
e、比律賓	六
f、海峽殖民地(英領馬來)	二
g、英	三
h、獨逸	三
i、佛國	三

第二章 重要品輸出概況

j、米	三
k、カナダ	四
l、アメリカ	四
m、濠洲	四
食料品	
小麦粉	四
精糖	四
寒天	四
罐詰及罐詰食料品	五
原料及原料用製品	
薄荷	五
除虫菊	五
樟腦	五
硬化油	五
生糸	五
綿糸	五
全製品	
綿織物	六

**第三章 重要品輸入概況**

絹織物	.....	三
人絹織物	.....	六
綿毛布	.....	六
莫大小製品	.....	七
洋紙	.....	七
陶磁器	.....	七
硝子及同製品	.....	七
珉瑯鐵器	.....	七
護謨製品	.....	七
自轉車及同部分品(ゴムタイヤを除く)	.....	七
鈕釦	.....	八
帽子	.....	八
玩具	.....	八
刷子	.....	八
大米	.....	八
小麥	.....	八
大豆	.....	八

**原料品及原料用製品**

牛肉	.....	八
牛	.....	八
採油原料種子	.....	八
牛皮及水牛皮	.....	八
革類	.....	九
生ゴム	.....	九
硫安	.....	九
棉花	.....	九
麻類	.....	九
羊毛	.....	九
磷石	.....	九
燐石	.....	九
木材	.....	九
油槽	.....	九
油	.....	九
パラフィンワックス	.....	九
苛性曹達、曹達灰及天然曹達	.....	九
漆	.....	九
硝子板	.....	一〇
合成染料	.....	一〇
毛糸	.....	一〇
パール	.....	一〇
石油	.....	一〇

貝殼	.....	一一三
鉄	.....	一一三
鉄(條竿、アングル型)	.....	一一四
鉄力板	.....	一一五
鐵板(電鍍せざるもの)	.....	一一五
ワイヤロッド	.....	一一六
錫	.....	一一七
錫(塊及錠)	.....	一一八
鉛	.....	一一八
鉛(塊及錠)	.....	一一九
アルミニウム(塊、錠及粒)	.....	一二〇
亜鉛(塊、錠及粒)	.....	一二〇
全製品	.....	一二〇
毛織物	.....	一二三
紡績機械	.....	一二三
金屬工及木工機械	.....	一二四
自動車及同部分品	.....	一二四

### 大阪港輸出入年計表 神戸港輸出入年計表

## 昭和七年 大阪貿易彙纂

### 第一章 總說

昭和七年の世界經濟界を概観するに久しく恐慌過程を辿り來たりし世界各國も下半年に入るに及び大體諸悪を出し盡したかに見られたのとローザンヌ協定、英帝國會議將又米國の信用政策等々の應急注射の施さるゝありて主要生産國における株價、物價の騰貴、生産活動の活入れに成功、於此か世界經濟は聊か好轉するかに見られたのであるが、所詮今日世界不況の痛をなす戰債問題解決に對するローザンヌ協定は未だ根本的の手術を殘せる感あり、自然この大切開を見ざる現在に於いて爾後此問題は幾度か經となり緯となつて世界經濟に累をなすべく隨つて世界恐慌の解消は尙前途遙遠なるを思はしめるもので要之七年の世界經濟界は一時的、應急的姑息手段による惡の表面化防止に或程度の成功をなしたに過ぎざるもの、好轉とは言ひ難き事は景氣の結果を反影すと見らるゝ國際貿易の萎縮甚だしかつた事實からでも察知し得る所であらう。

即ち世界の五大貿易國たる日、英、米、獨、佛の對外貿易を見るに特殊事情の存在した日本の夫を除いては英、米佛、獨共も何れも前年に比し其の減少が著しいことを別表にて知らるゝ通りで殊に輸出が輸入に比し其の減少率の高い事は世界恐慌の尙根強き事を語つてゐるものではあるまいか。

七年世界五大國輸出入額				
	七年輸出	前年對比(%)	七年輸入	前年對比(%)
日	本(百萬圓)	增 三三・九	一、四三二・五	增 一五・八
英	國(百萬磅)	減 八・三	七〇〇・一	減 一八・四
米	國(百萬弗)	// 三三・三	一、三三〇・〇	// 三六・一

獨逸(百萬マール)	五、七四二・〇	〃	四、〇三二	四、六九九・〇	〃	三、〇〇七
佛國(百萬法)	一九、六三三・〇	〃	三、三三三	二九、八三六・〇	〃	二九・三

### 第一節 本年度貿易概勢

金再禁止の目的の一つは實に貿易改善にあつたと思はれるが其の結果はどうであつたか之を實際數字に見るに大藏省發表によると七年の本邦(内地及樺太)對外貿易は輸出十四億一千萬圓、輸入十四億三千萬圓計二十八億四千萬圓で前年の夫に比べて輸出二億六千四百萬圓(二割三分)、輸入一億九千五百萬圓(一割五分)各々増加を來たし殊に輸出の増加著しかった關係から入超額は僅かに二千百萬圓餘となり前年の夫より減すること實に六千七百萬圓餘(七割六分)といふ成績で全年を通じて見る限りわが對外貿易は近年稀に見る好成績裡に終つたものと言ひ得るが、かかる貿易の好調を見るに至つたのは實に下半年後の事であつて上半期の夫は輸出不振に反し輸入の著増で全く寒心に堪えざるものがあつた。

本邦對外貿易額(單位千圓)		増減(△)		%	
年	額	増減	率	年	率
七	一、四〇九、九四二	△	一三・九六〇	七	三三・七
六	一、四三三、四四三	△	一五、七六〇	六	二五・八
五	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	五	一九・三
四	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	四	一九・三
三	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	三	一九・三
二	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	二	一九・三
一	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	一	一九・三
計	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	計	一九・三

計 出 入 超 一、六三七、一五〇 一、〇二一、五〇三 三三、六四八

本年のわが對外貿易好轉の因は下半年後に始まること前述の通りで即ち上半期の貿易を見るに輸出五億四千九百七十四萬七千圓、輸入八億一千六百五十一萬九千圓差引入超二億六千六百七十七萬二千圓で、前年同期に比べ輸出は二千七百六十六萬一千圓減なるに拘らず輸入は反つて一億二千五百七十六萬七千圓といふ激増を示し居り結局前年に比し入超増加額は一億五千三百四十二萬八千圓といふ尨大な數字を示し金再禁止の効能果して奈邊にあるかを疑はしむるに至つたのであるが此蓋し上半期は時恰もわが入超期に當りたと金再禁止直後だけに再禁止前に逃避せる資金の貨物化されて歸還するものが多かつた事並對外爲替軟調を見越しての輸入がために一層刺戟されたと見らるるに反し輸出においては世界的一般不況の持績で諸外國其關稅障壁を高め鎖國傾向を帯び居る處へ爲替動搖の不安から海外より受注が見送られた事、或は内地財界、産業界の萎靡沈滞が間接的に輸出不振の材料となつた事があるが就中本年初の上海事變の勃發は昨秋の滿洲事變來神經を昂め居る支那人の排邦品熱に油を注いだ結果となり輸出大市場たる支那への輸出が殆ど不能に陥つた等の關係からであつて上半期の輸出貿易は全く慘澹たる有様を示したのであるが此の形勢は下半年に入るとともに一變し見越輸入の一段落着けると、圓價低落、内地關稅改正等から輸入漸減傾向を示したる處へ輸出は上半期の反動もあり殊に爲替軟調による海外競争力の強化から上半期末より漸次勢力を盛り返し主要諸國の關稅線突破、新舊市場への猛進の結果下半年期の狀勢は著しく好轉輸出八億六千二百四十五萬五千圓、出超二億四千五百三十萬三千圓を見るに至り上半期に憂へられた、かの尨大なる入超額を殆ど相殺するの好成績で此において金再禁止の目的の一斑たる貿易尻の改善も或程度迄達せられたと言ひ得よう。

本邦貿易額(單位千圓)		増減(△)		%	
年	額	増減	率	年	率
七	一、四〇九、九四二	△	一三・九六〇	七	三三・七
六	一、四三三、四四三	△	一五、七六〇	六	二五・八
五	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	五	一九・三
四	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	四	一九・三
三	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	三	一九・三
二	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	二	一九・三
一	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	一	一九・三
計	一、三三三、四四三	△	一五、七六〇	計	一九・三

尙これを更に明らかにするため月別の輸出入額を見ると左表の如く輸入は年初來逐月増進六月に入るに及び衰勢に轉ざるに對し輸出はこの頃より漸く挽回し來り月を逐ふとも著しく活況を帯び來れることが知られるもので此の事實は全く上來説き來たつた處を裏書せるものである。

月別貿易額(單位千圓)

月	輸 入		輸 出	
	(七年)	(六年)	(七年)	(六年)
一 月	七〇,五三三	一〇五,三六六	二五,九六六	一〇三,七四七
二 月	八〇,三三二	九一,八二七	二八,三〇五	九八,六三八
三 月	一〇一,〇一九	九六,二二五	一六,五七〇	一〇七,九六五
四 月	九二,七九二	八一,五三三	一四,三三〇	一〇六,九六六
五 月	一〇三,四六四	一〇一,一一一	一五,一八五	一〇八,一六四
六 月	一〇一,七六八	一〇〇,三七七	一一,一三三	一〇五,三〇一
七 月	一一〇,七九九	一〇三,四一六	六,一五三	九三,八四四
八 月	一〇六,六三二	一〇七,七一一	七,三三三	八六,九八五
九 月	一四〇,七四七	一〇一,七三三	九,七七三	九四,〇六七
十 月	一四七,四五六	九七,八七九	九七,七三三	七七,四二五
十 一 月	一五二,八五六	七〇,〇五三	二九,三四四	八〇,九七四
十 二 月	一五二,七三三	八二,七七〇	一〇,六八八	一一,三三六

a 國別貿易概況

更に視角を代へて本年本邦の國別貿易概況を見るに先づ輸出に在りては爲替安を利しての下半年後の大活躍を見たるだけに米國、英領印度、滿洲國、蘭領印度、埃及、濠洲等主要國への増進を始め其他諸國への輸出何れも前年に比し増加を示し減少せるは時局關係による中華民國、香港を除いては僅かに十三ヶ國に過ぎなかつた。

而して本年の輸出を洲別に見ると吾が輸出第一市場たるアジアへの輸出は時局關係に由る中華市場の喪失で大いに案ぜられたのであつたが結果は前年に比べ一億七千二百萬圓餘の増進といふ好成绩を示し依然第一市場たる地位に動搖を來たさなかつたが此全く爲替安を利しての英領印度、蘭領印度及新興滿洲國、其他諸國への吾が綿製品、人絹織物其他雜貨の輸出増進を來たしたためである。

對歐輸出亦約二千二百萬圓の増進であつたがこれが生糸の英、佛兩國への増進に因るべく北米への輸出増加一千五百萬圓も全く生糸關係からで市價昂騰に拘らず米國の輸入が大體昨年と同量を見たに因る。

尙本年わが輸出の特長として看らるゝところは從來比較的閑散市場として忘れられ勝ちの觀あつた中、南米市場への躍進である、勿論金額から云へば未だ少額たるを免れざるも對アルゼンチン輸出の如き前年の夫に倍増するの好成绩を見るに至りこゝにもわが染織工業品の飛躍が見られた。

又對阿弗利加、大洋洲への輸出も夫々二千六百萬圓、二千萬圓の増進を見たがこれ前者は主として埃及への綿布、人絹織物の輸出、後者は濠洲への絹織物、人絹織物、生糸、陶磁器の輸出が振ひしに歸因して居る。

今本年の國別輸出額を前年の夫に對比すれば左表の通りである。

國別輸出額(單位千圓)

洲 別	輸 出 額		増減(△)
	七 年	六 年	
亞 細 亞 洲	六七,六三三	五〇,〇一八	一七,五五五
滿 洲 國	一四,二四八	—	—
關 東 州	二〇,八八四	六四,五四三	△ 四三,六五九
中 華 民 國	一四,一七六	一五,七五二	△ 一,五七六

香港 一八、〇四四  
 英領印度 一九三、四九七  
 海峽殖民地 二五、四九九  
 英領ボルネオ 五一  
 蘭領印度 一〇〇、三五二  
 佛領印度支那 二、三四四  
 亞細亞ロシア 一三、〇六五  
 比律賓 三三、三六二  
 暹羅 八、五八一  
 アデロン 八、三〇七  
 其他 一〇、五八〇  
 歐羅巴洲 三三、七六八  
 英國 五九、六八八  
 佛國 二一、三三八  
 獨逸 九、〇九八  
 白義 四、〇六四  
 伊太利 五、六六〇  
 瑞西 三二一  
 奧地利 五  
 チェコスロバキア 三  
 和蘭 一三、四四五  
 瑞典 一、六二〇  
 諾威 四六五

三六、七五四  
 二〇、三六七  
 一九、二〇〇  
 五  
 六三、四五〇  
 一、七二〇  
 一四、九四一  
 二〇、四三五  
 四、七三  
 四、八〇九  
 七、七三三  
 一〇四、二二  
 五、六六六  
 一六、二〇〇  
 八、四二四  
 二、四三三  
 三、二六  
 四七  
 八五  
 五  
 一〇、三三六  
 一、二四〇  
 三〇九

二、二三五  
 一六  
 一、二五  
 三五九  
 三、七九〇  
 五九  
 二九七  
 四八、八六  
 四四五、三〇  
 一三、〇六七  
 四六八  
 三、三〇一  
 六六  
 六四一  
 三八五  
 三九五  
 四〇〇  
 八〇五  
 四、七〇一  
 六四二

△ 一八、七三三  
 △ 八、二三五  
 △ 六、四三九  
 △ 三  
 △ 三六、八〇一  
 △ 一、八六六  
 △ 一、九三七  
 △ 三、八五九  
 △ 三、四九八  
 △ 三、一七  
 △ 三、四九二  
 △ 六、四九二  
 △ 五、三五六  
 △ 六  
 △ 一、六三三  
 △ 二、四四四  
 △ 一〇二  
 △ 三二  
 △ 三五  
 △ 二、〇〇九  
 △ 三、七〇七  
 △ 二五六

露蘭 一、三九九  
 波蘭 一九  
 西班牙 九二〇  
 丁抹 一四三  
 希臘 三三  
 土耳其 五、九六五  
 葡萄牙 三四四  
 其他 六六六  
 北亞米利加洲 四三、九六  
 米國 四四五、一四七  
 カナダ 八、五三三  
 其他 二五六  
 中央亞米利加洲 五、三三  
 メキシコ 六三八  
 馬 九六三  
 政 三九四  
 サルバドル 五五一  
 パナマ運河地帯 二、五八九  
 其他 三、三三  
 南亞米利加洲 八四  
 秘露 二八七  
 智利 七、五五五  
 アルゼンチン 一、三三〇  
 伯刺西爾

二、二三五  
 一六  
 一、二五  
 三五九  
 三、七九〇  
 五九  
 二九七  
 四八、八六  
 四四五、三〇  
 一三、〇六七  
 四六八  
 三、三〇一  
 六六  
 六四一  
 三八五  
 三九五  
 四〇〇  
 八〇五  
 四、七〇一  
 六四二

二、二三五  
 一六  
 一、二五  
 三五九  
 三、七九〇  
 五九  
 二九七  
 四八、八六  
 四四五、三〇  
 一三、〇六七  
 四六八  
 三、三〇一  
 六六  
 六四一  
 三八五  
 三九五  
 四〇〇  
 八〇五  
 四、七〇一  
 六四二

△ 一八、七三三  
 △ 八、二三五  
 △ 六、四三九  
 △ 三  
 △ 三六、八〇一  
 △ 一、八六六  
 △ 一、九三七  
 △ 三、八五九  
 △ 三、四九八  
 △ 三、一七  
 △ 三、四九二  
 △ 六、四九二  
 △ 五、三五六  
 △ 六  
 △ 一、六三三  
 △ 二、四四四  
 △ 一〇二  
 △ 三二  
 △ 三五  
 △ 二、〇〇九  
 △ 三、七〇七  
 △ 二五六

地域	七 年	六 年	増減(△)
ウ ル ガ イ	四三三	一、五二一	△ 七八八
其 他	二、七〇〇	二、一三六	△ 五七四
亞 弗 利 加 洲	八五、六五五	五八、八六六	△ 二六、七八七
埃 及	四、八七七	三、八三〇	△ 一、〇四七
南 阿 洲	一六、四二八	一九、三三三	△ 二、八〇五
東 阿 洲	一五、七六〇	一〇、八六八	△ 四、八九二
其 他	一一、六四〇	五、八八八	△ 五、七五二
太 洋 洲	四七、三二天	三六、五六一	△ 一〇、七六七
澳 洲	三、八九五	一八、四〇八	△ 一四、五一三
新 西 蘭	二、九五五	一、九六七	△ 〇、九七八
布 哇	六、六六六	五、六三四	△ 一、〇三二
其 他	七三三	五九五	△ 一七八

次いで國別輸入に在りては流石に上半期の爲替不安期に可なり尅大なる見越輸入が行はれたゞけに前年同期に比して各國とも増加せるもの多く減少せるは時局關係による中華民國を始め十七ヶ國に過ぎず而もかゝる減少の因も近く下半期に發したものであることが知られる。

尙本年の輸入を洲別に見るに輸入第一市場だつたアジアよりの輸入は對中華民國輸入が激減せる結果約四千三百萬圓方前年に比し減額となり、ために第一市場たる地位をアメリカに譲るに至つたがこれ對中華民國重要輸入品たる油粕豆類、牛肉、採油用種子、穀等の軒並激減ありしに歸因す。

歐洲からの輸入は前年に比し、約二千六百萬圓許りの増額を見たが此主として英佛よりの機械類、鐵類等の基礎工業用品の輸入が内地産業界の活躍に伴ひ促進されたに因るべくアメリカよりの輸入も亦約一億七千萬圓強の激増を示したがこれ主として米棉の輸入増加に因るもので最近の吾が紡績の推移から殊に輸出部面における綿製品の活躍から當然の歸結と考へらるるもので、この結果アメリカはわが輸入第一市場に上つた。

アフリカ亦埃及棉の輸入増大で約九百萬圓の増加を見殊に從來比較的冷眼視され居た中米諸國よりの輸入が前年の三倍強に上つた事は注目すべき點であらう。

其他オセアニアよりの輸入前年に比し二千二百萬圓餘の増加であつたがこれ濠洲小麥の輸入激増によるもので小麥粉輸出旺盛の反面的結果たると同時に吾が製粉界の所要小麥が漸次加奈陀、米國のものから濠洲小麥に移りつゝあることを表示せるものである。

尙南米よりの輸入は約二百萬圓餘の減少を示したがこれ主として智利硝石の賣行不振なりしに歸因す。

本年の國別輸入額を前年の夫に對比すると左表の通りである。

地域	七 年	六 年	増減(△)
亞 細 亞 洲	四〇、九二二	四九、六三三	△ 八、七一〇
滿 洲 國	三六、〇〇〇	—	—
關 東 州	六、七二九	九〇、一三五	△ 一三、四〇六
中 華 民 國	一〇三、七四六	一四三、六九七	△ 三九、九五一
香 港	九七七	四九九	△ 四七八
英 領 印 度	二六、八六五	一三、一六五	△ 一三、七〇〇
海 峽 殖 民 地	三三、三三八	二、八八九	△ 三〇、四八九
英 領 荷 州 領 地	三、六三三	三、〇九六	△ 五二七
關 領 印 度	四〇、四〇九	四六、〇〇八	△ 五、五九九
佛 領 印 度 支 那	五、六三三	六、三六一	△ 六七八
亞 細 亞 露 西 亞	三、〇九二	三〇、八八一	△ 二七、七八九
比 律 賓	九、七三四	八、九八八	△ 七四六
暹 羅	二、一九八	六、七五二	△ 四、五五四





布 其  
他 哇

五三三

二六九

一一一

備考 滿洲國は昭和七年十月以降ノ數字ニシテ其以前ノ數字ハ中華民國中ニ含マル

### b 品種別貿易概況

輸出重要品四十六品につき本年の輸出状況を見るに前年に比し數量において増加せるもの二十品、價額において増加せるもの三十三品であり、尙數量價額ともに増加せるもの十七品を數ふるに至つた事は單なる爲替安以外の何物かと考へらるものである。

因に數量は増加しながら價額が減少したものは、或は價額増加しながら數量減少したものの各々二品を見た。

重要輸出品四十六品中三十三品迄輸出額増加せることは全く稀らしき成績であつて就中價額増加の著しきかつたのは綿布の約九千萬圓を筆頭に生糸の二千七百萬圓、綿糸の一千三百萬圓、絹人絹布の二千八百萬圓、小麥粉の一千萬圓、メリヤス製品の五百七十六萬圓、靴具の五百三十萬圓等であるが此綿糸布、人絹織物、メリヤス製品等は英印滿洲國其他南洋諸國、アフリカ濠洲方面への輸出増加に因るべく生糸の増加は英佛兩國の買付状況を呈せること、靴具は北米、英印に激増せること、小麥粉は滿洲國の輸入激増に歸因す。

而して輸出額前年に比し著減せるものに精糖の七百萬圓を筆頭に紙類六百九十七萬圓、帽子の二百八十萬圓、米及綑の一千百萬圓があるがこれらは主として對支關係品なる關係上時局の影響を受けかゝる結果を見たものと思はる。尙帽子の輸出減は米國財界不振事情を移したものに外ならない。

重要輸出品四十六品の本年の輸出數量、價額を前年の夫と對比すると左表の通りである。

### 重要輸出品種別表

品名	七年	六年	増減	七年	六年	増減
米	六、二七〇	三、七二一	二、五四九	四、七六千圓	一五、八七千圓	(一)一、〇九千圓
豆	五、四一〇	八、七三六	(一)三、三二六	五、九〇五	五、〇八〇	(十)八二五

小麥	三、六九四	二、五三三	(十)一、一六一	三〇、五九九	九、五七七	(十)二一、〇二二
精糖	一、三九一	二、六三三	(一)一、二四二	七、七七七	一四、八六三	(一)七、〇八六
茶	二、三三三	一、九二〇	(十)四一三	八、一三三	八、一三三	(一)〇
水産物	八、五〇〇	六、九〇〇	(十)一、六〇〇	七、七五七	一〇、一七七	(一)二、四二〇
寒天	二、三三三	二、〇〇〇	(十)三三三	三、一六六	三、四二六	(一)二五〇
雜詰食料品	五、八七五	四、三三三	(十)一、五四二	三、七四四	一八、九四八	(十)一五、二〇四
麥酒	六、八二二	五、六三三	(十)一、一八九	四、八五五	三、〇五五	(十)一、八〇〇
植物性脂肪油	三、八四四	三、四三三	(十)四一一	五、二九七	五、二九七	(一)〇
薄荷油	五、四三三	三、五四四	(十)一、八八九	一、二六〇	八、六八	(十)七、四二〇
魚油及鯨油	六、〇〇〇	二、七三三	(十)三、二六七	三、三三三	一、九四四	(十)一、三八九
石鹼	—	—	—	一、一九七	六、九三	(十)五、七三六
除虫粉	九、六六六	四、八五五	(十)四、八一一	四、七五三	一、六八一	(十)三、〇七二
樟腦	二、三三三	三、五五五	(一)一、二二二	三、五五一	二、九四五	(十)五五六
薄荷	四、二四四	三、七〇〇	(十)五四四	三、六九〇	二、九八四	(十)七〇六
燐寸	四、〇九九	七、五七三	(一)三、四七四	九、九	一、四〇九	(十)八、五八二
綿糸	二、六八八	九、一七七	(一)六、四八九	二、五四七	八、五二一	(十)六、九七四
絹糸、眞綿、玉糸等	六、九六四	一〇、九三三	(一)三、九六九	一、二四二	二、三九九	(十)一、一五七
生糸	五、四三三	五、五九三	(一)一六〇	三、八三三	三、五五三	(十)三、二八〇
綿織物	二、〇三三	一、四三三	(十)六〇〇	二、八七三	一、九七三	(十)〇、九〇〇
毛織物	—	—	—	四、四三三	一、三六六	(十)三、〇六七
絹織物及人絹織物	—	—	—	二、〇八六	一、七七九	(十)一、三〇七
綿ブランケット	二、七二二	三、一四四	(十)四二二	一、七〇九	二、〇一四	(十)二、三〇五
綿タオル	二、五七七	一、三三三	(十)一、二四四	三、八二四	二、〇一四	(十)一、八一〇

一三

絹製手巾	六二、八九打	八五、九四七打 (一)	九三、〇五八打	一、四〇三	一、六三一	(一)	三六
メリヤス製品	一三、七二、〇三〇	一〇、五五、四八三〇	(十) 三、一四五、五九〇	二六、九三五	二二、一七六	(十)	五、七五九
帽子	二、〇三、一九五〇	二、二七、六四九〇	(一)	一四、四五四	七、七二三	(一)	三、八二八
鈕釦	—	—	—	五、八六三	四、六七五	(十)	二、一八八
身邊裝飾用品	—	—	—	五、四三五	四、三六一	(十)	一、〇七四
紙類	九四四、五三擔	一、四一三、九三三擔 (一)	四一九、四〇三擔	一四、〇三三	三〇、九九五	(一)	六、九七三
石炭	一、三五、九二英噸	一、五五、八〇英噸 (一)	一四九、八三七英噸	一三、四五	一五、〇〇九	(一)	一、五五八
セメント	七、四三六、三九擔	七、四三六、三九擔 (一)	二、〇二擔	八、五四六	九、〇九〇	(一)	五、四六
陶磁器	—	—	—	三、九三七	一、九、三〇七	(十)	三、六三〇
硝子及同製品	—	—	—	九、三六二	六、五三四	(十)	二、七四八
鐵	一、五九、八二擔	一、三三〇、四九擔 (十)	六九六、三三擔	三、二七六	七、四二〇	(十)	四、八六六
眞鍮	二五、六三〇	一〇、一九〇 (十)	三、七二〇	三、七四〇	三、〇〇四	(十)	六、七六
鐵製品	—	—	—	一四、一九三	一〇、二四六	(十)	三、九四七
ゴムタイヤ	六四、〇七擔	四八、二七擔 (十)	一五、八〇五擔	四、三七六	三、八五八	(十)	五、〇〇
機械及同部分品	—	—	—	一〇、九四三	一三、六四一	(一)	二、六九八
木製帽用眞田	—	—	—	二、三三九	九、九五四	(十)	一、三三五
洋傘	—	—	—	五、六八	一、八二二	(十)	一、四〇七
ブラッシュ	—	—	—	二、九六	三、六六	(十)	二、〇〇
ランプ及同部分品	—	—	—	二、七五四	七、七四	(十)	四、九七
靴	—	—	—	一五、二九	九、八三四	(十)	五、二五

も數量減少したるもの八品であつた。

年初爲替不安期に尨大なる見越輸入を見察せられた輸入貿易も結果は前記の如く前年と比しさまでの激増を見ることなくして終つたのは實に下半年後の輸入著減に負ふ所のものにして増加せるは何れも輸出原料品として輸出の繁榮と必然的關係にあるものなることが知らるゝもので輸入價額前年に比し特に増加甚だしかつたのは小麦の一千六百六十萬圓増、棉花の米棉買付増で一億五千萬圓増、歐米よりの輸入増による其他機械類の一千萬圓、其他鐵の一千五百七十萬圓増、蘭印よりの輸入増で鑛油の一千二百八十萬圓増であり著減の甚だしかつたのは砂糖の一千二百萬圓減、硫安の八百八十萬圓、毛糸の七百三十萬圓減等であるが此等は内地斯業の發達せる今日其の海外依存度は年と共に薄弱となりつゝあるもので輸入の減少は當然の經路を辿れるものと見るべく殊に本年の如き爲替軟調時において其の激減は蓋し自然の歸結であつたといへよう。

又米材、沿海材等輸入材も内地不況から八百三十萬圓の減少、油粕亦九百七十五萬圓の激減を見た。

重要輸入品種別表

品名	數量		價格	
	七年	六年	七年	六年
米	二、四六、九四擔	二、九七、二四擔 (十)	四九、六三三擔	六、九七千圓 (十)
及	—	—	—	—
小麥	二、四四、四四〇	二、〇三、九三〇 (十)	四九、五七三	三、九三六 (十)
豆類	九、九二、三三〇	一一、九七、五三〇 (一)	八六、三〇〇	三七、三四九 (十)
砂糖	六七一、二九九	三、〇五、二五〇 (一)	六三、八七〇	一五、六〇三 (一)
探油用原料	二、四四、三九〇	三、二八、五三〇 (一)	五八、七七三	一四、五四九 (十)
牛・肉	一、七三、六九〇	三、三四、七六〇 (一)	一六、一五七	八、七五四 (一)
鳥卵	一、八〇〇	一、三七、六八〇 (一)	一五、八五〇	二、九二〇 (一)
皮類	二、六六、〇五〇	二、六八、〇五〇 (一)	二、〇四〇	七、八九七 (十)

革類	一、五三〇、五四斤	二、三九二、二四斤 (一)	七六、〇七〇斤	三、六一八	四、三四八	(一)	七三〇
油類	—	—	—	九八、五八	八五、七八八	(一)	三、八〇一
牛脂	一七八、五七七擔	二五、〇三三擔 (一)	三、四四四	二、四八二	二、四八一	(一)	二七
生油	九三、三五七	七三、四四 (十)	三、四八九	一五、九九	一三、一八三	(十)	二、八〇六
荷性曹達、曹達	一、四三、四九七	一、五九、八六二 (一)	三、五五、二二三	六、三五	八、一五〇	(一)	一、七六五
灰及天然曹達	—	—	—	—	—	—	—
粗製硝酸曹達	三九五、九五五擔	五八三、三五擔 (一)	一、八七、二七〇擔	二、〇四九	二、六六一	(一)	六四二
硫安	一、九七八、九六六擔	三、七五、七九九擔 (一)	一、七五、六八二擔	七、〇五	一五、八六一	(一)	八、八六
合成染料	三、三三、二七斤	三、三九、六七斤 (一)	六、五五四斤	九、〇六六	七、二八三	(十)	一、七六三
棉花	三、七四〇、一五六擔	二、一五、八六六擔 (十)	一、五三、三三〇擔	四、七、四三	二、六、二七三	(十)	一、五、三三八
其他植物纖維	一、三四四、八六六	一、三三、九七七 (一)	二、七、一五二	一七、〇三	一三、六九八	(十)	三、四〇四
羊毛	一、五四三、九二七	一、四三、四五 (十)	二、三、五八七	八六、五九九	八六、一四六	(十)	一、四二二
毛糸	二、四〇四、七五五斤	七、二四、四七斤 (一)	四、四、七二五斤	五、二二	二、四九	(一)	七、三六
綿織物	一〇、〇九、七三三方碼	二、六三〇、〇三三方碼 (一)	五、〇、二八八方碼	四、一二	四、三七五	(一)	二、四四
毛織物	—	—	—	—	—	—	—
製紙用パルプ	一、七三、六四四擔	一、七三、七三三擔 (十)	九、〇三三擔	一〇、四八	九、九九五	(十)	四、九五
印刷料紙	五〇、二二三	六三、九〇〇 (一)	九、七七七	一五、三三	二、八四〇	(十)	三、四八九
燐石	九、三三、三三七	六、八六、九三三 (十)	四、四、七四	一一、〇九九	七、二二三	(十)	三、八八五
石炭	二、六七、三三三噸	二、六五、一四四噸 (十)	三、七、七八噸	二七、三六	二八、二六九	(一)	九二
燐	二六、七六六、九八擔	二七、〇五四、三三三擔 (一)	二、七、四〇五擔	一六、四九九	一四、五七一	(十)	一、九〇八
鉄	七、四〇七、〇六七	六、六五七、四四五 (十)	七、四九、六〇	一一、一四	一一、三三九	(十)	九四五
レール及フイ	九七、一九九	一〇四、六二七 (一)	七、四三三	八七五	五九九	(十)	三、四〇
ジュアプレート	—	—	—	—	—	—	—
其他ノ鐵	一三、四一四、九三三擔	九、五八三、〇〇八擔 (十)	三、八、三、九五五擔	五、〇二七	三、三三三	(十)	一、五、七六四

一六

アルミニウム	七九、八五五擔	四、四七四擔 (十)	三、四一九擔	五、〇四四	二、一八一	(十)	二、八六三
鉛	九三、三三三	八五、二五七 (十)	二、九、二〇八	九、九七	八、二三八	(十)	一、八四五
銅	四、九二	二、五八〇 (十)	二、五二	一四三	七	(十)	六四
錫	五七、二七六	五三、三六八 (十)	三、九〇八	五、五九	三、五八	(十)	二、四六
亜鉛	三、四八、四〇九	三、四一、五五七 (十)	六、八五四	四、六四	三、〇九四	(十)	一、五三〇
懐中時計及同部分品	—	—	—	二、八五六	二、四三	(十)	三、八三
自動車及同部分品	—	—	—	一、四、八二	一、六、三九	(一)	一、五〇八
發電機類及變壓機	四、八、六三三斤	一、六三、〇三三斤 (一)	一、二、四、四〇四斤	一、七五五	二、三三	(一)	四〇七
其他機械及同部分品	—	—	—	五、八八八	四、七四八	(十)	一〇、〇〇七
木材	—	—	—	三、五、〇九	四三、三〇	(一)	八、三三
穀類	二、四四、四九七	四、〇〇、四五七 (一)	一、六、四、九六六	六、一三	七、九二七	(一)	一、七五
油	一三、三六、四〇	一、九、六〇、〇八 (一)	一、七、三、三、五七	三、四、五九	四、四、四九	(一)	九、五〇

要之本年のわが對外貿易は假令爲替安の關係からとするも世界貿易大萎縮の只中にありて本邦のみ獨り輸出入とも前年に比し可成りの著増を示し殊に輸出の猛進から對外的には邦品の聲價高揚に努め對内的には貿易尻の大改善と所謂輸出景氣なるものを(其の永續性は疑問としても)作り出すに至り沈衰しきつたわが産業界に多少ともの刺激劑となつた事實を想起するときは兎角の評はあらむも、ともあれまづ良好であつたと言ひ得よう。

只然らば本邦貿易の將來は如何、尙今日のこの情勢を續行するや否やの問題であるが此に對しては一抹の不安がある、蓋し不況甚だしき現時に於いて邦品の猛進は海外諸國市場の蹂躪であり、其だけ邦品進出に對して關稅引上其他の鎖國的諸手段が採用されるは明らかであり現に度々採らるゝ所であり一面ブロック經濟化の擡頭を益々刺激するもので其間に處して進むには多大の決心と覺悟を要するや論なき所で八年のわが貿易が如何に展開するやは興味ある所であるが其は此處に述べる限りでない。

### 第二節 主要相手國別貿易概況

#### a 中華民國 (香港を除く)

わが隣邦として邦品の大消費市場たる當國も年中行事たる内訌、共匪の跳梁等に加へ前年秋の長江沿岸大水災の餘傷未だ全く癒えざるに本年更に漢口の水災あり農民の疲弊と政府の赤字難は平行して起り對外貿易は輸出四億九千三百萬兩、輸入十億六千二百六十萬兩と夫々前年に比し四割五分、二割六分の激減を見るに至つた。

而して本年の入超額五億六千九百六十萬兩は實に六十年來の最高レコードで大正八年の最低入超額一千六百萬兩に比べると實に三十五倍に達して居るが、この減少を來たした因子としては世界不況によること勿論であるが此の外に上海事變、滿洲國獨立、長江の水害等が考へらる。

本邦との貿易關係を見るに大藏省統計は九月迄の滿蒙貿易を含むで居るのであるがこれによると輸出一億四千七百七十八千圓、輸入一億二百七十萬六千圓で前年に比し夫々千四百五十七萬三千圓、四千二百九十五萬一千圓の減を示して居る。

然しながらこの數字は本年九月迄の滿蒙貿易數字が含まれ居ること既述の如くで滿蒙關係を除いた北支、中支、南支の數字を見ると左表の如く輸出計一億二千九百四十四萬九千圓、輸入七千七百七十七萬六千圓で前年に比し夫々一千四百四十二萬七千圓、二千六百五十七萬三千圓の減少で全年を通じて見る限り輸出は上海事變、排日貨運動のため激減を豫想されたに拘らず實際減少せるは僅々一割足らずを示して居るがこれ本邦品の支那における地位を語るものであらう。

尙輸入は二割五分の減を示して居るがこれ當地の政情不安、爲替關係並内地產業界の不振に因るものと思はる。

輸 出	輸 入
七年	七年
六年	六年

北支	七五、五五五千圓	五二、七四六千圓	三六、八三十三圓	四七、六四三圓
中支	五五、六三三	八八、四四三	三三、六六九	四八、二〇三
南支	二九	三、六八五	五、六七四	七、九〇四
計	一三九、四四九	一四三、八七六	七二、一七六	一〇三、七五〇

然しながら地方別に見るときは流石に上海事變の影響が可成り濃厚に表はれ居ることは輸出において中支、南支の激減が之を物語つて居る。

主なる輸出入品を見ると左表の通りである。

輸 出	七 年		六 年	
	輸出	輸入	輸出	輸入
小 麥 粉	一、五八五、三三三	八、九八八千圓	一、六八四、七五三	七、三三〇千圓
精 糖	五〇二、一九六	二、八八三	一、九八四、五九六	一一、四四三
水 産 物	五三三、〇六二	二、五四五	三三九、七六六	二、六五四
麥 酒	二〇、六九八	一、四九七	七、三四九	六、二八
綿 糸	一一、〇九三	六、九三	六、四二三	四、八九
綿 織 物	一九五、六三三	三、八三九	二三元、四五千	四三、〇七三
紙 類	三九四、三七八	五、二七二	九〇〇、〇六六	一三、八二五
石 炭	四五、一六〇	三、七七一	八二〇、四八八	七、四六六
セメント	四七二、三六八	五、九四	三六七、五九三	四、八四
陶磁器	—	五、五四	—	六、一七
硝子及同製品	—	八、八	—	一、〇四六
鐵 製 品	三六、七六六	一、七三七	四四、四三三	二、二八四
鐵 製 品	—	一、四六	—	一、六三三

ゴムタイヤ  
機械及同部分品  
木材  
ランプ及同部分品  
其他共全國計  
内阪神兩港

七年  
1,600  
3,896  
2,375  
643  
141,764  
112,100

六年  
1,339  
6,833  
2,331  
631  
155,750  
107,001

入

豆類  
採油用原料  
牛肉(生)  
皮類  
棉花  
其他植物纖維  
石炭  
鐵  
鋁  
鉛  
油  
其他共全國計  
内阪神兩港

七年  
3,477,999擔  
1,195,577  
93,099  
79,425  
53,598  
298,699  
426,755噸  
9,877,469擔  
1,032,499  
2,199,901  
4,230,333  
1,017,747  
426,232

六年  
4,632,366擔  
2,098,300  
273,156  
106,699  
73,152  
382,924  
351,647噸  
10,484,121擔  
1,295,583  
3,877,022  
10,933,334  
1,516,697  
70,822

備考 本統計數字ハ七年ハ九月迄、六年ハ全年ノ滿蒙貿易數字ヲ含ム  
阪神の輸出は前表の如く七年は反つて前年に比し三百二十萬圓餘の増加を見せて居るがこれ北支への増加による。

b 滿洲國 (關東州を含む)

一 昨秋の滿洲事變を契機として三月其の誕生を見た新興滿洲國はわが朝鮮と一衣帯水の間に接し國防的見地からして極めて重要地位にあるのみならずわが工業原料品の供給地として將又工業生産品の好販路として今後益々密接なる關係を招來すべき地域なること世上周知の所即ち此處に一項目をなす所以で七年の滿洲國の對外貿易を見るに上期は前年下期に重大政治變革を見たあとだけに不振を免れなかつたが下期に入るに及び大體國內治安の回復せりと幣制の確立、銀價高、特産物の出廻り好況、一般購買力の増加等の諸原因から前年に比し頗る活況を呈し昭和五年來沈滞裡にありたる貿易も漸く生色を見た。

即ち當國貿易の過半を占むる大連を中心とする關東州の貿易月表につき觀るに輸出三億五百六萬圓強、輸入二億七百五十八萬圓超九千七百五十萬圓で前年に比し輸出五八%、輸入一一二%の激増を見た。而して輸入のかく激増せるは新國家成立による生産建設材の増加も考へらるゝが亦事變による物資窮乏の補充として直接消費用品の輸入甚しきを見た事に歸因して居る。尙本邦との貿易關係を見るに輸出一億四千六百五十三萬一千圓、輸入一億二千八百二十九萬圓にして前年同期に比し輸出は六千八百一十一萬五千圓の激増を見たが輸入は反つて三百八十二萬二千圓の減少であつた。而して輸入のかく減少せるは爲替安と内地農村疲弊による豆粕の輸入著減せるによるべく又輸出の増加は爲替安の外に當地の事變來物資窮乏を續けたると下期後の特産物出廻り好況を見たる事等に原因せりと見るべきであらう。本邦よりの主なる輸出入品は左表の通りである。

輸 出  
小麦粉  
水産物  
精糖及米砂糖

七年  
2,627,373擔  
233,957  
879,937

六年  
1,453,000  
11,110  
5,334

清酒	三七,五三石	二,五六千圓
麥酒	二六,〇八ク	一,〇二七石
蔬菜及果實	一,八八〇	二,二〇六ク
罐詰食品	九七九	一,四八二
其他飲食物及煙草	三,〇〇一	四〇九
化粧石鹼	六六三,八四打	一,六〇四
綿糸	二四,五四擔	三三三
絹織物	一,六〇五	五四四
人絹織物	六八五	三三三
綿織物	五二〇	三三三
紙類	二六四,五二擔	九,七六
書籍及印刷物	一,〇三三	二,二四四
其他ノ紙製品	一,五七八	九四三
セメント	四〇,四三擔	一一五
陶磁器	八四四	五七四
鐵器	一,二九四,九三擔	二,七五五
銅線	三七,五〇ク	一,四八五
絕緣電線	二二,三四ク	七七〇
鐵製品	九五三	一,四八五
學術器具	二,八九三	一,七三二
機械類	二,六九四	四,三八〇
木材類	四,四八	五七三
木製品	七五六	五七三
製材	五七三	三五〇

一一一

ランプ及同部分品	六二八	七三二
其他共全國計	一四六,五二	七七,四一六
内阪神兩港	九〇,八九七	四七,七六
大豆	七,七九,四九擔	二七,八二七千圓
其他豆類	一,二六三,九五ク	六,〇五三
胡麻子	七五,五七七ク	五六七
牛肉	一,四八三	九二七
鹽類	二,三三三	二,五一〇
皮類	六〇四	九〇一
油類	三,〇〇〇	二,三九〇
製藥類	一,〇〇〇	一,二九三
石炭類	一九,八八一	一八,九五二
銑鐵類	八,八八二	七,二八一
銃類	五,三七四,六〇五擔	四,〇三五,七八擔
豆類	三五四,三六ク	四八二,一三ク
其他共全國計	一〇,四四三,六〇七ク	一七,一八,九三ク
内阪神兩港	三,八九八	三八,〇五四

英領印度

常國年中行事の一たる國民會議派の反英運動は七年も依然として其の繼續を見たるが政府の強硬方針のため政情辛らうじて安穩なるを見たのであつたが世界不況の持續による棉花、小麥、黃麻の世界的需要減は農民の購買力を著し

く削減し輸出入貿易に響き即ち輸出十三億八千八百萬ルーピー、輸入十三億三千六百萬ルーピーと前年に比し夫々一割二分、一割の減少であつた。

而して政府は綿業保護の目的から八月三十日英品を除く輸入綿布に従價五割の關稅を課するに至つたが之全く本邦品進出に惧をなした英國の策動する所に外ならなかつた。

尙經濟界一般的に拘らず印度の輸入が前年に比し一割程度の減少に止まつたのは同年に其の包藏する尨大なる金の輸出がありたる結果である。

我が對印貿易を見るに輸出一億九千二百萬圓、輸入一億一千七百萬圓差引七千五百萬圓の出超を見るに至つたが日印貿易況において本邦の受取勘定を見るに至つたのは實に日印通商條約締結來の事にして之全く爲替安を利用しての本邦品の猛進にあつたものと思はる。

主なる輸出入品は左表の通りである。

輸 出

品名	七 年		六 年	
	担	千圓	担	千圓
麥	一〇、三五七	六、九四	七、五五	六、五〇
棉 織 物	六、二九九	九、七三	四、四〇	六、二七
綿 織 物	一三、九六	一四、三四	四、五六	五、五九
絹及人絹織物	六四、六五	八〇、六五	四〇、四二	四九、八六
綿 織 物	—	五九二	—	六三
メリヤス製品	五〇〇、四三打	三、九七七	二五、八七打	二、五三
帽子	三、五〇、六六	六、六九九	一、八四、四九	四、三六
鈕 釦	四七四、六四	八九九	二八、三六	三、九〇
其他共全國計	—	六三六	—	四九七
其他共全國計	—	—	—	三二九

輸 入

品名	七 年		六 年	
	担	千圓	担	千圓
身邊粧飾用品	—	二、〇七	—	一、四三
セメント	一、七二、三九	一、〇七	八七九、六八	一、〇三
陶 磁 器	—	三、四三	—	一、三九
硝子及同製品	—	四、〇六	—	二、三九
眞 鍮	一〇四、二九	二、九〇	四三、〇一	一、一五
鐵 製 品	—	三、三三	—	一、七三
機械及同部分品	—	九〇〇	—	四七
木 材	—	一、五〇	—	一、七三
ランプ及同部分品	—	九〇九	—	三〇九
玩 具	—	一、四六	—	一一
其他共全國計	—	一九、四九	—	二〇、三六
内阪神兩港	—	一四八、五六	—	八四、三九
豆 類	三六〇、四三	一、三二	三三二、四二	八二
採油用原料	二〇、二八	七八一	九六、六三	五八
革 類	八五、九四	一、四八	八九四、四八	一、七六
棉 花	二、七九、八四	九二、四七	四、八〇、三五	二二、三三
其他植物纖維	二九八、八五	三、六九	三〇〇、九五	一、九五
鐵 錠	一、三三、三九	一、〇七	八二、四九	一〇八
鉛 錠	一、九四、三〇	三、〇二	二、五〇、一七	三、六六
油 槽	一、八三、六二	一、八七	一、四六、七三	一、三三
其他共全國計	六二、〇八	二、〇四	三〇八、二四	七八九
其他共全國計	—	二一六、八五	—	一三、一五



### d 蘭領東印度

農業國として、原料生産國の一員としての當領は世界不況の持續に一段の憊を見たものである。産業界の不振から業界の淘汰作用は續々行はれ、其後に來れる國民の窮乏と購買力の低下とは當國政府の赤字財政と對外貿易の萎微退嬰を招來したに過ぎなかつた。

而してこの間あらゆる挽回策は採られたが傾ける大勢を戻すべくもなかつた様である。七年の對外輸出五億七千九百八十萬盾、輸入四億九百二十萬盾で前年に比し夫々二億一千五百四十萬盾、二億七十萬盾の著減であつた。

尙當地住民の購買力の低下は自然高き歐米品から安き本邦品に向ひ來たり邦品の輸出は爲替安を利しての飛躍的發展を見た。

即ち本邦との貿易額を見ると輸出一億圓、輸入四千萬圓で前年に比し後者の六百萬圓減に對し前者は三千七百萬圓の激増を見たのであつた。

主なる對蘭印輸出入品を見ると左表の通りである。

輸 出	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
天 酒	三、六三三擔	—	二、三〇〇擔	—
麥 酒	八、八五石	—	二、八六石	—
綿 糸	二、九八六擔	—	五、四四擔	—
綿 織 物	三、五二、三四千碼	—	二、三、〇七千方碼	—
絹及人絹織物	—	—	—	—
其他	—	—	—	—
合計	四、八千圓	—	四、〇千圓	—

輸 入	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
棉 タ オ ル	五、七、四九打	—	三、〇、七三打	—
メリヤス 製品	一、二八三、二〇九ク	—	七、七〇、九〇一ク	—
帽 子	三、六七、八三〇ク	—	一、五八、一三四ク	—
紙 類	四、九、三九九擔	—	一〇、一、五三三擔	—
セメント	二、二、七、〇八〇ク	—	一、七、七、一、三三ク	—
陶 磁 器	—	—	—	—
硝子及同製品	—	—	—	—
鐵 製 品	—	—	—	—
ゴムタイヤ	一、八、〇、五三擔	—	一、五、七、五五擔	—
木 材	—	—	—	—
ランプ及同部分品	—	—	—	—
玩 具	—	—	—	—
其他共全國計	—	—	—	—
内阪神兩港	—	—	—	—
砂 糖	六、四、九七擔	—	三、三、〇、四二擔	—
油	六、九、三、四〇ガロン	—	五、九、三、三、七〇ガロン	—
生 糖	—	—	—	—
生 材	三、〇、三、五九〇百斤	—	一、八、三、〇、三四百斤	—
其他共兩國計	—	—	—	—
内阪神兩港	—	—	—	—
合計	二〇、〇、三、三三	—	二〇、〇、二、七	—

e 比 律 賓

一九三二年の對外貿易は輸入一億五千八百萬ベソ、輸出一億九千萬ベソで前年に比し出入何れも約一割内外の減退であつた。

蓋し當國の如き農業國としては主要農産物の市價低落の一般經濟界に及ぼせる影響たる甚しく、米比自由貿易主義による無稅輸入の特權を有する米國にして其の貿易は前年に比し九%強の減少を見た。

本邦との貿易關係は當國對外貿易において僅かに五%に過ぎざる有様であるが而も米國を除いては當國相手國別貿易額において第一位にあり、而も當市場における邦品の地盤は漸次確固たる地位を占めつゝある現狀であるが、如何せん爲替關稅法の實施のため折角の爲替安の利器も其の効空しく本年の本邦品輸出は別表の如く一二品を除いては何れも前年に比し尠なからざる減少を示した。

尤も金額においては本邦よりの輸出二千二百萬圓、本邦への輸入九百七十萬圓強と前年に比し多少の増加を見せ居るも、主なる對比輸出入品左表の通りである。

輸 出	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
綿 糸	二,五〇千圓	二二,九七擔	三,三三〇千圓	四,一〇四擔
綿 織 物	二,七六九	二二,四〇千方碼	四,一〇三	三,四三三千方碼
絹織物(人絹共)	一,九二一	—	三,〇六四	—
メリヤス製品	三,七四五	一,八七千打	一,九九九	—
身邊粧飾用品	二二七	—	二七三	—
セメント	二五九	—	三三三	—
陶 磁 器	六三五	三三,〇三六擔	四〇一	—
硝子及同製品	五〇四	—	五二〇	—

輸 入	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
鐵 製 品	四六九	—	六五〇	—
ランプ及同部分品	二〇三	—	二一〇	—
瓶 具	三四〇	—	二二三	—
其他共全國計	三三,三三三	—	二〇,四三三	—
内阪神兩港	一五,六八八	—	一五,八六八	—
麻 類	七二,七七擔	—	七五,五〇擔	—
其他共全國計	九,七四	—	八,九八八	—
内阪神兩港	六,九三三	—	六,九三三	—

f 海峽殖民地 (英領馬來)

シンガポール商品陳列所の報ずる所に依ると世界不況の當地經濟界に與へた打撃は極めて甚しく今や單なる經濟問題から政治、社會の問題とまで進み、かの關稅同盟、外國人の入國制限等この一證左に外ならぬと。

蓋し當國の如き農業國として、原料品の供給地たる植民地の常として其の二大主産物たる護謨、錫價の暴落が直、間接に當地經濟界に及ぼす影響は工業樹立の諸國と同日の比でない。

本年當地の對外貿易を見ると小包、正金地金を含む輸入三億八千四百萬弗、輸出三億六千八百萬弗、計七億五千二百萬弗で前年に比し約一億五千萬弗前々年に比し半減の情態であつた。

而して國別貿易を見るに十一月迄の統計に據ると全貿易額において増加せるは僅かに英屬領間の貿易のみでこれさへも輸入においては可成りの減を示し其他は何れも減少を示した。

只本邦との關係はこの減少傾向の間に在りても割合に少き部類に屬したがこれ爲替安による本邦品の進出に負ふ所多かつたものと思はる。

即ち之を本邦の貿易表に依り見るに七年の輸出二千五百五十四萬九千圓、輸入二千五百三十三萬八千圓で前年に比し夫々六百四十二萬九千圓、三百四十八萬一千圓の増加を來たして居ること左表の通りである。

主なる對海峽殖民地輸出入品

輸 入	七 年		六 年	
	噸	價	噸	價
綿織物	六、三六八千噸	二、三九千圓	四、三三五千噸	五、三三三圓
絹及人絹織物	—	二、九六元	—	二、六五四
綿タオル	一四、九六打	二四六	四〇、〇五八打	九
メリヤス製品	五、八九五ク	二二	三六、六四三ク	六六
紙類	一五、〇三九擔	二二六	一〇、八六擔	一四〇
石炭	二二、一四〇英噸	二、四三	一五、九七七英噸	一、八四九
セメント	六三、四三三擔	八二四	一、四五一、〇六五擔	一、八〇〇
陶磁器	—	三七五	—	二二
硝子及同製品	—	三〇〇	—	三〇〇
鐵製品	—	三四五	—	二七七
ゴムタイヤ	三、六四擔	二二	六、六八擔	五六
木材	—	二七五	—	二〇六
玩具	—	四四六	—	一八六
其他共全國計	—	二五、四四九	—	一九、二〇〇
内阪神兩港	—	一七、六四〇	—	二、七〇五
生ゴム	六〇七、二四擔	一〇、〇八〇	五三〇、八八擔	九、二七三

輸 入	英 國	
	噸	價
鐵	一三、八七一、八六六ク	七、六四
錫 (塊及錠)	三六、一八四ク	三、七四
其他共全國計	—	二五、三六
内阪神兩港	—	一〇、三四一

世界通商閉塞持續の折柄當國は前年金本位制停止の後だけに金融界、産業界の困難尠なからざるものと考へられ居たのであるが學國內閣の眞摯なる努力と國民の協力により案ぜられた財政經濟の立直しに大いに見るべき所あり、磅價の安定案外速かに見るに至り産業界亦從價一割の輸入關稅賦課、オタワ協定の兩面的保護により漸次曙光を見るに至り不況裡の内にも當國財政經濟界は徐々安定への道を辿り流石に英國の貫録を示して居る。

七年の對外貿易を見るに輸出四億一千六百萬磅、輸入七億三百二十萬磅で前年の夫に比し各々八・二%、一八・四%の減を示した。而して本邦の對英貿易關係を見るに輸出五千九百六十五萬八千圓、輸入七千八百七十六萬圓にして前年に比し夫々六百四十九萬二千圓、一千五百四十二萬五千圓の増額であつたがこれ左表にて知り得る如く吾が爲替安による本邦品の進出と同時に工業基礎材料の輸入が輸出旺盛の反面的効果として促進されたに因るもので主なる對英輸出入品は左表の通りである。

輸 出	七 年		六 年	
	噸	價	噸	價
豆類	三二四、七四擔	四、五二二圓	四一九、〇五擔	二、八七四圓
罐詰食料品	二、四七五、一九四斤	六、一五七	八、五四九、三九斤	四、六三六
植物性脂肪油	六四、五八三擔	七七〇	六九、四七擔	八四六
魚油及鯨油	二四三、七七ク	一、一三	二一九、八七ク	七五五

品名	数量	数量	数量	数量	数量	数量
生糸	三、九五七擔	九、三三三圓	九、二四四擔	六、一六二圓		
絹及人絹織物	—	四、七二	—	四、二二		
メリヤス製品	一、九七、八七七打	三、八七	二、五九、六四六打	五、四八九		
銅	—	一、三三五	—	九三七		
陶磁器	—	八三五	—	六九七		
木材	—	二、八六六	—	一、三八一		
ブラツシュ	—	五〇六	—	四七一		
其他共全國計	—	二、二八八	—	二、一〇〇		
内阪神兩港	—	五九、五六	—	五三、一六		
苛性曹達	六四、五六擔	三、八七三圓	三二、二八擔	二、二七三圓		
及天然曹達	五九、八六七ク	二、三六	八八、五〇ク	三、七八		
硫安	—	三、三三	—	二、二四		
毛糸	一、四、九、〇六斤	二、〇八〇	一、五〇三、三七〇斤	二、二六		
綿織物	四、一四九、八五方碼	八、五九六	五、一四九、六六方碼	七、八八五		
毛織物	—	七五八	—	八四一		
印刷料紙	三九、四九擔	一三、三〇	五〇、四九擔	七、七〇		
其他ノ織	二、四七八、三九ク	二、四九	一、五〇三、八六ク	二、六三		
其他ノ機械及同部分品	—	七、七六〇	—	三、三五		
其他共全國計	—	四、九七	—	三、四四〇		
内阪神兩港	—	—	—	—		

輸入

h 獨逸

一九三二年は獨逸にとり政治的のみならず財政的にも非常を告げた一年であつた。この年獨逸の對外貿易は輸出六十七億四千一百萬マツク、輸入四十六億五千九百萬マツク差引出超二十八億八千二百萬マツクで前年の夫に比し輸出二十八億五千八百萬マツク（二割九分八厘）、輸入二十億七千二百萬マツク（三割八厘）出超七億八千六百萬マツクの各減退で飢餓輸出の効果も疑はるゝに至つたが此世界不況持續以外に關稅戰の激化金本位離脱國の續出による輸出戰線の異常に基因した、而も列國殆ど其の多くが金本位離脱を敢行する只中に在りて獨り金本位の孤壘を守る獨逸の努力は其が往年のインフレ弊に懲りての結果からとは云へ極めて苦しき事であつたに違ひない。

世に飢餓輸出ともいはるべき獨逸の七年の輸出がかくも減じた事を見ても知られよう。尙獨逸昨年の財界大勢は左表にも窺へる如く極めて不良であつた。

年次	物價	賃金	出產	失業	資本發行	輸出	輸入	金利
一九二八年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
一九三一年	七九.二	101.1	五七.六	二九.八	四九.九	七六.二	四八.一	102.七
一九三二年	六八.九	八六.六	三二.二	三〇.九	二六.七	四六.七	三三.二	七五.七

本邦との貿易關係を見るに對獨逸輸出九百九萬八千圓で前年に比し五十七萬四千圓の増加であつたが對獨輸入は七百七十四萬二千圓で前年に比し反つて百五十萬圓餘の減少であつた。

而して本邦よりの輸出の増加したるは主として爲替安によるべく輸入の減少を來せるは内地斯業の發達其他を因としての硫安、毛糸、機械類の輸入減に基因す、主なる對獨輸出入品は左の通りである。

輸出

品名	七 年		六 年	
	数量	金額	数量	金額
寒 天	三、五二擔	五三、千圓	三、四九擔	五三、千圓
雜 詰 食 料 品	九七、四三斤	七六	四〇、八五斤	六
植物性脂肪油	一三、八六擔	二五	二、六七擔	二四七
薄 荷 油	一、〇四〇斤	二四八	七六斤	一六
魚油及鯨油	五、八七〇斤	六八	五、八四〇斤	四九
樟 腦	二九斤	二	三三斤	元
薄 荷 腦	一、二九斤	二	五斤	毛
絹及人絹織物	一、二九斤	二	五斤	毛
鈕 釦	二、七三、千東	四七	一、三、千東	二五二
陶 磁 器	二、七三、千東	四七	一、三、千東	二五二
木 材	二、七三、千東	四七	一、三、千東	二五二
製帽用眞田材	二、七三、千東	四七	一、三、千東	二五二
靴 具	二、七三、千東	四七	一、三、千東	二五二
其他共全國計	九、〇九八	三、四八	八、四四	二、六五
内 阪 神 兩 港	六、〇三二	一、八三	四、八三	一、九
革 類	六、三三斤	六、三、千圓	九、九七斤	五、三、千圓
硫 安	一、二五、七六擔	四、八	二、五八、〇九擔	一〇、九
合 成 染 料	一、九四、二三斤	四、九	一、六二、二八斤	四、〇
毛 織 物	六、五八斤	一、六	一、七〇、九五斤	三、三〇
毛 織 物	五〇、六七方碼	五	一七、七二方碼	一、九
毛 織 物	一、五四三	一、五	一、七〇	一、七〇

輸 入

品名	七 年		六 年	
	数量	金額	数量	金額
製紙用パルプ	二〇、九三擔	一、二九	三、一四二擔	二四
印刷料紙	九、四八斤	一七〇	三、九六斤	三六
鉄 鐵	五、一三三斤	三〇	一八、八八斤	六四
レール及フィッシュプレート	五、一〇九斤	四、四	四〇、〇二斤	一七五
其 他 鐵	一、五七、五三斤	一、二、三八	二、〇四、七四斤	九、七二八
アルミニウム(塊及錠、粒)	五、三六斤	三九	一三、三六斤	五、四
自動車及同部分品	一、九、六二斤	三、九	三、〇、五二斤	七
發電機類及變壓機	一、九、六二斤	三、九	三、〇、五二斤	七
其他機械及同部分品	一、九、六二斤	三、九	三、〇、五二斤	七
其他共全國計	七、一七四	九、七〇	一〇、四一六	五、五三
内 阪 神 兩 港	四、四〇	四、四〇	七、三、五二	七、三、五二
内 阪 神 兩 港	四、四〇	四、四〇	七、三、五二	七、三、五二

i 佛 蘭 西

黄金の國として弗の米國と相並んで一〇〇%の正貨準備を誇つた佛國經濟界もたゞ僅かに秋季の活況を除いては終始不景氣に一貫し海外爲替低落國からの壓迫に生産は萎縮、物價低落を來たし關稅引上其他諸種の輸入防禦策も結局において何等の効を奏せず海外貿易は輸出百九十六億九千三百萬法、輸入二百九十八億二千六百萬法差引入超百一億三千三百萬法と前年に比し輸出三割五分、輸入三割、入超一割四分の激減で輸出の減が輸入の夫に比し甚しかつた事に海外諸國殆ど金本位制離脱の只中に在りて獨りこの牙城に立こもることの如何に困難なるかを物語るものである。翻つて本邦との關係を見るに七年の對佛輸出二千三百三十五萬八千圓、輸入二千九百九萬四千圓で前年に比し輸出五百二十五萬八千圓、輸入八百六十九萬五千圓と夫々激増を來たした。

主なる輸出入品を見ると左表の通りである。

輸 出

寒天 二、三〇〇擔  
 植物性脂肪油 九、〇九〇ク  
 薄荷油 一、〇三三ク  
 樟腦 一、四七七ク  
 薄荷腦 六〇〇ク  
 屑糸及玉糸等 一、六四七ク  
 生糸 二、九七七ク  
 絹及人絹織物 七、一〇七  
 鈕釦 二、〇六四  
 陶磁器 一、六四  
 製帽用眞田 三、三三  
 其他共全國計 八、三三  
 内阪神兩港 八、七九〇

輸 入

二〇三、〇四斤 六三、二千圓  
 二五、六二ク 六  
 四、三三七百斤 二六九  
 一、七八八斤 四  
 一、八四四擔 一、八四四擔  
 四、六五ク 四、六五ク  
 三、九九ク 三、九九ク  
 七、〇ク 七、〇ク  
 一、七五ク 一、七五ク  
 二、九六ク 二、九六ク  
 二、八七ク 二、八七ク  
 一、八七九 一、八七九  
 一、九六六 一、九六六  
 一、〇七九 一、〇七九  
 二、五九 二、五九  
 一、〇七九 一、〇七九  
 六、〇四 六、〇四

七年

六年

三六

其他共全國計  
 内阪神兩港

米 國

二、〇九四  
 八、七四五

二、三九九  
 六、六九八

吾が生糸の大消費國として本邦輸出大市場の一つであり磅没落後の英國に代り世界金融市場に君臨せんとした弗の國米國も世界を擧げての不況、國際關稅戰、ブロックエコノミー等各國の通商障害により自國品の海外輸出抄々しからず、加之其の傍若無人的な高率關稅政策は貿易面の不振から内地産業界の萎靡沈滞を結果することとなり、一面世界不況の痛といはれる戰債問題に對する熱なき態度と相俟ち財界一般に暗雲たゞよひ其の金本位は幾度か危機を傳へらるゝに至り上半期の各國短資引上の如きも實に亡びゆく弗價への吊鐘であつた、今七年の米國財界の實勢を數字につき見るに次の如く如何に苦難の一年であつたかを語つて居る。

項目	一九三二年	一九三一年	一九二八年
物價	五三%	四一%	一〇〇%
生貨銀價	六〇三	八一	一〇〇
株産	五七〇	七三〇	一〇〇
就業率	三三・三	三三・八	一〇〇
資本發行	三三・八	七六・五	一〇〇
貿易(輸出入)	一四・七	三六・三	一〇〇
通貨	三三・六	四七・五	一〇〇
金利	三三・三	五〇・六	一〇〇
金	一七・四	一〇三・七	一〇〇
(備考)	五七・〇	五四・一	一〇〇

(備考) 國際重要經濟統計月報二卷五號ニ據ル

三七

世界的金本位離脱時代とも言はるべきとき佛、白と共に既に傾いた金本位制を支へての米國の對外貿易は其だけ可成りの無理があつた。

即ち輸出十六億一千七百萬弗、輸入十三億二千三百萬弗で前年に比し夫々三三・二%、三六・七%の激減であり輸出

入計二十九億四千萬弗は實に一九〇五年來の最低レコードを示したもので、若し夫一九二〇年の最高レコードに比すれば約五分の一に過ぎざる有様であつた。  
翻つて本邦との貿易關係を見るに本邦よりの輸出四億四千五百十四萬七千圓で前年に比し一千九百八十一萬七千圓の増、輸入五億九百八十七萬四千圓で一億六千七百五十八萬四千圓の増、出入差六千四百七十二萬七千圓の支拂勘定を見たわけであるが之蓋し米國はわが生糸の大顧客であると同時に我が國が米棉の大消費國たる關係からであつて殊に七年はわが輸出綿糸布の活躍から米棉の消費激増せるによる。

對米主要輸出入品は左表の通りである。

輸 出	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
茶	一、八六三擔	四、七五二千圓	一、三三三擔	五、二七五千圓
水 産 物	四〇、八四三〇	九七五	一〇六、〇〇〇	一、九二六
寒 天	三、三〇九〇	五三七	四、〇八六〇	七二四
罐頭詰食料品	一四、四二〇、六五三斤	八、〇五三	一一、九四一、六〇〇斤	七、八一
植物性脂肪油	一三、七〇擔	二、五〇三	一四、九七〇擔	二、五九四
除 虫 菊	八、七三二〇	四、三九九	三、一八四〇	一、一七九
樟 腦	八、二四七〇	一、二二八	一〇、四六三〇	一、三四九
薄 荷	二、二七四〇	二、〇〇五	一、九〇五〇	一、六六九
生 糸	五三、九九六〇	三三〇、一四九	五三、六六四〇	三三三、四七九
絹及人絹織物	—	四、三四四	—	四、六二六

輸 入	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
メリヤス製品	三、五、三〇打	五、一〇	三、〇〇、五〇三打	四、五〇
帽 子	三、六、六四九	三、〇三四	一、九七、六八六	六、一三六
紙 類	八、八〇九擔	七、五五	八、七八一擔	九、一八
陶 磁 器	—	六、四四一	—	六、六四四
硝子及同製品	—	四、九二	—	一〇〇
製帽用眞田	—	六、三三	—	六、三三
ブラツシユ	一、七四二千束	—	一、七九千束	—
ランプ及同部分品	—	一、二五六	—	一、一三
版 具	—	四、六六八	—	三、〇〇九
其他共全國計	—	四、九八七	—	二、九二二
内阪神兩港計	—	四、四五、一四七	—	四、二五、三三〇
	—	一、五四、三八二	—	一、四二、五二四

輸 入	七 年		六 年	
	金額	噸數	金額	噸數
米 及 穀	二、六八、一三擔	一、七、四四千圓	二、六六、六四擔	一、二、六六千圓
小 麥	一、九五、三〇〇	七、五一	八、八四、二〇〇	二、五三三
皮 類	二、九、五三〇	三、三九六	八、八、三二〇	二、二八
革 類	二、九四、四五〇斤	九、八二	九、六九、四〇〇斤	一、四六九
礦 油	五、四六、九四三ガロン	一、八、七〇三	五、四七、五七〇ガロン	一、九、五三
(比重〇、八七六二ヲ超エザルモノ)	—	—	—	—
苛性曹達、曹達灰及天然曹達	一、三〇、八〇擔	一、〇、一三	四、七九、七四二擔	二、八八四
合 成 染 料	四、七二、四六二斤	一、一、五七	六、〇〇、五七斤	一、〇、五
棉 花	九、〇一、六八八擔	三〇、七五三	五、三二、〇三擔	一、五、七〇一
製紙用パルプ	三、七四、三二〇	三、九五二	三、九八、八四五	二、四一九

品名	輸 出			輸 入		
	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
博 礦 石	二、八四、九四九擔	二、九六六	三、五三三、二四九擔	二、九九四		
其 他 ノ 鐵	三、一三九、三九〇	二、一四〇	一、三九三、〇五七	八、一七三		
アルミニウム	二、四五四	六六六	二、三六七	一〇七		
鉛	三〇四、六三九	三、二七五	二八二、六四二	三、五二二		
自動車及同部分品	—	一三、八三八	—	一五、八二七		
發電機類及變壓機	二〇四、六三九斤	五九三	六五、九五斤	七六六		
其他ノ機械及同部分品	—	一七、一六六	—	一五、四八六		
木 材	—	三〇、三三六	—	二六、一七七		
其他共全區計	—	五〇九、八七四	—	三〇四、二九〇		
内 阪 神 兩 港	—	三六〇、三三〇	—	二〇九、三三二		
日 本	一九三一年	一九三二年	一九三三年			
英 國	一五五、七	一三四、五	一〇六、三			
佛 國	四四五、九	二八八、五	一三五、五			
獨 乙 國	一三二、八	一一一、六	九二、二			
加 奈 陀	一六六、一	一三三、五	一七〇、〇			
	三九六、四	二四一、四	二六六、三			

米國主要相手國別輸出入額順位における日本の地位は左表の如く益々其の重要さを増しつゝある。  
米國五大主要相手國別貿易額(單位百萬弗)

原料輸出國として製造品輸出品たる本邦との貿易關係において常に多額の受取勘定を見來たつたカナダへの輸出は

隣國に米國を控へ、母國英國との特惠關係を結び居るため最近本邦にとり甚だ香しからぬ處へカナダ自らの國內工業發達助長に餘念なき結果としての排他的保護關稅政策が特に目立つあり、殊に本年は小麥の増産著しかりしにも拘らず價格の世界的不況による軟弱は世界唯數の小麥國として當國經濟を著しく衰退せしめ本邦品進出は爲替安を以てするも何等の奏功を見なかつたものゝ如く本邦よりの輸出前年に比し價額において四割方減少若し夫實質的減少においては蓋し莫大なるものであつたと思はる。  
而も本邦への輸入は之亦反對に二割強の増加を見るに至つたがこれ製造國として原料品に乏しき本邦として加奈陀は其の原料品を容易に吾國に供給し得る好地位に在る當然の結果と見らる。  
主なる對カナダ輸出入品は左表の通りである。

品名	輸 出		輸 入	
	七 年	六 年	七 年	六 年
生 糸	一、七三擔	三、八三擔	—	—
絹及人絹織物	—	—	—	—
陶 磁 器	—	—	—	—
飯 具	—	—	—	—
其他共全區計	—	—	—	—
内 阪 神 兩 港	—	—	—	—
小 麥	一、九三、二〇擔	八、七三二	二、五九七、六五擔	七、九三八
製紙用パルプ	四四五、五六七	三、一四四	八二九、二八	五、二〇〇
鉛	三八四、四九	四、三九	四〇〇、六四	四、二四一
亞 鉛	一八七、二六	二、六二八	一五二、六八	一、五〇六



木 材  
其他共全國計  
内阪神兩港

七、三四七  
三九、五〇五  
一七、三三八

七、七七七  
三五、六七三  
一四、四六七

四二

1 アフリカ

國際市場の狹隘を告げらる今日わが来るべき輸出好市場として其の將來性に富む當アフリカ七年の經濟界は大體において前年に比し良好でなかつた、蓋し世界不況のこれら原料輸出國經濟界に及ぼす影響は製品輸出國との比でないから其だけこれら諸地方への本邦品輸出景況如何は年初案ぜられたのであつたが爲替安の強味あり、加之業者の熱烈なる努力によりわが輸出は南阿を除く埃及、東阿、其他諸地方に著しき躍進を見た即ち之を地域別に見るに埃及 七年當地への本邦品輸出四千八百八十七萬七千圓で前年の殆ど倍額を見るに至つたがこれ業者が見本市を開催するなど本邦品販路の開拓に努力せると爲替安の賜によるものである。

尙主なる輸出品は綿布、絹布、メリヤス製品等染織工業品であり輸入品としては棉花、燐礦石がある。南阿「トランスバール」「オレンヂフリ、ステート」「ナタル」喜望峯殖民地「ベチユアナラント」「スワジランド」を總稱するもので近時本邦よりの直航を見るに至れる結果、業者のこの地方に對する關心を強め本邦輸出貨品の重要市場となりつゝある、只遺憾なることは關稅障壁の極めて高きことである、七年の輸出一千六百四十一萬八千圓前年に比し稍減少を見たのもこれがためである。

東阿「ケンヤ、ウガンダ、タンガニカ」の總稱で直航を見るに至つてより在來の印度經由及印度商人經由の手が省かるゝに至り直接需要地に支向けるもの多きを加へるに至つた結果今日では南阿に次で重要市場となり七年の輸出亦一千五百七十六萬圓と前年に比し約五百萬圓の増加を來した。

尙當地阿弗利加棉は埃及棉に比し品質さまで劣らず結構代用せしめ得る所から最近輸入漸増の傾向がある。其他 前記諸地方を除いた地域の總稱でこれら地域との貿易關係は交通不便の關係もあり從來かなり不振であつたが

最近は漸次本邦品の勢力が及びつゝある、七年の輸出一千六百六十四萬圓で前年の約倍額を見るに至つた。對阿地方別貿易額並に主なる輸出入品を見ると左表の通りである。

	輸 出		輸 入	
	七 年	六 年	七 年	六 年
埃 及	四、八七七千圓	三、八三〇千圓	一、九七六千圓	二、五八八千圓
南 阿	一、六、四八	一、九、二六三	二、三、六六	一、三、三三
東 阿	一、五、七六〇	二〇、八六八	三、四、四	二、二、六三
其 他	一、一、六四〇	五、八八八	一、六、三三	一、〇、六三
計	八、五、六五五	五、八、六九九	二、七、四五一	一、八、三三七
機 寸 (其他)	二、二、四三擔	四、八千圓	二、〇、九九擔	四、八千圓
綿 糸 (埃)	五、三、〇一〇	三、三六	九、六七〇	四、四
綿 織 物 (埃)	一、九、四三〇	二、七、〇九九	一〇、三、七九〇	一、四、九五七
綿織物及人絹織物(埃)	三、三、三六千方碼	五、三、三九	三、九、〇三千方碼	五、四、五一
絹織物及人絹織物(埃)	—	九、一八四	—	三、九五四
絹織物及人絹織物(埃)	—	五、六五七	—	六、九五五
絹織物及人絹織物(埃)	—	一、六六	—	一、四九
絹織物及人絹織物(埃)	一、三、二七五打	一、六六	一、〇〇、七二打	一、四九
絹織物及人絹織物(埃)	—	二、〇〇	—	三、〇
絹織物及人絹織物(埃)	一、一、四八七〇	二、〇〇	一、六、二四〇	三、〇
絹織物及人絹織物(埃)	—	四	—	六
絹織物及人絹織物(埃)	—	—	—	—
メリヤス製品(埃)	一、〇、四、九三〇	一、八、一八	五、三、二五〇	一、三、〇五
メリヤス製品(埃)	—	—	—	—
メリヤス製品(埃)	五、五、九五〇	一、三、四	五、四、八七〇	一、二、九三

四三

錫 釧 (埃) 六  
陶磁器 (埃) 四〇八  
硝子及同製品 (南) 一五九  
鐵製品 (埃) 一九七  
木材 (南) 二九三  
器具 (埃) 二一六  
其他共全國計 八五、六九五  
内阪神兩港 七四、八二〇

輸入

棉花 (埃) 三〇〇、三六擔  
羊毛 (南) 一七、三六ク  
磷礦石 (埃) 三、四九、四六ク  
其他共全國計 一、〇三三  
内阪神兩港 三、六六四

濠洲

錫 釧 (埃) 三五  
陶磁器 (埃) 四一  
硝子及同製品 (南) 一一二  
鐵製品 (埃) 九五  
木材 (南) 二五三  
器具 (埃) 八九  
其他共全國計 五八、六六九  
内阪神兩港 五、二五〇

四四

當地經濟界は英國の金輸出禁止來可成り改善の跡顯著なるものあり其の對外貿易においても羊毛、小麦等の重要商品の輸出増加を來たし記録的増産を案じた羊毛界に時ならぬ活況を呈したわけで行詰りに漸せる財政も漸次良好轉したと言はる。  
當國の主要輸出品たる羊毛、小麦の輸出増加は必然的に其の輸入を増進せしむるの結果に至つたものでこれを本邦との關係に見るに本邦よりの輸出三千六百八十九萬五千圓本邦への輸入一億三千四百二十七萬七千圓で前年に比し各々著しき躍進をなし居ることが知られる。

而して本年の本邦よりの重要品輸出が別表の如く何れも前年に比し實質的増加をなし居ることは如何に當地經濟界が回復されつゝあるかの證左であらう。  
然しながら當地との貿易關係は別表に於けるが如く本邦は羊毛、小麦の如き重要原料品を仰ぐ關係上輸出の進展を見たる今日に於いても尙著しき貿易差額を支拂ふべき地位に在ることは遺憾である。  
對濠主要輸出入品は左表の通りである。

輸出入

品名	七年	六年
生糸	四、四七擔	二、八〇九擔
絹織物(人絹共)	一六、六三	九、三〇
綿織物	三五、九三千方碼	二〇、九九千方碼
帽子	一三、一〇一打	七、二七打
鈕釦	五二	五〇六
陶磁器	二八四	〇七
硝子及同製品	一、七六八	六六六
ランプ及同部分品	三五八	八一
器具	四三	一六〇
其他共全國計	八六一	三〇八
内阪神兩港	三六、八九五	一八、四〇六
小麥	一〇、六四、三三擔	八、五五、二四擔
牛肉(生)	二、五八ク	一九、九三ク
皮類	六、七三ク	二、四三ク
其他共全國計	四〇、〇五八	三三、四六六
内阪神兩港	四四八	三七九
其他共全國計	一九三	三一九
内阪神兩港	四五	四五

四五

牛 脂	一七、四三〇	二、四七	三〇九、三四三	二、三六
羊 毛	一、四八、九八〇	八四、四六	一、三三、九二〇	八三、九九五
鉛 (塊及錠)	三、四九〇	三三三	二七、五六六	一、九五
亞鉛(塊錠粒)	二五、四六〇	一、五九五	一四三、三九〇	一、一九九
其他共全國計	—	—	—	—
内阪神兩港	—	—	—	—

## 第二章 重要品輸出概況

### 小 麥 粉

本年阪神兩港本品の輸出は數量六十四萬七千七百擔強、價額四百六萬四千圓にして前年に比し量において三十二萬二千五百擔、價額で二百六十七萬六千圓といふ激増であつた。

而も此本品主要輸出先たる支那が過ぐる滿洲事變、上海事變この方極端なる排日貨運動をなせる年に於てである。本年の輸出がこの難局に際しながらも好況を見るに至つたのは本品が支那にとり全く必需的商品なること及銀塊相場昂騰、北滿一帯の水害による同地方の小麥減産並滿洲國の獨立等が擧げらるもので本年滿洲への本品輸出は素晴らしく支那市場で失はれた本品の輸出もカバーして充分であつた。

滿洲國	三二、五四〇	一、九三、六四〇	四九〇、一三三	一、九三、八五〇
關東州	一、七四、三三〇	九、四四〇	一、六四、七五	七、二〇、三六
中華民國	一、五五、三三	八、九八、一三	—	—

其他共全國計	三、六九四、八八三	三〇、五九〇、〇〇〇	二、五三三、〇一一	九、五七、二四三
内阪神兩港	六四七、七三一	四、〇六四、〇〇〇	三三三、五三〇	一、三六八、〇〇〇

### 需 給 情 况

年初再禁止斷行による穴景氣の反動から市價の暴落を見、上半期内地における需要は可成り減退を來たしたが下期に入り財界の安定とインフレ景氣による物價騰貴から市價は漸騰状態に入つたが結局内地の消費高は三千二百十二萬餘袋で前年より一割餘の減少でこれ消費階級の不景氣に今尙悩めることを語るものでこの意味において輸出の旺盛を見たることは大いに慶賀すべき所であらう。

### 内地製粉相場(朝日經濟年史)

最高	最低	最高	最低
一月 二、九五	二月 二、六六	三月 二、八九	四月 二、八〇
四月 二、八三	五月 二、七五	六月 二、三三	七月 二、四〇
七月 二、八六	八月 三、九七	九月 三、五五	十月 三、三三
十月 三、五五	十一月 三、八三	十二月 三、七〇	—
年平均 最高 三、〇〇	最低 二、九二	—	—

(一袋二五、八五斤入)相場

### 精 糖

本年阪神兩港本品の輸出は數量六十三萬一千七百六十七擔、價額三百三十萬一千餘圓で前年に比し數量四十五萬七千擔餘、價額二百二十二萬四千圓餘の激減を見たが之唯一の大仕向地たる支那が上海事變來極悪なる排日貨を行ひたるため此方面の輸出殆ど不能に陥りたるものにして新興滿洲國への輸出は反つて前年に比し著増を見た。

國別輸出額

國別	七年	六年
滿洲	一九四七二擔	二三六、五九四圓
關東州	七九九、八四〇	四、四二六、五〇四
中華民國	五〇三、一九六	二、八五三、四八四
亞露	一五、五五三	一〇五、五四〇
其他共全國計	一、三九九、〇〇七	七、七九七、二五一
内阪神兩港	六三、六六七	三、三〇一、四七〇
生産	一、九〇九、〇〇〇	一、〇八九、二二一
大阪砂糖商同業組合調に據る内地精糖生産總額は五百一十一萬三千六百二十擔であつて輸出向はこの約二割九分を占めて居る、因全砂糖の生産三井物産調によれば七年は千九百一十七萬一千擔にして前年に比し三百五十九萬擔の増産あつた。		

而して本年の生産高は前年に比し約三割三分の減産であつたが一方國內消費は内地、朝鮮合して約三百六十四萬擔で前年に比し約三割減退した  
 昨年の市價を見ると左の通りであつた。

月	圓	月	圓
一月	一八・五	二月	一七・八三
四月	一七・五三	五月	一七・二八
七月	一八・九四	八月	二〇・七二
十月	二二・七二	十一月	二二・七九
		十二月	三三・〇九

東京、大阪兩市場における標準物百斤當月平均相場で大阪砂糖商同業組合調査に據る  
 尙從來相當外糖の輸入を見たるがこれら外糖は主として輸向原料糖なる處別記の如く内地は全國的に産糖増加で今や自給自足を通り越し過剩糖さへ生ずる状態となり外糖の必要は殆ど之を要せざるに至つた。自然外糖の輸入は連年減少、本年は全國で六十七萬一千擔餘、三百三十三萬二千圓の輸入で前年に比し數量二百八十八萬八千擔餘、價額

寒天

一千二百二十七萬一千圓と激減を來たして居る。  
 因に一九三一——三二世界産糖高は二千六百九萬トンで前記より百六十九萬トンの減少であつたがこれ國際協定による歐洲甜菜糖の減産によるものであるが而も世界の糖界は不況と關稅障壁に現されて輸出品の不振たりしたため國際協定もあつてなき如く相場は全く安値を辿り恐怖相場を現出した。

本年阪神兩港本品の輸出は數量一萬八千八百二十一擔、價額三百萬七千圓にして前年の夫に比し數量五百七十四擔價額二十七萬五千圓の減少であつたが此主仕向先たる支那、南洋向輸出が日支關係の惡化來華商筋、抗日團の暴擧、排日貨運動に累せられ充分の取引を見なかつた事に歸因するもので第一の輸出先たる米國向輸出亦彼地財界の不振を移して相當の減少を見た。  
 然しながら歐洲方面への輸出は不況の際にも拘らず前年に比し夫々多少の増加さへ見るに至つたが蓋し我寒天相場下落と爲替安の重疊せる結果ならん。  
 而して我寒天はこの輸出不振のために生産過剩を來たし次いで外國事情の惡化と原料安の關係から相場は漸落、下半年中葉において在庫品の減少から一時相場立直りを見たるも結局相場は安値に終始し業者損失甚しく惡の一年たりしものゝ如くである。

國別輸出額

國別	七年	六年
民國	一、三三三擔	九四、五九四圓
香港	七七	一〇、三三三
海峽殖民地	六四	九三、一五四
蘭印	三、六三三	四四、八四六
		二、三〇〇
		四〇一、五三八

英 國 一、〇三八  
佛 國 二、〇〇六  
獨 逸 三、三五一  
米 國 三、三〇九  
其他共全國計 三、三〇九  
内阪神兩港 三、一六五  
前表に知らるゝ如く本品は主として阪神兩港から輸出を見るものであるが尙生産を見るに大阪、京都、兵庫聯合寒天水産組合管下の生産最も多く七百七十六萬斤を生産全國生産の過半を占めた。

七年寒天生産高

大阪、京都府、兵庫縣寒天水産組合 百七十六萬斤  
長野縣、山梨縣 約百三十萬斤  
岐阜縣 約十五萬斤  
樺太 約十五萬斤  
其他 約四萬斤  
用途 製菓用、工業用糊、酒類清澄用、製罐用、醫藥、微菌培養基、オフラート、水菓子、料理用等々

尙本品の國內消費は約百萬斤強にして生産の三割内外に當り他は輸出向である。  
市價推移 前年度の隋力から五月迄は安値ながら可なりの價額を見たが六月頃から海外入電安く加ふるに次期製造原料豊作から市場一齊に弱氣を呈し大に暴落せるも九月頃より在庫品減少と對外爲替下落の關係から五月以前の相場に回復した。

歐米向細一等产品每百斤關西品相場

（神戸税關調、各十日間仲値）  
一月 上旬 一七五圓 中旬 一七五圓 下旬 一七五圓

二月	一七五	一七五	一七五
三月	一八〇	一八五	一八五
四月	一八五	一八五	一八五
五月	一八五	一八五	一八五
六月	一八五	一八五	一八五
七月	一八五	一八五	一八五
八月	一八五	一八五	一八五
九月	一八五	一八五	一八五
十月	一八五	一八五	一八五
十一月	一八五	一八五	一八五
十二月	一八五	一八五	一八五

罐詰及罐詰食料品

本年阪神兩港本品の輸出は數量九百二十一萬六千斤、價額二百九十五萬九千圓弱で前年の夫に比し數量四百五十五萬三千七百斤、價額九十九萬九千圓の増加であつたが主なる品種は別表の如く水産物にては蟹罐詰、鮑貝等、蔬菜類としては筍であつて全國の此等輸出における阪神の地位は大水産地を控へざる結果極めて低い。

七年阪神兩港品種別輸出額

鳥獸肉	二八、〇三三	九五、四六圓
蟹	三、八五七	三三、〇二五
其他魚類	六、八五七	六五、〇〇三
貝類	六、八五七	三五、七四四
蔬菜類	一、八七九	四八、〇五〇

調味料	四四四、七八	三五、八五〇
其他	二、九三八四七	九、九、二五五
計	九、二五、八四七	二、九、八、五二〇

鮭鱒罐詰は佛國其他歐洲諸國に主として輸出を見る外亞細亞、亞弗利加、濠洲に向けられ最近の生産増加と爲替安を利して米國、加奈陀品を壓して著しき進出をなしたる上に主産地たる北米合衆國へも輸出を見るに至つた。

蟹罐詰の本年全國生産高は二十九萬七千二百九十三兩で前年に比し二割七分の減産を見たが當阪神として極めて貧弱なもので輸出亦二十萬圓強に過ぎず主として米國、歐洲に向けらる。

蟹罐詰は共販會社の成立で統制よく保たれた結果、生産も適度に制限された爲に輸出市價も亦堅實に保たれたる由鮑罐詰は鮭蟹に次ぐものであるが中國が主輸出先たる關係上時局の影響をうけ不振、筍及野菜罐詰は關東州、滿洲南洋方面に輸出増加した。

全國輸出額	五、八七五、六三斤	三、七四、〇六圓	四三、三三、五〇斤	一八、九四八、四四圓
内阪神兩港	九、二五、八四七	二、九、八、五〇	四、六三、一五五	一、九、〇、二八

### 薄 荷

腦、玉、油の本年阪神兩港の輸出額約四百九十五萬圓にして前年の夫に比し百二十二萬二千圓の増加であつたがこれ本年は爲替安の關係から腦及油の輸出が振ひしに因るもので腦は元來北米合衆國を其の主要輸出先とする所本年は前年の輸出不振のあとをうけ上半期市價低落したると爲替安のため各國向輸出何れも増加を見た。

油は主として英、佛、獨の歐洲諸國並英印に輸出を見るものなる所これ亦前記腦と同様理由から此等地方に輸出増進を見た。

用途は醫藥清涼劑、製菓用、化粧用、飲料用例へばメンソーレータム、チウインガム、仁丹齒磨、薄荷菓子等にし

て多様多種に亘るものである。

尙本品の生産を見るに腦は本邦特産にして世界産額の約九割は本邦に産し油亦世界産額の六、七割を本邦にて占めるもので外國としては米國に約六、七十萬封度の生産を大とし其他英佛に多少の生産を見ると言はる。

七年本邦の生産額は業者報する所によると約六十七萬五千斤前年に比し十五萬五千斤の減少であつた。而して内地需要は生産の二割内外で残餘は輸出向である。

### 阪神輸出額

薄 荷	四八、六四三斤	三、六二八、三〇五圓	三五、〇〇八斤	二、八七、五二圓
ク 玉	七四、二九打	七、四、一七四	八七、二四打	七、七、一七四
ク 油	五四、一九三斤	一、二五七、二九〇	三四七、四二斤	八、三、九三
計		四、九四九、七六九		三、七、八、四八
全國總輸出額		五、〇三三、六〇三		三、九、二、三九八

### 市價推移

薄荷腦一斤値段	高値	安値	高値	安値
一月	八、五〇	八、二五	九、一五	九、〇〇
四月	八、〇〇	七、五〇	七、五〇	七、〇〇
七月	八、八〇	七、四〇	八、八〇	七、四〇
十月	一〇、三五	九、一五	一五、七五	一五、三五
薄荷油	高値	安値	高値	安値
一月	二、五〇	二、三五	二、五〇	二、五〇
四月	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
六月	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
三月	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
九月	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
十二月	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇

前表の如く本品相場は産地増收豫想から四月より軟弱を見たるも七月に入り雨多く生産案ぜられた結果相場は再び堅實となり九月生産減確實となるや甚しく強調を示し加之爲替安と減收説による思惑買盛となつた結果相場益々強調を辿つた。

### 除虫菊

本品は主として神戸港より輸出を見るもの、本年の輸出数量八萬七千八百八十五擔、價額四百三十七萬七千圓弱を見前年に比し數量四萬九千二百三十二擔、價額二百九十一萬六千圓の激増を見たが、此全く爲替安もさることながら内地増産見越から業者よく安値を忍びて賣り應じたるに在ると思はる。

一面本邦において殺虫劑、蚊取線香等に製造消費する量年々多量を見て居る。主なる輸出先は米國只一あるのみにて自然本品の輸出好、不況亦同國の經濟に左右すること甚しとす。

#### 國別輸出額

	七 年	六 年
米 國	六、三三擔 四、四九、〇元圓	三、八四擔 一、七九、三三圓
漆 洲	七〇六 三五、〇六元	八二五 三、〇〇
其他共全國計	九萬、六六八 四、七五、三九八	四、八四五 一、六、三四九
内阪神兩港	八七、八五 四、三六、六六八	三七、九三三 一、四六四、〇〇〇

本年對米輸出の増進せるは昨年の米國買付が本邦の金輸再禁を見越しの買控へありたると本邦の増産の豫想による市價安及下半年における對外爲替安によるものと思はる。本邦の生産状況を見るに四、五月頃主産地北海道の増産見込が傳へられたために市價低落を來たし産地、神戸共賣氣

旺盛で當時の收穫豫想北海道百二十萬貫以上、中國、紀州合せて百萬貫計二百二十萬貫と見られ居た處、事實は案外で前年と大差なかりしたため相場は急騰、四月頃産地値段一貫目二圓五十錢のものが九月には四圓乃至五圓に奔騰を見るに至つた。

### 樟 腦

主として神戸港より輸出を見るもの、本年阪神兩港の輸出は數量二萬三千四百八十七擔、價格三百五十四萬圓強にして前年の夫に比し數量一千二百擔強、價額六十二萬七千圓の増加であつたが、これ爲替の關係もありて英印、英本國、佛國、濠洲等への輸出増加せるに因るもので、本品第一位の顧客たる米國への輸出及び獨逸への夫は獨逸人造樟腦の跳躍があり加之米國にありては同國經濟界の不振及び其の用途が主としてセルロイド原板製作にある關係から本邦製セルロイド原板輸入が爲替關係から安價となりしため、本品の輸入はセルロイド原板の輸入にふり代へられたるもの、如く本品の輸出は前年に比し可成りの減少を免れなかつた。

尤も最近海外よりの報告に依ると米國における本邦製天然樟腦は獨逸の人造樟腦に比し自然的良質を備へ居る結果漸次獨逸品を排撃しつゝある現状にて、米國セルロイド大會社デユ・ボン會社(重役關係から獨逸合成樟腦を努めて消費する傾向のある)にして本邦品使用を思ひ立ち、多量の注文を本邦になし來たつた事を報じ前途や光明を與へて居る。印度は米國に次ぐ本邦品輸出大市場なる處最近獨逸品にやゝ押され氣味だつた所本年は爲替關係並地的關係から可成りの好成績を見た。

其他の地域に本邦品の進展せるは一に爲替安の關係によるもので本邦品は品質獨逸品に比し優るも價額において割高なるため獨逸品に漸次蠶食さる惧あるもので此點注意すべきであらう。因に合成樟腦は獨逸、伊太利、瑞西、佛蘭西に生産され、就中獨逸のシェーリング社、並イーゲーの兩社が著明なる由で、本邦品はこれら合成樟腦に抗し行く爲に残されたる價額の低價といふ點につき現在の品質低下なしに如何にして達し得るやを工夫するの要があり、此がやがて本邦樟腦會社の生き行くべき途であらう。

國別輸出額

國別	七 年			六 年		
	噸	價	圓	噸	價	圓
英 印	六、三六九	九七、七〇〇	四、〇〇〇	六、一八〇	二五、五五五	二、九四九
英 國	一、六〇七	二四、六六九	九九三	二、五〇五	三九、四九一	一、三〇三
伊 國	一、四八七	二二、九四四	七二〇	一、〇〇三	三九、四三三	一、三〇三
獨 逸	二一九	二一、〇四三	三〇三	一、〇〇三	三九、四三三	一、三〇三
米 國	八、二四〇	一、二七、六六六	一〇、四六三	一、三〇三	三九、四三三	一、三〇三
濠 洲	七九	二九、三〇三	五〇七	七〇、七六七	二、九四九	二、九四九
其他共全國計	三三、四九三	三、五四一、〇四三	三三、五五七	二、九四九	六〇、九	二、九四九
内 港	三、四八七	三、五四一、〇四三	三、五六〇	二、九三〇	二、九三〇	二、九三〇

五六

硬 化 油

本年阪神兩港の輸出は數量二十一萬四千七百七十九擔、價額二百八十八萬三千圓強を示し、前年に比し數量四萬四千九十五擔、價額五十四萬四千八百六十五圓の増加を見たが、此全く爲替安に負ふ所多く業界は爲に著しき活況を呈し、生産が消費に及ばざるに至つた結果一時輸出の先物賣を中止するに決定した様で近年稀なる事であつた。

尙本年の輸出を國別に見るに主要市場の一たる支那は日支時局關係から輸出涉々しからず減少、比律賓は高率なる輸入關稅の賦課と競争品「コ、アナットオイル」の安値におされ、米國亦財界の不況と高率關稅のため爲替安も期待外れとなり、佛國亦輸入制限令其他ダンピング税賦課のため出減したるも、關東洲は滿洲國獨立による石鹼業界の勃興から、歐洲方面亦工業の旺盛と本邦品の爲替安による思惑買から何れも激増を來たし、殊に印度方面輸出が爲替安のため從來微々として振はなかつたのが本年どしどし振り向けられたがため、一面における主要輸出國への輸出不振も相殺されて前記活況を見る結果となつた。

尙本年の本品生産高は内地四萬噸、朝鮮空素五、六千噸計四萬五、六千噸と稱せらる。

而して本品は内地に在りては主として石鹼、蠟燭の原料として消費される處、原料魚油の供給潤澤から生産過剩を來たしたために市價の低落が業者の憫であつた所、本年より業者の結合により全國的販賣機關を作り共同販賣により價格の維持に努めたるため業界は益基礎強調を見るに至つた。

市 價 推 移

歐洲向百斤F、O、B市價(神戸税關調)

月	噸	價	圓	月	噸	價	圓
一月	八、〇七	八、五	一〇、一〇〇	七月	八、三	一〇、三〇	
五月	八、五	七、五	八、三	八月	八、五	八、五	
九月	二〇、六	二、五	二、一〇	十二月	三、七〇	三、七〇	

生 糸

數年來の世界不況は生糸の需要を減少せしめたるのみならず相場をも著しく下落せしめ、特に本年度に於ては一大需要國たる米國經濟界の不況によりその需要の減少を來し、本邦生糸の輸出を益々不振ならしめた。よつて六月初旬の本邦相場は三百九十五圓と云ふ未曾有の安値を現出するに至り、本邦政府は遂に其の對策として滯貨生糸の買上を行ひ、各製造業者に於ても新絲の市場出荷を見合はず状態に至つた。

然るに本年度本邦對外爲替は年初以來下落の一途を辿り、下半期に入り遂に對米二十弗内外に崩落し一般仕向地に於ける本邦生糸の輸入價格を甚しく割安ならしめた關係から大に買氣を喚起し注文殺到するに至り、六月以降輸出一段と旺盛となり相場も次第に回復し、九月に於ては一千百三十圓と云ふ高値を現はすに到つた。然し米國を始め各國に於ける財界の不況は更に深刻化するの狀態にして、絹製品の賣行を不良ならしめた一方安値なる人絹糸の進出により之を生糸の代用として厚地物及莫大小製品等に混用するに至り、其製品は却て需要者の歡迎する所となり、生糸の消費を益々減少せしめたる故、斯如高値に對しては買氣續かず、十月には八百圓臺に下落すると共に輸出も稍衰へ結局對米輸出は減少し七年中の輸出總量を増加せしめなかつた。

五七



米國以外の仕向地たる英國、佛國、瑞西、濠洲諸國に於ては本年度の生絲相場下落と爲替關係の有利に際し盛に買付け其製品は人絹製品の需要を壓迫する状態となり本邦生絲の輸出は大に増加した。

全國國別輸出額		全國品種別輸出額	
七 年	六 年	七 年	六 年
英 國	九,二五七,四四〇圓	機械製十二デニール迄黃繭糸	一〇擔
佛 國	七,〇七,一〇三	同 上 白繭糸	三三
瑞 西	二,六八八	機械製十七デニール迄黃繭糸	九七七
米 國	二,一六八	同 上 白繭糸	二六〇,五七九
加 洲	三,〇〇,四八七	同 上 黃繭糸	一九九,四九
濠 洲	三,一六四,六八四	機械製其他 白繭糸	八五,八〇
其 他	一,四〇六,四三二	同 上 白繭糸	三四,〇五
全 國 計	三二,一三九,六六六	其 他	五四六,五〇
内 神 戶 港	一七,四六六	計	三,〇二,三六六
全國國別輸出額		全國品種別輸出額	
七 年	六 年	七 年	六 年
英 國	九,二四四擔	機械製十二デニール迄黃繭糸	一〇擔
佛 國	六,一六一,三八圓	同 上 白繭糸	三三
瑞 西	五,八七九,四三〇圓	機械製十七デニール迄黃繭糸	九七七
米 國	二,一五二,二五	同 上 白繭糸	二六〇,五七九
加 洲	三,〇〇,四八七	同 上 黃繭糸	一九九,四九
濠 洲	三,一六四,六八四	機械製其他 白繭糸	八五,八〇
其 他	一,四〇六,四三二	同 上 白繭糸	三四,〇五
全 國 計	三二,一三九,六六六	其 他	五四六,五〇
内 神 戶 港	一七,四六六	計	三,〇二,三六六

綿 糸

昭和七年中綿織絲の輸出額は二十六萬八千八百十六擔、一千五百四十四萬六千圓にして、前年に比し數量に於て十七萬三千六百三十九擔(約十八割)、價格に於て一千三百三萬六千圓(約十五割)の激増を示した。即本邦圓爲替の崩落による輸出價額の下落と、前年度各仕向地に於ける財界不況により輸出極度に減少せられて、在荷薄なりしに基因するものである。

本品の主要仕向地たる英領印度への輸出は前年度に比し、數量に於て約二十一割強の激増を示した。同地は前年度農産物の輸出不振により農民の購買力減退せるに、割安なる支那系の進出に本邦糸の需要減少し、本年度は爲替關係と相場下落により本邦糸の割安及び支那系の輸出不振其他一大競争國たる英國品の輸入が國民會議派の反對運動により防壁せられたる等の事情により、本邦品の輸出増加せしめたる所以である。

其他比島を除く一般仕向地に於ては前年中の輸入減少による在荷薄の折柄、本邦品の割安なるにより盛に輸入せられたことによる。本年度に於ける本邦綿糸の輸出好況は價格安の一方各仕向先に於て盛に行はれたる綿布類の關稅引上により原糸の輸入行はれたる關係も大に力あつた。

全國國別輸出額		全國品種別輸出額	
七 年	六 年	七 年	六 年
全 國	二,六八,八六擔	二,五四,六千圓	九五,一七擔
阪 神 兩 港	二四,六七	七,八三	九,六三
滿 洲 國	五,六〇一擔	四九,九千圓	一擔
關 東 州	一一,一七一	六七〇	五,一〇一
中 華 民 國	一一,〇二九	六九三	六,四五二
香 港	二四,五〇四擔	一,三三六	七,二五八
全國國別輸出額		全國品種別輸出額	
七 年	六 年	七 年	六 年
全 國	二,六八,八六擔	二,五四,六千圓	九五,一七擔
阪 神 兩 港	二四,六七	七,八三	九,六三
滿 洲 國	五,六〇一擔	四九,九千圓	一擔
關 東 州	一一,一七一	六七〇	五,一〇一
中 華 民 國	一一,〇二九	六九三	六,四五二
香 港	二四,五〇四擔	一,三三六	七,二五八

世界的財界の不況及各仕向先に於ける高率關稅の壓迫を受けたる本邦綿織物も三月以降圓爲替の下落により各仕向地に於ける輸入價格を割安ならしめ、累月輸出増進し特に七、八、九、十月の如きは著しく好況なりしが故に本年度の輸出は數量價額共に増加を示した。

綿織物

種類	七 年		六 年	
	數量	價額	數量	價額
二十番迄	七、六九一擔	三、九五一千圓	二四、〇八擔	一、三五千圓
四十番迄	六、五九五	四、四〇五	一三、三五	七九三
六十番迄	六〇、五七九	四、七五二	二〇、四三	一、六九三
其他	六〇、九五二	八、四三七	三六、四五	四、八九〇
計	一、七六、九三七	二、四六、八二六	九五、一七七	八、五〇〇
全國品種別輸出額	二、〇二、五三千方碼	二、八七、七三千方圓	一、四三、六〇千方碼	一、九八、七三千方圓
全 國	一、七六、九三七	二、四六、八二六	一、三三、五三七	一、七九、二四四

主任仕向地たる英領印度は圓價安により本邦品輸入價格を二割二分内外有利ならしめたる上に、本年度同地に行はれたる金賣却に基く一般購買力の増加及米棉高値豫想に刺激せられたる同製品の先高見越による思惑買付等により、輸入は増加した。蘭領印度への輸出増加は本年度に於ける爲替關係の有利なる點によるも、同地に於て最近本邦製品の優良と認められ大に歓迎せらるゝに至れると、加工綿布に於て競争國品の販路を奪ひ其の需要を増加したるによるものである。

海峽殖民地は前年度華商の日貨排斥及不況による輸入手控えに品不足の折柄、本年度に於ける爲替關係に有利なるにより盛に買付けられ輸入増進し前年度の約倍額に達した。

埃及への輸出増加は同地の需要以外に、土耳其及近東方面へ再輸出盛なりしに原因してゐる。

中華民國、香港、比島地方への輸出は日支國交の紛争による日貨排斥及戰亂の影響による需要減に何れも減少した

全 國 國 別 輸 出 額	七 年		六 年	
	數量	價額	數量	價額
滿洲國	八、九二千方碼	二、二九二千圓	一千方碼	一千圓
關東州	八八、八二八	一六、一〇七	三七、九四	六、一七三
中華民國	一九三、六三三	三六、三三九	三九、四四五	四三、〇七三
香港	三三、四〇六	三、七五五	三、四四〇	九、七六五
英領印度	六四、六六五	八〇、六五四	四四、四二一	四九、八六六
海峽殖民地	八二、三三八	二、三三八	四、三〇五	五、二二三
蘭領印度	三五三、三三四	五〇、三三八	二二、一〇七	二八、二七九
比島	二二、四一〇	二、七六九	三三、四三三	四、六三三
暹羅	二四、四五六	三、三三八	五、八四四	七、九五
土耳其	四一、五二九	五、五七四	二五、一五〇	三、五〇六
北米合衆國	一、六四六	二、六四	四八	六三

智 利  
亞 爾 然 丁  
ウ ル グ ワ イ  
埃 及  
南 阿 聯 邦  
濠 洲  
新 西 蘭  
布 哇  
其 他  
計

全國品種別輸出額

七年

六年

生地ノモノ  
大 尺 布  
綾 木 綿  
細 倉 織  
小 倉 織  
縮 フランネル  
金巾(幅四〇吋以上  
同上幅四〇吋未滿  
ド ー テ ー  
粗 布

智 利	一、三六三、千方碼	一、九三、千圓
亞 爾 然 丁	三、三、四六一	三、三、〇〇〇
ウ ル グ ワ イ	三、九、六	五、五
埃 及	一、九、四、四三五	二、七、〇、六八
南 阿 聯 邦	三、六、三、三五	五、三、三八
濠 洲	三、五、九、九三	四、八、七、四
新 西 蘭	一、一、三、三八	一、八、一
布 哇	一、一、五、三	一、六、八
其 他	三、四、四、四一	三、一、八、九
計	二、〇、三、七、七三	三、八、七、三二
全 國 品 種 別 輸 出 額	六、九、三、三、千方碼	八、八、三、三、千圓

智 利	二、三、六、〇、千方碼	三、七、一、千圓
亞 爾 然 丁	一、〇、五、四、〇	一、四、〇、一
ウ ル グ ワ イ	四、九、〇	六、四
埃 及	一、〇、三、七、九、九	一、四、九、五、七
南 阿 聯 邦	三、九、〇、三、三	五、四、五、〇
濠 洲	二、〇、九、九、九	二、八、五、六
新 西 蘭	六、七、〇	九、四
布 哇	八、三	一、四、三
其 他	一、七、一、九、九	三、八、四、八
計	一、四、三、七、八〇	一、九、八、七、三、一
全 國 品 種 別 輸 出 額	五、六、三、七、千方碼	六、三、五、九、千圓

天 竺 布  
モ ス リ ン  
帆 布  
五 板 緞 子  
八 板 緞 子  
其 他 ノ 緞 子  
其 他  
晒 シ タ ル モ ノ  
白 木 綿  
綾 木 綿  
細 倉 織  
小 倉 織  
縮 フランネル  
金巾(幅三十四吋以上  
同(幅三十四吋未滿)  
粗 布  
天 竺 布  
其 他  
其 ノ 他 ノ 綿 布  
縮 三 綾 (絲 染)  
其 他 ノ 綿 木 綿  
色 木 綿

天 竺 布	二、四、三、七、千方碼	三、八、四、千圓
モ ス リ ン	一	一
帆 布	三、七、六、五	一、一、二、七
五 板 緞 子	三、二、七、八	五、七、七
八 板 緞 子	一	一
其 他 ノ 緞 子	一	一
其 他	二、三、九、八	三、二、〇
晒 シ タ ル モ ノ	三、五、九、九、九	四、八、八、〇
白 木 綿	八、〇、八	八、〇
綾 木 綿	一、八、六、七	二、八、三
細 倉 織	二、二、四、〇、三	一、七、五、八
小 倉 織	三、三	八
縮 フランネル	四、一、三、〇	四、七、六
金巾(幅三十四吋以上 同(幅三十四吋未滿)	二、三、三、三	三、八、九
粗 布	三、四、八、〇、八	四、〇、八、九、四
天 竺 布	一、八、四、〇、七	二、六、三、四
其 他	三、八、八	四、七
其 ノ 他 ノ 綿 布	一、四、二、四	一、八、三
縮 三 綾 (絲 染)	一、三、三、五、一	二、一、〇、四
其 他 ノ 綿 木 綿	九、三、三、三、二	一、五、〇、三、九
色 木 綿	一、九、一、三、五	二、六、〇、九、一
	一、七、五、四、三	二、五、五、八
	二、三、八	二、八

天 竺 布	一、四、五、九、六、千方碼	一、七、五、五、千圓
モ ス リ ン	一	一
帆 布	三、六、五、五	九、四、八
五 板 緞 子	一、九、〇、五	二、八、五
八 板 緞 子	一	一
其 他 ノ 緞 子	一	一
其 他	一、七、三、三	二、八
晒 シ タ ル モ ノ	一、〇、一、五、九	二、五、六、七
白 木 綿	九、五、五	九、一
綾 木 綿	六、一	八、七
細 倉 織	五、五、〇、五	七、六、三
小 倉 織	三、三	一、〇
縮 フランネル	五、七、五、三	七、四、四
金巾(幅三十四吋以上 同(幅三十四吋未滿)	二、一、八、三	三、七、三
粗 布	一、六、一、〇、五、四	二、一、八、四、九
天 竺 布	九、八、二、九	一、四、三、一
其 他	二、八、二	三、五
其 ノ 他 ノ 綿 布	三、八、一	四、八
縮 三 綾 (絲 染)	一、五、九、四	二、六、〇
其 他 ノ 綿 木 綿	六、六、一、三、〇、三	一、四、〇、六、四
色 木 綿	一、六、三、六、八	三、三、〇、三、三
	一、四、八、六、八	一、九、六、九
	一、二、二、八	一、四、四

品名	七年	六年	六四
染綾木綿	九、〇八千方碼	一、五〇千圓	二、九三千方碼
其他ノ綾木綿	九六六	一六六	一七五
染細綾	四、八七三	六、七五三	三、四四三
其他ノ細綾	一三〇、四一九	一七、九三七	九〇、〇五五
小倉織	四、五五九	六二八	三、四四四
縮	六、六七六	一、四六六	五、七五五
染フランネル	二八、一九九	三、三三七	三三、九九七
其他ノフランネル	二六、五八八	四、三九五	一九、八二七
染フランネル	二六、〇二四	四、五九九	三三、九〇八
其他ノフランネル	一、四三三	二五五	五三〇
染金巾	四、一七六	五、六六六	四六、〇四〇
更紗	一四〇、六〇九	一八、三九〇	五六、八〇九
天竺布	一七、七七一	二、四八七	二五、二一八
擦染モスリン	七、八九四	一、〇〇〇	六、八〇〇
其他ノモスリン	一、八七五	二四六	一、六八〇
帆布	一、〇三三	二八〇	一、六八六
染襦子	六、三三三	一八、四四四	六、三三三
擦染襦子	九、九〇五	二、四〇〇	八、六三〇
四織	五、四六九	三、二六〇	二九、三三七
變り織	一〇、九〇一	二、三三七	六、六九七
ボフリ	一四、一〇八	三、一六六	六、五八九
其他	九、七九六	一四、三六七	三〇、七七七
計	二、〇三、七三三	二八、七三三	一、四三、七〇〇

絹織物

全 國 七年 六年  
 五、六七千圓 四、〇五千圓  
 阪神兩港 三、七五五 二、六三二

累年輸出減退しつゝありし本邦絹織物も爲替安により輸出著しく増進した。  
 中華民國は日支事變による排日運動と内地の内訌、漢口水災等の影響により一般民の購買著減したる際に南京政府は八月四日より絹織物輸入税の増徴を行ひ、爲めに同地方並に香港方面への輸出は減少した。  
 滿洲國は三月一日獨立宣言以來日滿貿易は頓に進展し同國及關東州への絹織物輸出の激増を見た。  
 英領印度への輸出増加は爲替關係の有利以外に同地關稅増徴に對する見越輸入によるものにして、比島地方への輸出減は同地關稅の引上げによるものである。  
 濠洲は農産物の豐作により購買力増加し富士絹、縮緬類の輸入増加を見た。  
 其他埃及地方は八月施行せられたる關稅引上に對する見越輸入行はれたると、シリヤ、巴爾幹、小亞細亞地方への再輸出の爲本邦品の輸入増加を示した。  
 英國に於ては從價一割の輸入關稅賦課せられたるも爲替關係の有利により反へつて輸出増加した。  
 品種別に於て一般品種の輸出増に反し絹紬の減少せるは前年同品價格の下落に際し、亞米利加地方へ盛に輸出せられたるも、不況により需要之に伴はず滯貨を來したるに基因するものにして、富士絹は前年價格割高なりし故に仕向地たる加奈陀、濠洲、埃及、其他に於て割安なりし絹紬、人絹織物に壓倒され甚しく輸出減少したが、本年度は價格の割安に絹紬の需要不振により輸出は増進した。

全國品種別輸出高  
 七年 六年  
 六、四三三千圓 六、五三三千圓  
 羽 二 重 六五

甲斐絹	一、五千圓	五月圓
絹子	一、八三三	一、三九四
琥珀織及ポプリン	三三二	二〇
シツフオン	一〇九	五九
ボンジョ	六、五二〇	七、〇三三
富士絹類	一五、〇二四	九、三三三
壁織	九	二七
縮緬	一八、八八三	一七、六六八
其他	一、三三五	六八
計	五〇、二八七	四三、〇三三

相場(三井銀行検査課調査、羽二重大聖寺優等品、單位百匁、下旬相場)

六月十二月	九・〇〇	七月一月	九・五〇	八月一月	九・七〇	九月一月	一〇・五〇	十月一月	一〇・五〇	十一月一月	一〇・〇〇	十二月一月	一一・〇〇
-------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------

### 人絹織物

全 國	七 年	六 年
阪神兩港	六、五九千圓	五、七三三圓
	五、三三四千圓	三、三三三圓

昭和七年中人絹織物輸出價額を前年中の三千九百七十一萬二千圓に比し二千八十二萬七千圓約五割二歩の増額である。

近年人絹織物の輸出は躍進的進展を示し年々其販路擴張せられつゝあるが、本年度は更に本邦金再禁止による圓爲替の崩落により、他面内地價格の昂騰、世界的不況及主要仕向地に於ける高率關稅賦課の影響を受けたるに拘らず、

前記の如き激増を見た。

其他人絹織物の輸出増加は單に爲替關係の有利なる點のみならず、最近本品の品質向上し優良品の生産を見るに至れると、一般需要者が世界的不況に基く安價品への轉向により、絹及絹織物の需要範圍を侵蝕したるに因るもので、特に本年度は各國關稅引上を見越し思惑輸入の盛に行はれたることに亦原因して居る。

#### 各 國 人 絹 糸 生 産 額 ( 單 位 千 封 度 )

米 國	一九三二年	一九三一年
英 國	一三、〇三五	一四、〇八〇
日 本	七、五二〇	五、四七〇
伊 太 利	六、九三〇	四、八二五〇
獨 逸	六、三九〇	六、一三〇
佛 蘭 西	五、〇三〇	五、〇〇〇
瑞 士	四、七、三五五	三、五、三五五
瑞 典	一七、三三五	一、九、八〇〇
白 耳 牙	一一、〇五五	九、九〇〇
其 他	九、七八〇	一〇、三九五
計	一〇〇、八二〇	三〇、三六五
	五四、七〇五	四七、一九〇

帝人一二〇〇福井市場(當月物)

最高 最低

昭和六年十二月	一〇〇圓	查圓
昭和七年一月	一〇八	八三
二月	一〇七、五	八八、五

月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
輸出額	101,500	92,000	68,000	69,000	100,000	110,000	105,000	115,000	120,000	125,000

綿毛布

昭和七年中の綿毛布輸出を前年に比すれば價額に於て約一割六分増、數量約一割三分八厘増となつてゐる。本年度上半期に於ける本品の輸出は各仕向先に於ける財界不況及關稅の増徴等に依り甚しく不振の状態にあつたが下半期に入り、各地需要期に至り本邦品の下落及爲替安等に大口輸出を刺戟し前記の如き増加を見たのである。輸出先に於ては中華民國、香港地方は日支兩國間に於ける抗爭及上海事變勃發による排日貨運動の再燃、其機に乗じたる各競争國品の進出等に本邦品の販路は蠶食せられ著しく輸出減退せるも滿洲國創建せられ日滿貿易の好轉により本邦品の輸出増加及其他仕向地に於ける本邦品の割安による需要喚起等により總輸出額は却つて前年を凌駕した。本品は各仕向先に於て寢具又は衣服代用として使用せらるゝ生活必需品に屬するものなるが故に、不況の昨今と雖

も著しき需要の減退を見ることなく、却つて最近各仕向地に於ける土民の生活向上により益々その需要を増す傾向にあるものにして、其品種に於ても美術的色彩を有する模様もの及び縞物類歓迎せられ無地もの類に於ても色彩麗艶なるもの喜ばるるに至り、實用的と雖も無趣味なるものは需要の追々減じつゝある状態である。

國別輸出額

國別	七年	六年
滿洲國	4,300	3,300
中華民國	5,600	1,900
香港	3,700	4,500
英領印度	5,800	3,300
海峽殖民地	1,900	3,300
關領印度	6,300	1,800
比島	1,600	4,100
暹羅	4,800	800
其他	5,600	2,600
計	37,500	34,300

莫大小製品

昭和七年度莫大小製品の輸出一千三百七十二萬一千打、價額二千六百九十三萬五千圓にして前年に比し數量に於て三百十四萬六千打(約二割九歩)、價額に於て五百七十六萬圓(約二割七歩)の増加を示した。

本年は本邦金輸出再禁止、日支紛争深刻化、對外爲替の崩落による輸出價額の割安等に輸出著しく助長せられ前記の如き結果を見たのである。

本品の主要仕向地たる英領印度への輸出は年初に於て芳しからざる状態にあつたが、其後圓爲替の漸落による輸出好轉と内地關稅引上説による懸念に約定品の繰上げ積出行はれ數量價格共に増加した。

中華民國、香港地方は上海事變後取引停止止むなきに至り輸出減退したが、關東州、滿洲地方への輸出は滿洲國建國により日滿貿易促進し好況であつた。

英、佛本國への輸出は内地關稅の訂正により稍々減少したが、屬領たる濠洲、加奈陀及南阿聯邦等に於ける關稅引上の影響は本邦圓爲替の崩落により相殺せられたる形態となり輸出は好勢であつた。

其他關領印度、比島、海峽殖民地方面は本邦圓爲替の慘落、本邦綿糸價の急騰による市價の昂騰を見越しての輸入等により各輸出を増進せしめた。

全國々別輸出額

年	滿洲國	關東州	中華民國	香港	英領印度	海峽殖民地	關領印度	比島	英國	佛國
七年	三、五二〇	九四	二〇	三、五二〇	九三	一、二八三	一、八六六	一、九七七	二八	二八
六年	一、〇〇一	九四	二四	三、五二〇	三三	二、五〇四	一、八八四	三、五九五	二八	二八

品種別輸出額

年	米及	埃及	南阿聯邦	濠洲	其他	計	棉衣	手袋	靴下	絹製	其他	申
七年	三、五二〇	一、〇〇一	五五七	一、三三四	二、六九九	一三、七二一	八、八三三	一、六六	四、三三三	八九	四、三三三	二九八
六年	四、〇五五	一、一八八	一、三三四	二九	五、三四一	一〇、五七五	二、七〇九	二、五五	三、四三八	一七四	三、三三三	一三三

洋紙

全國

年	數量	價額
七年	九六、五二擔	一四、〇二一圓
六年	一四、三、九三擔	三、九六九圓

阪神兩港本年の輸出は數量約六十六萬七千擔、價額九百八十一萬二千圓で前年に比べ數量十三萬擔、價額三百六萬三千圓の減少であつたが之主要輸出先たる支那への輸出が日支衝突の爲め著減を見たるに因るもので僅か英印、海峽殖民地、蘭印等に於いて若干増加を示したるに止る。

日本製紙聯合會の調査に依る本年の外紙輸入は數量一億一千六百四十七萬四千七百九十五封度、價額一千六百六十五萬一千八百八十九圓で前年に比し數量二割の減退を見たるも價額は殆んど大差なく約一分の減少に過ぎなかつた。

尙輸入紙の大部分は新聞用紙で仕出國は加奈陀、瑞典等が多く、阪神兩港のこれら外紙の輸入額は四百四十二萬二千圓であつた。

生産、本年中製紙聯合會員九社の生産高は十三億一千百三十一萬五千封度で前年に比べ一千九百二十七萬封度の減少、一方販賣高は十四億一千四百七十六萬七千封度で前年より八千五百十八萬二千封度の増加を見るに至つたが品種別生産高は左表の通りである。

品名	本年生産高	
	數量	對前年増減(△)
上等印刷用紙	一三、八九千封度	△ 一七、七四二千封度
印刷用紙	一六、八四	△ 六、九四九
筆記及畫用紙	三、五五三	△ 四、六三七
模造紙	九、五〇八	△ 三、九〇一
アート及艶紙類	二、三三一	△ 一、一〇一
新聞用紙	五、四三、五五二	二七、九七八
ロール半紙類	五八、八四七	四、三三六
色紙類	一六、八八二	一一五
包紙類	一五、八八	三〇、九二五
機械濾和紙類	一七、四二六	△ 一、四八一
板紙類	七、五五	一、一五九
雜種類	四、〇一一	△ 一七、七五三
計	一、三二、三三五	△ 一、九、二六九

(備考—富士、王子、樺太、三菱、北越、日本紙業、乾、日本、西野九製紙會社ノ七年中生産高ヲ合シタルモノ)

市況、金再禁止直後より頗る好轉を示し對外爲替關係より輸入紙の壓迫は減少し生産高に比し販賣高超過するの好況を持續し加之下半年に至り洋紙(新聞紙を除く)輸入税率引上、爲替相場の本格的低落と相俟ちて輸入益々困難を加へて輸入紙の壓迫も去り輸出界も亦漸次恢復を見、他面、多年の懸案であつた王子、富士、樺太工業の三社合同談も進捗し茲に局面轉換漸く好況を見るに至つた。

尙近年の主要洋紙相場は(一)封度建、單位錢)

品名	昭和元年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年	
	數量	單位錢	數量	單位錢	數量	單位錢	數量	單位錢	數量	單位錢	數量	單位錢	數量	單位錢
印刷紙千張印		一八、八		一七、二		一六、三		一五、五		一四、三		一三、〇		一二、五
模造紙		一六、九		一五、四		一四、八		一三、八		一二、一		一一、六		一一、〇
全		三、九七千圓		二、三九		一九、七七千圓		二、〇五		一九、七七千圓		二、三九		二、〇五

本年阪神兩港の本品輸出は價額二百五萬一千圓を見前年に比し二十七萬八千圓の激減であつた。

由來我國主要輸出品の一として廣く海外に其の名を知られると共にその輸出額も漸増し一時三千五、六百萬圓を見るに至つた本品も世界的財界恐慌の餘波を受け逐年減少の運命を辿りつゝあるは悲しむべき現象である。

今主要仕向先に就き見るに或一、二の諸國を除いては本品の最大市場たる米國の減少を始めとし其他諸國何れも減



じ、對米の輸出減は同國財界未だ恢復の域に達せず爲に購買力旺盛に至らざりしに因るべく又民國、香港は共に日貨排斥に基因し殊に民國の高率關稅賦課の打撃は著しかつた。

南洋、印度、濠洲方面への輸出は不況の折柄にも拘らず爲替安の關係により甚だ有利なる地位を占め競争品たる獨逸並にチエツコ品を全く壓迫したる觀を呈するに至つた。

### 硝子及同製品

英國	三、〇三	獨逸	一、三〇
米國	二、二五	日本	五、五

全	七 年	六 年
阪神兩港	九、六三、千圓	七、五五、千圓
	八、〇〇一	六、四二一

前年來極度の輸出不振に陥りし後を受け滯貨潤澤なりしところ爲替の慘落は輸出を有利に轉ぜしめ尙對民國仕向の減退は却て印度、南洋、アフリカ、濠洲各地に販路開拓の動機となり頗る好況を呈するに至つた。

既ち本年阪神兩港の輸出額は八百萬圓餘に上り前年に比べ百五十八萬圓の増加を示した。

**魔法瓶** 本品阪神兩港の輸出は數量九萬二千打餘、價額五十六萬圓に上り前年に比し數量二萬四千打、價額十三萬圓の減少を見たるが之主要市場たる民國への輸出困難の折柄止むを得ざるものと思はれる。

**罐類** 本品阪神兩港の輸出は數量千十三萬七千打、價額二百二十九萬九千圓にして前年に比し數量三百六十三萬

八千打、價額八十四萬三千圓の増加を示した。

本品には化粧用、食料用、飲料水用と多種あり主として大阪及其の附近で生産を見るのであるが前年來輸出減退し生産過剩に陥りたるも爲替續落に伴ひ輸出額に好轉し主として印度、濠洲方面よりの需要最も多く前記の如く輸出減を一舉に恢復するに至つた。

**コップ** 本品阪神兩港の輸出は數量三百五十萬打餘、價額百五十九萬五千圓に上り前年に比し數量八十六萬打、價額二十六萬圓の増加を示した。

之前記罐類と同じく爲替相場場の好影響を受けしもので輸出増加の地方は濠洲、新西蘭、印度等にして殊に濠洲に於ける一般的購買力の増進に基く増加も亦見逃し得ないであらう。

**鏡** 本品阪神兩港の輸出は數量二千二百八十三萬枚餘、價額百二十九萬九千圓に上り前年に比し數量千十四萬枚、價額三十九萬五千圓の増加であつた。

主として英印、蘭印、南米方面に輸出され薄鏡のもの需要最も多く品質良好なるものは却て不振なる珍現象を示し高級品は歐洲製品に壓倒を蒙るの状態であつた。

**人造眞珠** 本品阪神兩港の輸出額は三十五萬圓餘に上り前年に比し六十六萬七千圓餘の減少であつた。

經濟界の世界的不況は本品の需要に絶對的影響を與へ漸次減少の途を辿り益々不振の狀況を示すに至つた、而して本品の需要は米國を最とし英國、濠洲なる處只豫想外の相場下落から實質的輸出數量は相當に上り減少率を尠なからしめたるはせめてもの慰安とすべきであらう。

### 阪神兩港品種別輸出高

硝子	三、八三、〇〇一	方呎	二、九千圓
魔法瓶	九、一〇〇	打	五、五
其他ノ瓶	一〇、〇八、〇三三		一、九六八
七 年			
六 年			
硝子	三、六七、四六	方呎	二、九千圓
魔法瓶	二、六、五三	打	六、九〇
其他ノ瓶	六、四九、八五		一、四五六
七 五			

硝子 コップ  
食器  
ウオッチグラス  
珠玉及球  
眼鏡  
人造眞珠  
其他硝子及同製品

三、五〇一、六四〇打	一、五九五	二、六四三、五五打	一、三三四
三、四三、七五三	二、六九	一、八八、八四三	一、五
五、三六〇一哥	四七	四、三〇一哥	八
一、三六、四八斤	七五五	三、八〇、七七斤	一七二
四、三三、五七一個	四〇〇	二、一四、五八一個	三三
三、八三、四四枚	一、二九九	三、六五、五枚	九〇四
	三、五二		一、〇一八
	四三		二、五二

### 珽琊鐵器

全 國  
阪神兩港

一、九六、二五擔	四、二四、千圓	一、〇七、六六擔	二、六九、千圓
一、四八、六四〇	三、五五〇	七、一三	一、九〇四

阪神兩港本年の輸出は數量約十四萬八千擔、價額三百五十五萬圓で前年に比し數量七萬一千五百擔、價額百六十四萬六千圓の激増を示した。

本品は大阪重要輸出品の一をなし本邦輸出の九割迄は吾が阪神兩港で之を占め、主要仕向地は英領印度、蘭領印度等にして其他各地共一般的に好況を見るに至つた。

之前年の各地不況と加ふるに本品最大市場たる中華民國に於ける斯業の勃興と尙其の上に日貨排斥の影響を受け全く杜絶するに至りしかばこゝに營業者の販路開拓の努力を見、爲替漸落を轉機とし安價を標榜せる本品は遂に前記の如く印度、南洋各地に頗る活況を呈し歐洲品を駆逐するの勢を示した。

尙本品生産統制の確立は市價の變動を除去し著しく仕向地商人の好感を齎し、本邦品取扱の増大を招くに至つた様である。

さて其の品種を見ると洗面器、湯沸、コップ、辨當箱等日常家庭器具及看板として使用されたるものが大部分なれど最近に至り化學用器具としての製品を見るに至つて居る。

最近二ヶ年全國仕向地別輸出高

滿洲國	二、一五九擔	六、千圓	二、三三七	一、千圓
關東州	七、〇三四	一、六八	二、三三	六
中華民國	二、七二七	七四	二、三三	七
香港	六二五	三三	六、〇九一	一、五九
英領印度	五七、六五〇	一、三三五	二、八、七〇一	六、七
海峽殖民地	八、一三〇	二二五	五、八八五	一、九
蘭領印度	四、四四五	一、〇四五	二、六四一	五、三
比律賓諸島	一、三、六八三	三、六二	一、七、四九四	四、八
暹羅	一、四、一七三	三、六	九、九九二	二、四三
埃及	四、一七九	一〇一	二、四二五	五、七
南阿聯邦	二、二六五	四	一、七、三〇〇	四、一
東阿弗利加	四、八七三	一一	四、三〇一	九、五
濠洲刺利	四、九六〇	二、八	一、六、六五	四、一
其他諸國	四、一九九	一一〇	二、七三四	七

### 護謨製品

全 國  
阪神兩港

一、〇三、八三打	四、八〇、千圓	一、〇〇、一八六打	四、三九、千圓
一、〇、七、七八七	四、八三	九、九、五四一	四、〇九六

七七

全 國	六、四〇七擔	四、三六九	四、六三三	三、八五九
阪神兩港	五、四二五〇	三、五七〇	四、六九六	三、七四四
其 他	一	一、四七九	一	一、〇四五
(玩具ヲ除ク)	阪神兩港	一、三三八	一	八五五

ゴム製品輸出に王座を占む阪神兩港本年のこれら輸出額(ゴム製玩具を除く)は九百六十九萬七千圓に上り前年に比し九十八萬二千圓の増加であつた。

**ゴム靴** 近時輸出ゴム製品中最も著しく發達したるは本品であつて其の生産地は依然として阪神地方を主とし其の種類はカンバスシューズ、帆布シューズ、總ゴム其他に及び實用必需品として近年益々販路を擴張し殊に歐洲の先進國を始め印度、南洋、阿弗利加等比較的民度低き地方に向ひ逐年増加するに至つた。

阪神兩港本年の輸出は前掲の如く數量百萬七千八百餘打、價額四百八十二萬二千圓にして前年に比し數量一萬五千三百餘打、價額七十二萬六千圓の増加を見たり、之對外爲替の慘落を動機とし各國の高率關稅障壁あるも斯業に影響を及ぼすことなく近年稀に見る活況を呈するに至つた事實に因る。

**ゴムタイヤ** 本品亦主として阪神兩港より輸出されるものであるが其の大部分は神戸ダントップ製品が之を占め居る状態で更にタイヤを分類すれば次の通りである。

阪神兩港品種別輸出高		七 年		六 年	
自 轉 車 用	三、三九〇擔	二、一六千圓	二、六、〇三擔	一、八五三千圓	
人 力 車 用	八、八三二	六、五三	九、六五九	八、五八	
其 他 車 輛	九、〇三九	七、九	二、〇六	九、九三	
計	五、四二五〇	三、三六七	四、六九六	三、七四四	

右の如く前年に比し數量七千二百九十擔餘の増加に反し價額十七萬六千圓の減少であつた。之主仕向地たる中華民國、海峽殖民地、蘭領印度各地の一般不況其他の事情に因る。

**其他ゴム製品** 一般品としてバックキング其他工業品を主とし醫療用品、其他海水帽、浮袋等、玩具を除いた總てのゴム製品が含まるもので本年の阪神兩港輸出額は百三十萬八千圓を見前年に比し四十三萬三千圓の増加であつた。

即ち本品は爲替漸落後頗る好轉を見たる次第なるが本年原料ゴムの輸入は五萬七千噸に達し世界的に觀るも英國、佛國に次ぎて大消費國と稱するも過言ではなからう。

**自轉車及同部分品 (ゴムタイヤを除く)**

全 國	七 年	六 年
阪神兩港	六、〇八千圓	三、二九七千圓
	五、七二	三、〇六

阪神兩港本年の輸出額は五百三十七萬圓に上り前年に比し二百二十八萬圓餘の激増であつた。本品の輸出は前表の如く殆んど阪神兩港より輸出さるるもので主要仕向先は中華民國、印度、南洋の各地の概して未だ交通の便不充なる地にして輕快且つ安價なる小交通機關としての本品は益々需要増加の状態である。

而して本年當初に於ては世界的不況の影響を蒙り稍々不振の傾向なりしも爲替低落が齎らせる本品の輸出は頗る好況に向ひ著しき躍進をなし殊に主仕向地たる中華民國に於ては激烈なる日貨排斥に遇ひたるも前記の如き好影響に因り全體としては相當の成果を收め、更に印度、南洋方面への激増は稀に見る新記録を残すに至つた。

**最近二ヶ年阪神兩港仕向地別輸出高**

七 年	六 年	
中 華 民 國	一、〇八九千圓	六、六千圓
關 東 州	三、三三	一、五八
英 領 印 度	一、〇〇九	九三

摩領印度 一、三三五  
 海峽殖民地 四三三  
 阿弗利加 一七〇  
 其他諸國 九三三

鈕 釦

九二二  
 二五六  
 一九九  
 一三三

鈕	全 國	一五、六七四、三九四哥	四、六三三、千圓	三、〇六七、六〇哥	三、六三三、千圓
鈕	阪神兩港	一五、四七三、六〇六	四、五〇五	三、八五〇、六〇六	三、六六九
其 他	全 國	—	一、一三〇	—	九三三
其 他	阪神兩港	—	一、一三六	—	八三三

阪神兩港本年の輸出額は五百七十四萬三千圓にして前年に比し百十七萬二千圓の激増であつた。  
 本品には金屬、骨角、貝製と其の種類多様に亘るも輸出多きは貝製にして其産地は大坂附近である關係上其の大部分は阪神兩港より輸出を見居ること前表の通りである。  
 而して之を主なる仕向國別に觀るに事變に因る中華民國向の激減を除きては英國、印度、濠洲、獨逸、蘭印を始め其他各地への進出は目覺しく殊に諸國に於て續々關稅の引上を見たるも能く舊市場の確保と新販路の開拓に奏功し稀有の好成績を擧げるに至つた。  
 更に品種別に觀るに左表の如く其の大宗たる貝製の増加は爲替關係に因るもの、様である。

貝 製	一五、四三七、六〇六哥	四、五五〇、千圓	三、八五〇、六〇六哥	三、六六九、千圓
骨 角 製	六九〇、六三三	一〇六	一、〇八〇、二九三	二二五
金 屬 製	四四九、九四九	一三九	五七七、四六六	一七四

帽 子

全 國	二、〇〇三、九五打	七、七二二、千圓	二、二二七、四九打	一〇、五二一、千圓
阪神兩港	二、一六八、五三三	七、五五八	二、一九九、七九九	一〇、四一七

阪神兩港本年の輸出は數量二百十六萬八千打餘、價額七百五十七萬六千圓餘を見前年に比し數量三萬一千打、價額二百八十四萬圓の減少であつた。  
 模造パナマは本品中最も多くを占め其の仕向先は米國を最とし佛國、濠洲、英國、加奈陀等なるが前年の好況に反し此の減少を見たるは世界的不況による各國の購買力減少並に前年來の未曾有の輸出激増の反動が其の素因をなすに至つた様である。  
 麥稈帽子亦同様流行の盛衰等から就中之が主消費地たる米國に於ては本品に對する禁止的重稅の賦課を見るに至り其他中華民國にありては日貨排斥、製帽業の勃興等に因り著しき減少を來したるが布帛及フェルト帽子は米國を除きては爲替關係等に因り各地に對し好況を見るに至りし事は次表の通りである。

最近二ヶ年阪神兩港品種別輸出高

模造パナマ	九四〇、三〇七打	四、四九二、千圓	一、二五三、三六打	七、二七七、千圓
麥 稈	六九、三五〇	三三七	一一〇、三七〇	四三八
布 帛	七四四、八一〇	一、一三四	三六九、六四四	六三九
フ ェ ル ト	二二〇、五五五	一、一五〇	一六六、三九九	八三五
其 他	二〇三、五九九	五七五	一、九〇、〇六〇	一、三三九

玩具

品名	七年	六年	五年
全 國	一五、二九千圓	九、八四千圓	九、三三圓
阪神兩港	五、四六	三、四三	三、七
セルロイド製	六、七〇千圓	五、四四千圓	五、三〇千圓
布 帛 製	二、三三	二、五三	四、二二
金 屬 製	一、〇三	六、七	七、三

最近三ヶ年阪神兩港品種別輸出額

阪神兩港本年の輸出額は五百二十四萬六千圓を見前年に比し百八十一萬一千圓の増加であつた。  
 元來本品は主として大阪、名古屋、東京地方で製産され其の種類はゴム製、金屬製、セルロイド製、木製、其他多様に亘るも、世界的不況により連年減退を辿りたるも本年は特に前表の如き増加を示した。  
 即ち北米、濠洲、印度、南洋等に於ては異常の進出振りを示したり、之言ふまでもなく爲替安なる好條件に恵まれたること勿論なるも他面本邦玩具の製造技術の顯著なる發達と相俟つて能く他國産業を壓倒したるに因るものであらう。

- 今本品輸出増加の跡を繙ぬるに
- 一、金輸禁止以來爲替下落を來し而も月を累ぬるに従ひ其の慘落甚大にして益々輸出を有利になしたること
  - 二、國內の財界不況は家内工業の勃興を促進せること
  - 三、製品の低價と品質向上は自ら海外に於ける需要を増加せること
  - 四、流行の變遷殊に兒童の啓發等に留意し新型玩具の製作に研究せしこと
- 等にして中華民國を除きたる他の對外輸出は概ね順調であつた。

刷 子

品名	七年	六年
陶磁器製	三、七	三、六
ゴ ム 製	一、三六	六、三三
木 製	五、四〇	一、七
其 他	一、五五	一、三三
全 國	二九、八五四圓	二、〇〇六千圓
阪神兩港	二、九七、七三	一、九三
其 他	六、三九、六九打	九、三
阪神兩港	六、三九、六九	九、七
全 國	一、九三、〇七七圓	一、四一、七千圓
阪神兩港	一、九一、五〇〇	一、四〇、六
其 他	四、四、六九打	八、六三
阪神兩港	四、四、六九	八、三

阪神兩港本年の齒用及其他刷子類の輸出額は二百九十萬圓に上り前年に比し六十五萬五千圓の増加であつた。  
 おもふに過去二千萬圓に達する輸出價額の記録を有するに拘らず其後世界的に需用の増大し居る現今之が輸出價額の半減し居るはこれ全く國産の愛用、輸入防遏、關稅の引上げ、半製品の輸出、爲替下落等の結果に因るものと觀られる。

而して其の仕向先に就て見るに主消費地たる米國へは爲替安により例年以上の躍進を期待されたるも關稅障壁に累せられ十五萬圓餘の出増に止まり、民國向にありて日支紛争に依り昨年來漸減の處本年は全く杜絶の狀態に陥りたりされど之に代り其の販路を印度、南洋方面に開拓するありて相當効果を收めたるもの、如く、從來獨逸品の勢力範圍に迄進出し斯く豫想外の好況を呈せしに徴すれば將來も尙發展の餘地ありと言はれ、其他各地共總じて爲替安の好影響並に内地不況切抜の爲め極力安價に仕向けられし等により活況を見るに至つた様である。

尙近來海外諸國に於ては高率關稅障壁を設くる爲め製品としてより寧ろ半製品としての輸出増加の傾向を示し殊に歐米方面よりは「選毛」の需要多く、又「竹ハンドル」の著増せるは注目し値すべく將來此等加工原料品の輸出は漸増の

傾向を有してゐる。

### 第三章 重要品輸入概況

#### 米 及 粃

本年阪神兩港の輸入は數量七十五萬二千三百六十三擔、價額三百六十一萬圓にして前年に比し、數量十三萬七千六百十八擔、價額百四十四萬圓の増加であつたが此が主要内容をなす精米及碎米に就き述べるに、近年飯米としての精米の輸入は内地、臺灣、朝鮮の増産から連年減少傾向を辿れるものであるが、本年の輸入は阪神兩港において數量十萬三千擔強、價額五十七萬圓を見、前年に比し數量一萬六千四百擔、價額十九萬三千圓の増額を見るの結果を來たした。此六年度の内地米收穫が五千五百萬石と前年に比し千百萬石餘の激減であつた處から内地需給の均衡の破れんことを豫期したると他方本邦對外爲替の軟調氣配による輸入品値上りを案じての見越輸入が上半大に行はれた結果であつて、シヤム米、トンキン米の輸入増加を來たしたが内地需給は案外均衡を保ち外米の供給を要せなかつたのと、九月に入り内地七年度收穫豐作が傳へられたため外米の輸入見る要なく又上半に輸入せる此等外米も臺灣、沖繩、民國方面へ轉買に腐心せる様である。

次いで碎米であるがこは製飴、酒精、醬油、菓子等の工業原料として安價なる點から逐年需要増加するもので、阪神兩港本年の輸入は數量六十四萬八千九百九十擔、價額三百三萬六千圓で前年の夫に比し數量六萬四千九百五十一擔、價額百二萬六千圓の増加を見たが主としてシヤム、米國殊にシヤムより其の過半が輸入された。

本品の輸入は製飴其他工業界の消長に刺戟さること甚しく自然上半期に比し下半期における本品の輸入は内地インフレ熱進行と相和して活況を見た。

#### 國別 外米 輸入 額

國別	七 年						六 年					
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	一月	二月	三月	四月	五月	六月
英 印												
佛 印												
暹 羅												
米 國												
其他 共 全 國 計												
内 阪 神 兩 港												

#### 市 價 推 移

市價推移を見るに三、四月頃産地出廻最盛期のため最も安く年末爲替關係から急騰を見た。

#### 暹羅白米一等品(百斤)

月	七 年	六 年
一月	五、二八	五、四三
二月	五、四三	五、四三
三月	五、四三	五、四三
四月	五、四三	五、四三
五月	五、四三	五、四三
六月	五、四三	五、四三
七月	五、四三	五、四三
八月	五、四三	五、四三
九月	五、四三	五、四三
十月	五、四三	五、四三
十一月	五、四三	五、四三
十二月	五、四三	五、四三

#### 小 麥

阪神兩港本年の本品輸入額は數量二百五十四萬擔、價額九百六十七萬六千圓にして前年の夫に比し數量においては約十八萬擔の減なりしも、價額は却つて爲替關係から二百四十四萬八千圓の増加を來たした。

外麥の輸入は近年製粉輸出の増加から漸増の傾向に在るもので本年において、も全國的に見るときは、輸入量前年に比し稍増加せること別表の通りであるが、六年末製粉會社が關稅の引上を見越して多量の輸入を行ひ七上半においてもこれが實現と爲替安による將來の輸入困難豫想から多量の輸入がなされし所へ、九月内地小麥の増産が傳へられて内地小麥價が割安となりしたため本品の輸入は前述の如き結果を見たのであつた。

尙主なる輸入國別を見ると濠洲依然第一位を占め、アメリカ、カナダ小麦の輸入減に拘らず、濠洲小麦の輸入は僅少なながらも前年に比し増加を見て居るがこれアメリカ、カナダの小麦がわが輸出粉用に不適なる上に、爲替關係から割高となりしに反し、濠洲小麦は同地増産の結果輸入採算上有利となりしことに歸因せる様である。

國別輸入額

米	五七、四八六擔	二二、〇六圓	一八七、七〇六擔	四八七、九九七圓
加 奈 陀	三、四六、四三三	一、五七、八六七	四七、〇〇九	一、三九、九一六圓
濠 洲	二、一三、七三三	七、八六、二三三	二、〇六、九三三	五、三六、一七七
其他共阪神兩港計	二、五〇、七七一	九、六七、三三三	二、七八、四〇〇	七、三三、四七七
全 國	三、四三、四三四	四九、五五、四三七	三、〇九、五三三	三、九五、九四〇

市價推移

神戸税關調に據ると爲替相場暴落と内地インフレ景氣にて著しき騰貴を來たしたるが、年末相場(百斤建)は、米國産ウエスタン、ホワイト二號品五圓五十錢、濠洲産普通品五圓、加奈陀産一號五圓六十錢、同五號四圓九十錢であつた。

大豆

阪神兩港本年の輸入は數量百四十萬五千擔、價額五百三十萬三千圓にして、前年に比し數量十三萬七千擔の減少なるも價額は反つて二十九萬五千圓の増加であつた。

本品は主として滿洲より輸入を見るものなるが、本年は滿洲における生産が兵匪の横行並に洪水のため著しく不作を告げたる結果生産出廻の不良並に爲替關係から輸入不利なりしたため前述の減少を見るに至つた。

尙内地における大豆の需要は菜子油の賣行不振に反して大豆油は好況を見たるため相當の活況を見るに至つた。

滿洲大豆生産狀況

本年滿洲大豆生産狀況につき滿鐵調査會の調査せる處によると事變の後を承け、剩へ北滿は前古未曾有の大水災を見たゞけにかなり成績不良だつたものゝ如く、北滿本年の收穫高豫想は二百二十五萬一千九百七十七噸で前年の七割四分に相當し、南滿の夫は二百十八萬七千四百八十三噸で前年に比し一分の増であつたと大連商工會議所月報一月號は報じて居る。

尙こゝに注意すべきは近時朝鮮大豆の生産が著しく増加し來たつた事實で七年の大豆生産高を見るに總督府調査に據ると四百四十萬九千石を見、前年に比し六分七厘の増加を見るに至り此が内地への移入は百七十萬三千石弱、價額二千四十八萬四千圓と前年に比し九萬五千石、六百七十萬圓の激増を來たした事實で、この朝鮮大豆の活躍亦滿洲大豆の本邦進出に相當打撃を與へたものと思はる。

大豆輸入額

全 國	七、八〇、六二九擔	三、三四、三七圓	九、五三、〇〇四擔	二七、八七、九七圓
内阪神兩港	一、四〇、三〇五	五、三〇、九六〇	一、五三、一六六	五、〇七、八五〇

市價推移

六年十二月金輸再禁止から國內物價の高騰に伴ひ暴騰を見たるも、新穀出廻期となり、賣行其に伴はざりしためじり安となりしが、八、九月の端境期に入ると共に又々急騰を見た。

東洋經濟調、滿洲白大豆中一石の東京市内卸賣價段左表の通りである。(單位圓)

六年十二月	八・八	五月	一〇・二	十月	一四・七三
七年一月	一〇・二	六月	一〇・六四	十一月	一四・五一
二月	一一・八	七月	一一・四〇	十二月	一三・九
三月	一〇・四三	八月	一四・八三		
四月	一〇・二	九月	一四・五一		

牛肉

阪神兩港本年の輸入は數量十四萬六千四百四十六擔、價額三百九十二萬二千圓にして、前年に比し數量十四萬四千四百七十三擔、價額三百九十二萬一千圓の激減であつた。

本品は主として中華民國、關東州、滿洲、及濠洲より輸入を見るものであるが、この内民國より輸入の、所謂山東肉は從來其の安價なる所から連年需要多く輸入肉の過半に及び居たる所、本年は當地よりの供給が前年に比し激減するに至れる結果本年輸入激減の因を與へたのであるが山東肉の内供給激減につき商工省調によると青島における共販會社に内紛を生じ、ために本年八月末より約三ヶ月間輸出不能に陥りたるに因するもので、年末この内紛は解決され又本邦業者の運動により護照料其他先方税金の割引等輸入障害事項の廢除に成功せる結果、爾後相當好轉せる様であつた。

濠洲肉は専ら罐詰原料であつて本年は多少其の輸入増加せるも、最近の傾向として滿蒙肉に押されつゝある状態である。

尙本年の市價は景氣回復後撻々しからざりしため、一般大衆の購買力少くために輸入肉の減少もさまで影響なく市價は低落傾向であつた。

主要國別輸入額

	七年	六年
關東州	五、七九擔	三、三三擔
北支	八八、五九四	二、五〇八
濠洲	二、八二九	七、〇〇一
其他共阪神計	一四六、四四六	七、八六七
全	一七三、三九九	二九、九二九
	四、四七九、五八	八、七三、三三

採油原料種子

阪神兩港本年の輸入は數量百五十四萬四千擔、價額七百二十二萬一千圓で前年に比べると數量において二十三萬一千擔の減少ながら、價額は市價騰貴のため三十萬五千圓の増額であつた。

而して輸入減の原因は、主要供給國たる支那の不作と上海事變の影響に因るもので、漢口種の如きは深刻なる排日のためと共產黨關係による搬出不能により取引殆ど杜絶の状態を見たといはる。

ためにわが製油界、殊に菜種を原料とする方面において大いに原料難を感じたのであるが、幸に數年來の努力による國內の菜種産額の増加により支那菜種輸入難は少なからず緩和を見たといはる。

阪神兩港品種別輸入額

	七年	六年
胡麻子	七四、〇六九擔	九二、五五擔
荏胡麻子	一一、七〇一	三、四、五〇
菜子	五、〇八六	一、二七四、八四
亞麻子	一〇、一四三	一、一五二、三三
大麻子	四八、四二六	三、五、五六
蓖麻子	一、四九、五三三	五〇、二二五
棉子	七〇、六七一	一一、九六六
其他	二、三、三四四	七、一〇、一〇三
阪神計	一、五四、〇三三	一、七五、三三三
全	二、五、六、三九九	六、九、五、九九
	一四、七、七、三九一	一四、五、四、七九〇

菜子を除いて棉子亦其の殆どが中華民國より供給さるゝものなるが、本年の同國よりの供給不振は、印度より補給を見、大體順調を見た。

荏胡麻子及大麻子は主として滿洲より輸入さる所、本年は産地不作のため出廻少きを見た。



### 牛皮及水牛皮

阪神兩港本年の輸入は數量十五萬七千六百擔、價額四百七十一萬七千圓弱にして、前年に比し數量五千擔餘、價額七十五萬八千圓の増加であつたが、これ全く本邦製革工業發達に伴ふ本品需要増進に因る、蓋し本邦原料皮の製産は内地並植民地の夫を合するも需要の半ばを供給するに過ぎず、殘餘の半ば海外に之を求むるの外なき現狀であるも本品の過半を占むる牛皮においては、資源局調査によるも、内地の畜牛は必ずしも皮を目的としない關係から本邦牛皮の生産は年々増加しゆく本品の需要を充し得ず輸入の増加は必然的であるといふから。

本年の輸入國別を見るに別表の如く依然米國、中華民國其の主要供給國であるが、而もこの中、民國よりの輸入は日支時局關係から可なりの激減を見て居る。

米國の供給は之に反しかなり増加して居るが、これ民國品に比し高級品で特殊用途に用ひらるものが多く、又民國品の輸入の杜絶から補給的に輸入されたものも相當あつた如く、これが輸入増の因をなした。

アルゼンチンよりの輸入亦増加を見たが同様に因る。

國別	輸入額	
	七年	六年
米國	六、六七〇擔	八、七三三擔
其 他 國	五、四三六	三、四〇五
全 計	一一、一〇六	一二、一三八
其 他	一、一六二	八、五三三
全 計	一、一六二	一、一六二
全 計	一、一六二	一、一六二

米國產牛皮年初百斤四十四圓見當なりし所、爲替關係から九月頃には七十圓臺を稱へ漸騰傾向であつたため、民國牛皮亦これに伴ひ著騰した。

### 革 類

阪神兩港本年の輸入は數量百二十七萬三千斤弱、價額二百六十三萬九千圓にして、前年に比し數量四十五萬八千斤、價額六十一萬四千圓の減少を見た。

全 國	輸入額	
	七年	六年
全 國	一、五四三、〇四斤	二、三三九、三四斤
阪 神 兩 港	一、一三三、八二	一、七二一、八八
其 他 國	一、三六九、〇五	三、〇一七、五二
全 計	一、一三三、八二	一、一三三、八二

近年吾國の生活様式の歐風化年と共に甚しくなりゆくと共に、革製品の需要は逐年増加し行く次第なるが、最近本邦の製革工業の發達に伴ひ原料皮の輸入は國產不充分なる關係上毎年増加し行く傾もあるも、本品の如き加工品は漸次内地において之れが製造を見るに至れる結果、輸入は連年減少の途を辿れるもので、殊に本年は六月關稅の改正あり、又下半年期に於ける爲替騰落を移しての輸入價格の騰貴は輸入採算を著しく不利に導ける結果、かく顯著なる減少の結果を生むに至つたものと見らる。

主なる供給國は英印、米國、獨逸、英國等である。

### 生 ゴ ム

阪神兩港本年の輸入は數量六十五萬二千擔、價額一千九十三萬三千圓で前年に比し數量十一萬六千擔、價額百五十一萬四千圓の増額であつた。

本年かく輸入の増加せるは世界不況によるゴム價安並本邦爲替先安見込からの思惑買が上半において相當なされた事に歸因せんも、亦此の相場安による内地ゴム事業界の活氣による需要増加に刺戟されたる處多々ありと思はる。

本品主要供給國は海峽殖民地、蘭領東印度である。

生産、本年の世界ゴム生産につき見るに、世界の八、九割を生産する英領馬來、海峽殖民地をはじめとして何れ著減

をなして居るが、これ需要不振によるゴム價の慘落の結果と見るべきで、この需要不振こそ世界最大のゴム消費國たる米國の自動車工業衰退に因するものだけに主要生産國間の減産の聲もゴム價維持をなし得ない状態に在る。

生産高(千トン)

大ゴム園	三〇年	三一年	三二年(朝日經濟年史)
マレー	二五	三五	二四〇
土人ゴム	一九七	一六	一七六
大ゴム園	一四	一五	一四三
土人ゴム	八九	八	六
セイロン(輸出)	六	三	四
其他共計	八五	八二	七〇

市價推移

生産の減少も、需要の減少に及ぼさる結果、需給關係の悪化は世界在荷の漸増となり、ために市價は更に不振の底に追ひ込まるに至り、五、六月頃最底一ベンスと、有史來の安値記録を見るに至つた。

國別輸入額

英 印	一七、八二擔	二五、五九圓	一八、六六擔	三三、〇七圓
海 殖	六、七三擔	一〇、九〇、一七	五〇、八六	九、二七、七四
關 印	三三、五〇	四、九五、八五	一八、〇三	三、二六、六二
其他共全國計	九五、三五	一五、九八、七三	七五、四三	一、二八、二六
阪神兩港	六五、九九	一〇、九三、九四	五五、五六	九、四二、〇五

硫 安

阪神兩港本年の輸入は數量九十八萬六千擔、價額三百五十萬圓強にして前年に比し數量約九十萬擔、價額四百五十

萬圓餘の激減であつたが、これ本年は、輸入許可制による外品の輸入抑制されたこと、及び圓爲替軟弱による外品の市價騰貴による輸入難に因ると見らるゝが、これがため却つて内地硫安界は著しく發展をなし、生産可なりの増加を來たし、製品値段亦高値を續け輸入許可制が年末に入り廢さるに及びても何等の打撃を受けなかつた様である。

阪神國別輸入額

關 東 洲	一九、四四擔	七、五〇圓	一擔	一圓
英 國	一九八、五五	八五、一九	三〇八、〇八	一、三四、二四七
獨 乙	七四、八五九	二、四九、三五七	一四三、五五	六、二七、三四四
和 蘭	一、一〇四	七九、〇七	六七、〇七四	二五八、二九
合 衆 國	九五、九四	三、五七、八六	二八、九五七	一四三、九五〇
阪 神 國	一、九七、九六	七、〇五、五四	一八七、六七〇	八、〇七、六六〇
全 計			三、七五、七九	一五、六六、三三

本品は主として獨逸、英國から輸入さるものであるが、本年は前述の理由から何れも前年に比し、此等諸國よりの供給著減した。

硫安配給組合調査によると七年の硫安生産高は、副成硫安を加へて七十五萬七千噸を見、前年に比し十六萬噸の増産で、本邦年需八十萬噸を自給し得るに至れるのみならず、輸入を加ふるときは可成りの過剰を來たす事となり尙目下の増産計畫によれば、八年度は百萬噸迄の生産が豫想さる結果、本品は近く輸入から輸出に轉するのではないかと

市價推移

輸入物大白一噸下旬相場(三井銀行考査課調)

一月	七五、三	二月	七五、〇〇	三月	七二、三	四月	六〇、〇〇	五月	五九、三〇
六月	五七、〇〇	七月	五五、三	八月	五五、三	九月	五三、三	十月	五三、七
十一月	九八、六七	十二月	一〇三、八三						

本品市價は前年末の金輸再禁止、硫安輸出入許可規則實施のため、年初割合に穩健なる相場を見つゝあつたが、需  
要筋たる農村の疲弊から相場は爾後軟弱を續け、七、八月を其の頂上としたが、九月頃から農村救濟策の實現、イン  
フレ景氣、爲替安或は硫安配給組合の結成、渴水による電力不足による品かすれから漸次好轉した。

### 棉花

阪神兩港本年の棉花輸入は數量一千二百二十萬七千擔、價額三億九千五百三十萬三千圓で、前年に比し百六十六萬三  
千擔、價額一億四千三百九十三萬二千圓の著増を見たが、此輸出部面における記録的活況の結果、各社の増産計畫の  
實現乃至は操業短縮の緩和、並上半における爲替先安見込による思惑輸入に因る。

而してこれが輸入品別を見るに、本邦紡績の細番化と共に、米棉の輸入は漸次増加の傾に在る處、本年は印棉が減  
收から市價割高となれる關係上、米棉の印棉に代りて輸入さるもの多く、甚しく増加を見たること左表の通りである。

#### 阪神國別輸入高

國別	七 年		六 年	
	數量	價額	數量	價額
民 國	三、八二一、〇四擔	一〇、五九九、三六圓	三、四三三、〇三擔	八、七九七、二六圓
印 度	二、四二一、三六七	八、二七〇、六三	四、九三、八四〇	九八、二七、八八
米 國	八、二九九、八二四	二、九三、一四、九四	四、八八、一七	三、七、八八、四四
埃 及	一九一、四四五	八、八〇四、一八	一六、一七、六	六、三三三、九四
其 他	三、二七一	六、七、三二	二五、七九五	二、九〇、八七三
計 全	二、二〇六、八五六	三、九三、三三、四七	九、五四三、五二	二、五二、三、七〇、八八
國 全	三、七四〇、二五六	四、四七、四〇、三九	二、一五六、八二	二、九六、二五、三九

**棉花消費** 紡績聯合會調によれば七年中の加盟會社の棉花消費總額は九百七十七萬三千三百擔にして、之を前年  
に比べると六十八萬九千七百二十三擔の増加である、而して之を輸入總額に比べると二百九十五萬六千八百四十五擔  
の相違があるが、元紡績聯合會加盟外紡績工場の消費、紡績用以外の使用及棉花再輸出を含まぬ故である。

### 麻 類

阪神兩港の輸入は數量八十四萬八千擔、價額九百五十六萬四千圓にして前年の夫に比し數量約九萬七千擔の減少な  
がら、價額においては圓爲替の軟調並市價騰貴を移して八十萬圓餘の減少であつた。

民國より輸入のラミー麻は同地戰亂に因る生産減並市價騰貴のため、本年の輸入量は減少せるも、價額は反つて多  
少の増額を見た。

比島より主として輸入のマニラ麻亦、生産減と市價高から減少、黃麻は主として印度、滿洲、民國より輸入を見るもの  
なるが本、年印度よりの輸入は前年輸入減のあとを受け、本年は品薄のためと爲替安による先高見込から輸入増大した

#### 阪神主要國別輸入額

國別	七 年		六 年	
	數量	價額	數量	價額
ラ ミ ー 麻	五、一六七擔	一、二八、二三四圓	三、八八六	一、二七、五五圓
大 民 國 麻	二、六四三	一、四六、〇三	四、〇八四	五、三六、四三
大 印 國 麻	三、三三三	三、五、二二	二、四五六	一、三、一三七
大 民 國 麻	八、四、七九	八〇、四、五三	二、八、二九二	七、八、六七三
大 印 國 麻	九、六、六〇	九六、七、五一	三、三、一九九	一、四九、二七三
黃 麻	二、〇〇、一五一	二、四、九、八八	九六、一五〇	八、九五、〇二
マ ニ ラ 麻	四、七、四九二	四、七、三三、四九〇	五、八、八六二	五、〇三、一、九八
比 島 麻	八、四、四五一	九、五、四、〇〇五	九、四、五、三〇四	八、七、三、三五〇
其 他 共 計	一、四、八、〇九七	一、四、九、九、八四	一、二、〇、二八三	一、二、四、四、五三九
全 國 計	三、七、四〇、二五六	四、四七、四〇、三九	二、一五六、八二	二、九六、二五、三九

生産事情、業者の觀測に依ると世界硬質麻生産は一九二六年より漸次増産、最近一、二年來價格暴落のため漸く減  
産傾向を帯び來り、相場も底入を告げ産地の景況は、歐米産業界の回復傾向と相俟ち徐々立直りつゝある模様である。  
尙本品本邦の消費を見るに、昭和六年頃を最上として、最近は稍減少の見込である。

一年の消費額硬質麻約五萬英噸、ラミー一萬五千英噸で新方面の需要發見されざる限り消費増は至難の由。

市價推移(昨年中)

マニラ麻中格品	最 低	二十三圓 (二百斤入壹俵)
	最 高	四十二圓 (同 同)
民國麻中格品	最 低	二十圓 (百斤建)
	最 高	三十八圓 (同)

羊 毛

阪神兩港本年の輸入は數量六十一萬二千擔、價額三千六百五十一萬九千圓餘にして、前年に比し數量一萬六千擔餘の増加であつたが價額においては却つて九百萬圓餘の激減を見るに至つた。

而してかく數量の増加にも拘らず價額の減少せる理由としては、主供給先たる濠洲羊毛の市價が終始軟弱を告げたること、並本邦羊毛工業の發達から從來輸入をあまり見なかつた大毛安價品の輸入もなざるに至り、自然單價を下落せしめたる結果と言はるゝ。

國別輸入額

濠 洲	七 年	六〇四、二九擔	五、九七四、八三圓
	六 年	一、〇三三	一五、〇三〇
其 他	七 年	六二、三三一	三、五九二、四〇
	六 年	一、五五三、九三	八、五九、四三
阪 神	七 年	一、五五三、九三	八、五九、四三
	六 年	一、四三〇、四〇	八、一四、七二
全 國	七 年	一、五五三、九三	八、五九、四三
全 國	六 年	一、四三〇、四〇	八、一四、七二

近年生活形式の洋風化と共に本邦の羊毛工業は著しく發達し、本品の需要は年と共に増し行くの觀あるもので、一九三二—三三年度濠洲市場における羊毛の買付は本邦第一位を占むるに至つた。

而して本邦の毛糸及毛織物の海外輸出も斯業の發達に伴ひ逐年増加しつゝあるが、尙輸入羊毛の一割内外に相當する

もので實に羊毛輸入の九割迄は國內消費に充てらる由である。

市價推移

日本羊毛工業會發表の濠洲シドニーにおける洗上羊毛相場を見ると次の通りで大體に軟弱に終始して居る。

(イ)メリノウール種(六四番—七〇番)

一 月	三〇・五	二 月	三三・五	三 月	(漸落ニ入ル)
四 月	二九・〇	五 月	二八・五	六 月(底トナル)	二七・〇
八、九月	二二・〇	十 月(再低落)	一九・五	十二月	二〇・〇
平 均	二〇・〇				

(ロ)雜種(五六番—六〇番) 二月二〇片迄上りしが爾後漸落を告げ三月一七片半、四月十六片半、五月一五片半より六月の一四片半迄續落を見たが其後漸騰して十月の十八片半回復、十二月一七片半を見た。

燐 礦 石

阪神兩港本年の輸入は數量四百四十四萬七千擔、價額四百九十七萬九千圓強にして前年に比し數量約百十萬五千擔價額百二十六萬一千圓弱の激増であつた。

本品は主に過燐酸肥料の原料として用ひらるものでラサ島、南洋群島中のアンガウル島にて本邦人經營により多少の生産はあるも本邦需要一割内外を供給するに過ぎざる次第にて主として米國フロリダ州物及エジプト、チユス、モロツコ・クリスマス島、マカテア島の燐礦石の供給に俟つものである。

本年過燐酸石灰の消費はインフレ景氣もあり著しく、ために會社筋は販賣高が生産高を著しく超過した由でこれ本品は他肥料に比し甚しく割安だつた關係上大いに買進まれたのであるが、因に七年度の本品生産高は高度品、低度品

合して八十八萬二千噸強となり前年に比し二十五萬七千噸の激増を見たる旨人造肥料聯合會は發表したがこれ燐礦石の本年輸入を刺戟せる原因と見るべきであらう。  
 尙本年の輸入は米國よりの輸入減じアフリカよりの輸入増加せるが之、爲替關係によるもので即ち對米爲替が弗の騰貴で對英爲替に比し著しく不利となりたるに歸因すと思はる。

國別輸入額	七年		六年	
	米國	其他共全國計	米國	其他共全國計
米國	二、八四、四九擔		三、五三、二四擔	二、九四、二八圓
埃及	三、四九、四三		一、三三、六八	一、三〇、七五
其他共全國計	九、三三、六三	一一、〇七、四九	六、八六、九三	七、二三、三五
阪神	四、四七、〇六	四、九九、三八	三、三二、七五	三、一六、四九

### 木材

阪神兩港本年の輸入額は一千七百四十五萬三千圓にして前年に比し四百六十八萬五千圓の減少であつた。  
 外材の輸入は内地建築界其他需要筋の打續ける不況による消化難と内地、樺太材の進出から連年減少を辿れるものであるが、本年は之に加ふるに對外爲替の軟調による輸入價の騰貴並關稅の改正ありたる結果さらに輸入減を見るに至つたもので、本品の大部分を占むる米國材、加奈陀材は著減を見るに至り、一時輸入増を豫想された沿海材も案外に増加を見なかつた。  
 而して此等外材の凋落により新に木材界に浮び出たものに北洋材が見られ、現在市場における木材取引の中心は南樺太材に移り米材、沿海州材、内地材は二次的存在となつたといはれ居る位で、外材の輸入はチーク、紫檀等特殊材を除いては今後益々減じ行くのではないかと考へらる。

### 木材輸入額

國別輸入額	七年		六年	
	全	大阪港	全	大阪港
全	一、七、四三、三九圓	三、一、二、四二圓	四、三、九、七四圓	三、三、九、七四圓
大阪港	三、五、〇九、〇七		四、三、九、七四	

國別輸入額	七年		六年	
	亞露	加奈陀	亞露	加奈陀
亞露	一、三三、五七圓		一、七、七、〇〇圓	
加奈陀	八、一四七、二五	三、九六、七〇	一、〇〇一、〇一	三、一七、九八
其他	一、六五、三三		二、一六、八七	

### 油粕

阪神兩港本年の輸入は數量三百一萬一千六百擔、價額八百七十四萬八千圓弱にして前年に比し數量百二十五萬五千六百擔、價額百六萬三千圓の激減を見たが、これ全く滿洲よりの豆粕輸入減に負ふ所大なるものがあつた。  
 豆粕 主として肥料に消費せらるゝ關係上、生産費高の農産物安に累年苦める内地農家としては割安なる肥料に需要が向けるは當然の事にして、此において本年七、八月における北滿の大洪水による大豆の減收、歐洲向大豆輸出の旺盛、爲替下落による市價割高を終始告げたるため本品の輸入は他肥料のために壓せらる態となり別記の如き減少を見たものである。  
 即ち豆粕の輸入は數量二百一萬三千九百四十一擔、價額五百五十三萬三千圓にして前年に比し數量百十七萬一千擔價額百五十萬圓強の著減を見た。

油粕輸入高	七年		六年	
	全	國	全	國
全	二、三、六、四〇擔	三、四、九、三三圓	一、九、六、〇八擔	四、三、四、六三圓

阪神  
内 豆 粕

三〇二、六六六 八、七四七、五八一  
二、〇三三、九八一 五、五五三、二三四

四、二六七、五三三 九、八〇〇、三三三  
三、一八四、九四四 七、〇八八、八二六

**其他油粕** 棉子粕、菜子粕其他を指すものなるが、主として本品は民國より供給を見る所、夏期長江筋の大水害による減収並日支時局關係から輸入減少を見るに至つた。  
而して主供給國たる民國産の輸入著減に因る一部需要に支障を生ぜるため爲替安による輸入採算不利を忍んで印度産菜子粕は相當の輸入を見るに至つた。

市價推移

豆粕市價は前記事情のため他種肥料に先んじ年初百斤二圓九十五錢を唱へたのが年末には三圓九十五錢と一圓方の騰貴を見るに至つた。

市價(百斤建)(神戸税關調)

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三・四	三・〇	三・三	二・七	二・五	二・八〇	二・八〇	三・〇五	三・七五	三・五	三・八〇	三・九

### パラフィンワックス

阪神兩港本年の輸入は數量七萬八千九百七十二擔、價額百三十九萬六千圓弱で前年に比べ數量三萬三千擔、價額二十二萬三千圓の減少であつた。

本品は主として英領印度、蘭領印度、ボルネオ、米國等から輸入され、蠟燭、マツチ、電線其他工業用に使用されるものであるが近時國産の増加著しく、且は爲替低落に因る輸入採算不利の事情もありてかくは減少を見たものと思はる。業者報ずる所に據ると本品の國産約二萬噸位なる由。

市價推移

上期安値を稱へたが關稅の改正とインフレ氣構から下期においては相場著騰を來たし、期末には本年安値の倍額を唱へるに至つたが、此がため安價なる内地硬化油は蠟燭原料として相當本品領土内に喰ひ込めるやに聞く。  
主なる本邦生産業者、日本精蠟株式會社、日本石油株式會社、小倉石油株式會社

### 苛性曹達、曹達灰及天然曹達

全 國  
阪 神 兩 港

一、二四三、四九擔 七九八、八三

一、五九八、六三擔 八、一五〇、千圓 九五五、三九二 五、五七

本年の輸入額は前年に比し三十五萬五千二百十三擔、百七十六萬圓を減少した。これを品種別より見れば苛性曹達は前年に比し二十二萬三千五百擔、百三十萬六千圓の減少、曹達灰及天然曹達は同じく十三萬一千七百十三擔、四十二萬九千圓減である。

輸入國別としては英國、阿弗利加及米國であるが、英國よりは苛性曹達及曹達灰、阿弗利加よりはマカチ曹達、米國よりは苛性曹達及天然曹達輸入せられる。

全國品種別輸入額

苛性曹達(粗製)  
曹達灰及天然曹達

四六九、七五七擔 七三三、八三

六九三、五七擔 二、九四八 九〇五、六五 二、九四八

國別輸入額

滿 洲 國  
中 華 民 國  
英 國

三、三六擔 四〇、一八五 六四一、五六〇

一擔 一、千圓 一〇、八三三 二、九三 三七、二六 二、三三

米	一三〇、八六〇擔	一、〇三三、〇〇〇
阿弗利加	三三三、一〇〇	一、二五五
其他	四八、六〇四	三三五
計	一、二四三、六〇九	六、三三九

米	四九、七三三擔	二、八四四、〇〇〇
阿弗利加	四九五、三三二	一、三三七
其他	一四一、八六九	九七三
計	一、〇八七、九三四	八、一五〇

本年に於ける曹達界の趨勢を見るに最悪の状況より一躍して好況時代を現出したもので特に波瀾重疊を極めた、先づ曹達灰について見るに本年上半期にありては輸入品殊にプラナモンド社製品と本邦品との間に猛烈な競争を惹起し相場は下落の一方を辿り市況不振であつた。加之需要は減退し滞貨累積し益々生産業者を苦境に陥らしめた。爲替相場の引続き低落を重ねて居る折にも拘らず輸入品は九月十五日迄値上を斷行せず市況は鈍重を呈してゐたが値上後は俄然混亂状態を呈し、他面硝子其他の製品の輸出旺盛に伴ひ本品の實需も激増するに至り先高見越を以て盛に思惑買行はれた。

曹達灰月印九五疋入各月中旬建値

自一月	至八月	九月	十月	十一月	十二月
六、五〇	六、二〇	六、〇〇	七、四〇	八、九〇	一三、五〇
輸入品月印	七、〇〇	六、四〇	六、四〇	六、四〇	六、六〇
内地品					

次に苛性曹達について述べるに、本品は従来主として電解法により製造せられたるを以て晒粉との關係上製造高制限せられ、従て國産の供給力低く、昭和六年に於ては年需要約八萬噸の内半は輸入品を以て充當した。而して本品も曹達灰同様本年上半期に於て輸入品及内地品間に激烈なる競争演ぜられ市價引続き低落を示したが、輸入品は九月値上を斷行しプラナモンド製品百封度につき六圓より八圓五十錢に引上げ、内地品も之に追隨し特に下半期よりは大需要筋たる人絹、石鹼其他方面の需要激増し市價益々騰勢を維持した。

各月中旬百封度建値

三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六、八〇	〇	〇	〇	〇	〇	六、六〇	八、五五	八、五五	一〇、五〇
三三、五〇									

漆

全	七	六
國	二〇、四九擔	二六、一〇三擔
阪神	一九、七三	二五、六六
兩港	一、八三	二、〇六
國	二、〇四千圓	二、二二千圓

阪神兩港本品の輸入は前年に比し五千九百六十六擔、百十七萬五千圓の減少を示してゐる。

本品は奨励金交付の制度を設けて内地生産を企圖されつゝあるが未だ好成绩を收め得ず、生産は依然として全消費の三十%程度である。従來本品は支那奥地産のもの其品質良好と認められてゐる。本年は平年作と稱せられし金輸再禁止以後爲替相場の漸落は思惑的に買付を招來し相場常に動搖し不安なりし所、上海事變の突發し排日氣分漲り買付意の如くならず、爾後三ヶ月に互り入荷杜絶の餘儀なきに至つた。其後排日熱の緩和、長江洪水の退水と共に漸次出廻を増加せしめたが春以來の入減を相殺するに至らず前表の如く輸入減を示した。

由來本品は漆器製造に四十%乃至五十%消費せられ次で車輛塗裝、鐵器錆止め用、塗下駄、建築塗料等に用途を有

してゐるが近來洋式塗料の「ニトロセルローズ」「人造ラッカー」等の長足の進歩に依り使途次第に壓迫せらるゝに至つた。然し需要量は些したる増減を示して居ないのは前年來上等品の需要漸減し下等品の需要急激に増加したる結果である。即支那産の輸入減じ之に代ふるに佛印産の安價なるもの次第に増加の模様である。

阪神兩港國別輸入額

國	七年	六年
中華民國	三、五〇三擔	一九、五二擔
佛印	六、三三〇	一、六九三千圓
日本産(上物)貫建	二〇圓	六、〇三三
同(下等品)	十一月 一七、五〇	五七
支那産(上物)百斤建	一月 一〇〇圓	
同(下等品)	三月 二一〇圓	
佛印産(標準品)貫建	一月 一五〇圓	年 末 一五五圓
	三月 一六〇圓	
	七月 一五五圓	
	九月 七、五〇	
	十二月 八圓	
	一月 五圓	
	二月 五、八〇	
	七月 六圓	
	八月 一七圓	
	四月 二〇、五〇	

日本産は品質最も優良なれど産額僅少なれば割高である。内地不況により賣行減退し夏期に向ひて稍々低落を告げたが爲替慘落に伴ひ輸入品の昂騰に伴ひて其後漸騰に傾いた。

硝子板

全 國	七年	六年
全 國	一、八六五、三五平方	三、三三〇千圓
阪神兩港	五五、五七	一、六三三
		八五、一〇〇
		一、三三三

阪神兩港輸入額は前年に比し數量に於て三十五萬八千五百十三平方の減少、價額に於ては二十二萬圓の増加となつてゐる。

本品は内地に於て多年之が改良進歩に研究努力の結果其効成りて最近殆ど完成の域に達し、輸入品に比して聊の遜色もなく本邦品にて充分需要を充し得るに至つた。

一ヶ年内地生産高約三百萬函を算し、輸入は高價なる特殊品約七、八萬函の程度である。邦品生産額の増加及び回爲替の下落に依り自ら輸入數量の減少を來し、加ふるに従量税三割五分の關稅増徴を行ひし結果愈々輸入品をして不利ならしめた。然し價額の反つて増加せるは爲替關係によるものである。

内地にて一般に厚さ二耗のものが多い。四耗以上ものは特殊品に屬し主として汽車電車の窓又は硝子鏡に用ひられ累年需要増加の傾向あるを以て我國に於ても一昨年より厚物の生産を開始し比較的良好なる成績を收めたが日尙淺く輸入防遏の一助となるも未だ生産僅少にして内地の需要を充すに足らず大部分は尙海外より輸入せられてゐる。

合成染料

全 國	七年	六年
全 國	九、〇六千圓	七、二六千圓
阪神兩港	八、五二五	六、八七四



本年の全國輸入額は前年に比し數量に於ては三萬六千五百六十四斤を減じてゐるが價額に於ては百七十八萬四千圓の増加となつてゐる。この減量増額の關係は勿論爲替下落による價格の昂騰に原因してゐる。本年上半期に於ける輸入多量に達せしは關稅三割五分の増徴見越の輸入及金輪再禁後に於ける織物界活況による需要増に基因してゐる。種類別に見る時は左の如くである。

	七年	六年
人造藍	九三、八〇四斤	一、四五千圓
鹽基性染料	二七、四〇三	一、四四五
直接染料	六四、八七五	一、八三三
酸性染料	五五、九七一	一、五七〇
媒染々料及酸性媒染々料	四七、三九九	一、三二二
硫化染料	一四、三三〇	三、三六
建築々料	一八、六四四	一、〇七
其他	五、九二二	一、六〇
計	三、三九、二七	九、〇六

人造藍は前年に比し一萬七千七十二斤、九萬七千圓の減少を示してゐる。本品の需要は現今大略百萬斤三百萬圓と認められ、従前は需要莫大なるものありしも將來の趨勢としては漸減の傾向にあるもので、本邦に於ける製造も漸くその緒につき近き將來には自給の域に達するであらう。直接染料は前年に比し十四萬八千六百五十二斤、十六萬四千圓を減じた。これは本邦に於ける生産増加に因る。酸性染料及媒染々料は夫々七萬九千五百三十三斤、四十七萬九千圓及四萬八千四百七十八斤、三十二萬圓を増加してゐるがこれは毛織工業發達による需要増加に基因してゐる。本年の染料界を通過するに本邦絹織物、綿織物、人絹織物の輸出旺盛なるに伴ひ染料の需要激増したるものにして爲替低落の爲外國染料の輸入困難となれる折柄大に本邦染料の需要を促進したる結果生産は前年に比し五割増の盛況を呈するに至つた。

國別輸入額

國	七年	六年
英國	二、二七九斤	三、五二四圓
佛國	二〇一、六六四	三、三
獨逸	一、九四一、三三三	四、九九九
瑞西	五八、一三三	二、〇五
米國	四七、四六一	一、二七七
其他	七、五五八	二、五七
計	三、二九三、二七	九、〇六

獨逸及佛國よりの輸入増加は未だ本邦に於て製造せられざる種類乃至は生産僅少のものにして、北米品は本邦に於て製造せらるゝ程度のものなれば本邦品の生産増加に従ひ輸入減少したのである。

毛織糸

全	七年	六年
國	二、四〇四千斤	五、二二二圓
阪神兩港	二、二六〇	四、五七七

本年度全國輸入額は前年に比し數量に於て約六割六分價額に於て約五割八分の減少である。最近輸入せらるゝ毛織糸は海外諸國に於ける大量生産品にして價格も本邦品に比して甚しく割安なるもの又は特種製品にして未だ本邦内地に生産せられざるもので、主として變り織原絲及セルジス、サージ、モスリン用原絲たる六十四番、五十二番絲等である。之等は本邦毛織物工業の發達による需要増加と共に輸入も累年増加しつつあつたが本年度輸入は前年度中に於ける輸入品の滯貨と本邦毛織絲紡績品の生産増加及び圓爲替の崩落による輸入價格の割高に一般輸入業者の輸入手控へたる等の事情により減少したのである。

品種別輸入額

梳毛のもの	七年 三、一八三、千圓	六年 六、九八、千圓
其他	七年 三三二	六年 三、二九、千圓
計	七年 三、四一五	六年 一〇、二七、千圓

仕出國別に見れば従来主要の位置を占めたる獨逸よりの輸入が本年度は特に激減したるは、同地に於ける主要毛織絲工場が財界不況の爲倒壊するもの多く生産額の減少せると、價格も自ら騰貴したのによるものである。其他波蘭品の輸入減は前年同地品の割安なりし際盛んに輸入せられ爲に相當の滞貨を來せしによるものである。

國別輸入額

英 國	七年 一、四一九、千圓	六年 一、五〇三、千圓
佛 國	七年 二五	六年 一八三
獨 乙	七年 六	六年 一、七〇〇
白 耳	七年	六年
伊 國	七年	六年
奧 地	七年 一〇	六年 九〇九
波 蘭	七年 七、七	六年 二、八三二
其 他	七年 四	六年 八
計	七年 二、四〇四	六年 七、一四七

バルブ

全 國	七年 一、七三三、七四擔	六年 一、七〇三、六二擔
阪 神 兩 港	七年 一、三四〇、五五	六年 一、三四五、四二

前年に比し本年全國輸入額は九千二十二擔、三百四十八萬八千圓の増加である。斯如數量に比較し價格の増大したるは勿論爲替關係に基きバルブ相場の騰貴によると雖も高價なる人絹用バルブの輸入多量なりしもその一因である。輸入國としては加奈陀を第一とし北米次いで諸威、瑞典及獨逸の諸國である。本年は加奈陀品減少したるも其餘の諸國殊に北歐品に於ては何れも増加を示した。大體加奈陀品は安價なること並に契約後一ヶ月にして到着するに反し北歐品は三ヶ月を要するを以て自然加奈陀品多く輸入せらるゝ次第なるも、本年は上記の如く人絹用バルブ多く此等は主として北歐より輸入せられた關係上加奈陀品の輸入は減少した。

國別輸入額

英 國	七年 一、五、六九五擔	六年 三〇〇擔
獨 乙	七年 一、〇〇、九二	六年 三、一四一
瑞 典	七年 二七三、五〇〇	六年 一、七〇〇、一三
諸 威	七年 三五五、五五	六年 一、七四、〇七
米 國	七年 三、七四、七二	六年 三、九八、四五
加 奈 陀	七年 四、五、五七	六年 六、九、二八
其 他	七年 一〇八、一七	六年 九、〇六
計	七年 一、七三三、七四	六年 一、七〇三、六二

本年特に需要の激増したのは人絹用バルブである。本年人絹界は輸出入絹織物の活況に伴ひ好調を呈し、生産六千四百三十八萬封度と算定せられ従つて人絹バルブの需要も莫大に達し大約四萬噸内外と推定せられた。内約三萬噸は北歐より尙多少は米國より輸入せられたるもので、内地品としては従来品質均一に於て遺憾の點あり輸入品を好んで

使用せらるゝ傾向あつたが、本年は輸入品の割合に伴ひ内地品を漸く混用するもの多くなるに至つた。  
 本年に於ける價格の推移

昭和七年一月	サルフアイトバルブ晒内地品												
	最高	五・三錢	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	最低
二月	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・二
三月	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・三
四月	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・三
五月	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三	五・二
六月	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・四	五・二
七月	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・四
八月	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七	五・四
九月	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	五・七
十月	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・八	六・七
十一月	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	六・九
十二月	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇	八・〇

昭和七年一月	同瑞典品(封度當り)												
	最高	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	最低
二月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
三月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
四月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
五月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
六月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
七月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
八月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
九月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
十月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
十一月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五
十二月	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	七・三	六・五

昭和七年一月	同末晒内地品												
	最高	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	最低
二月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
三月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
四月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
五月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
六月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
七月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
八月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
九月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
十月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
十一月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三
十二月	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・三

石油

品種別輸入額	七 年	六 年
全 國	一、三三、四、八四〇ガロン 三、五三、三、三〇圓	一、三〇、一、三九〇ガロン 三、五、九、九〇圓
阪 神 兩 港	三、九、六、六二	三、三、七、七三
五 月	四・八錢	五・二錢
六 月	四・八五	六・四
七 月	四・八	六・一五
八 月	五・〇	六・一五
九 月	五・五	六・七
十 月	五・七	七・〇五
十 一 月	六・〇	七・七
十 二 月	六・八	七・〇二

本年度全國輸入額は前年に比し數量に於て一千三百三十四萬三千六百ガロン 價額五十四萬二千圓の増加となつてゐる。

揮發油の輸入は上半期に於て著しく多額に達したのは關稅引上の見越に基くものにて、從て下半期に入りては著しく減退し結局全年を通じ前年に比して約一割を増額したるに止つた。次に燈油はその輸入高前年に比して百七十萬九千二百ガロン五十三萬圓の増加である。本年に於ける生産高二千三百二十一萬三千三百ガロンの内三割は内地産原油を以て其餘は外油を以て製造せられる。

本年石油界の趨勢を見るに本邦對米爲替は金再禁止以來下落の一方を辿り、上半期末に於て三十弗を割り下半年に至りては益々落調を辿り二十五弗より遂に年末には二十弗を唱ふるに至つた。従つて輸入石油の原價騰貴したるは勿論のことにして他面六月十五日よりは關稅三割五歩の引上げ實施せられ且つ米國に於ける原料油價の騰貴も加はりたれば、本邦石油市場は當然昂騰を告ぐべき所各石油會社間に於ける激烈なる販賣競争の結果却つて市價低落を招來し、石油界の前途頗る憂ふべき情態に至つた。茲に於て八月下旬遂に値上斷行せられし所自動車業者側の反對に會ひ實行困難なるに至つたが十月中旬懸案漸く解決を見十二月中旬第三次値上げ實行せられ、かくて業界の安定を見た次第である。

### 貝殼

全	七年	六年
三、五、一、元擔	二、七、四、千圓	二、九、七、三、六擔
一、九、四、三、七	二、六、三、三	一、七、七、五、八
滿洲國	二、三、六、六、六擔	一、五、千圓
關東州	一、五、一、一、〇	一、〇、一
中華民國	一、二、四、四、四	九、五、七、六
香港	一、四	一
英領印度	七、七、七	六、四
英領印度	二、二	一、八

阪神兩港本年輸入額は前年に比して一萬二千五百九十九擔、三十萬五千圓の増加である。近來本品の商況は優良品の賣行兎角不振にして一般的に割安品を歡迎する氣配濃厚なれば高級品の原料たる濠洲産高瀬貝の輸入逐年減少に赴き之に代り安價なる支那産Dフ貝及海峽殖民地のアンダーマン島産のアンダーマン貝の需要漸増した。本年支那は主採取地たる長江筋が未曾有の水害を被むりし爲出荷鈍く著しく輸入を減退した。關東州よりの輸入は蠟殼にして鶏の飼料に供せらる。

海峽殖民地	蘭領印度	比島	英領印度	伊國	米國	加奈	墨西哥	東阿	濠洲	新西	布哇
二、九、六、五擔	一〇、〇、〇、〇	三、七、八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四、四、千圓	三、六、四	五、七	一	六	一	一	一	一	一	一	一
二〇、四、三、三擔	一、〇、五、四	二、五、八	一	二	一	一	一	一	一	一	一
二、五、七、千圓	三、七、五	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一

### 銑鐵

全	七年	六年
七、四、〇、七、〇、五擔	二、三、一、七、五、千圓	六、六、五、七、四、五擔
三、四、九、六、四、八	五、六、九	三、六、八、六、〇、三
阪神兩港	七、四、〇、七、〇、五擔	二、三、一、七、五、千圓
滿洲國	一、三、〇、五、四、三擔	二、四、四、三、三擔
關東州	三、〇、〇、七、六、四	二、七、四、三、五
中華民國	一、一、〇、四、九、九	一、三、九、五、六、三
中華民國	一、一、三	二、三、五、六

本品の全國輸入高は前年に比し數量に於て一割一分、價額に於て八分四厘の増加となつてゐる。

英領印度	一、六四、六〇擔	三、〇七、七千圓	二、九〇、一七擔	三、六六、六千圓
英國	四九、一〇九	一、六六	六、一四三	一、四八
獨乙	五、一六三	三〇	一八、八六八	三
白耳義	—	—	—	—
瑞典	八、六九九	六	二四、四七	七
米國	五、一六九	三〇	九、〇三	元
其他	—	—	—	—
計	七、四〇、一六五	三、一七五	六、六五、四四五	一一、三九

關東州及滿洲國より輸入せらるゝものは鞍山鉄、英領印度よりは印度鉄、中華民國よりは本溪湖鉄である。本年上半期に於て關稅引上見越並に圓價下落に因る市價高値を豫想して多額に買付けられたが、下半期に入りて著しく減少した。本年の内地及朝鮮製鉄高は百十七萬二千疋にして前年よりは約一割の増産である。内地市況は上半期に於て圓價低落、關稅引上も需要不振の爲其の反響は少く、相場も年初三十三圓より六月には三十圓に下落した。九月以降製鋼造機方面の活況により反撥し九月には三十三圓、年末には三十五圓となつた。

### 鐵 (條竿、アングル型)

關東州及滿洲國より輸入せらるゝものは鞍山鉄、英領印度よりは印度鉄、中華民國よりは本溪湖鉄である。本年上半期に於て關稅引上見越並に圓價下落に因る市價高値を豫想して多額に買付けられたが、下半期に入りて著しく減少した。本年の内地及朝鮮製鉄高は百十七萬二千疋にして前年よりは約一割の増産である。内地市況は上半期に於て圓價低落、關稅引上も需要不振の爲其の反響は少く、相場も年初三十三圓より六月には三十圓に下落した。九月以降製鋼造機方面の活況により反撥し九月には三十三圓、年末には三十五圓となつた。

本品は造船及建築材料の需要増加に伴ひ數年前迄は國內需要額の約半數を海外よりの輸入に仰ぎし状態にあつた。然し其後打續く財界の不況により需要減及び極力輸入品防遏、國産品奨勵に努めし結果近年は外國品は特殊品を除き

著しくその輸入を減少せんとする傾向にあるものである。本年に於ける輸入状況を見るに十二月の金輪再禁止を契機として幾分市況を恢復したが實需の伴はざる爲其後下落に傾き六月十六日より關稅引上げられたるも大したる影響を與へなかつた。偶々八月時局救済豫算の通過と共に一般財界稍々活氣付き八月末より買氣現はれ十月に入りては國際關係悪化と共に軍需工場の需要旺盛となり爲替安、在庫薄、本國相場硬化と二重三重に好材料の發生に爆發的相場を出現し市價は本年初期に比し年末には約十割に近き騰貴を示した。

### 鐵力板

本年に於ける輸入状況を見るに十二月の金輪再禁止を契機として幾分市況を恢復したが實需の伴はざる爲其後下落に傾き六月十六日より關稅引上げられたるも大したる影響を與へなかつた。偶々八月時局救済豫算の通過と共に一般財界稍々活氣付き八月末より買氣現はれ十月に入りては國際關係悪化と共に軍需工場の需要旺盛となり爲替安、在庫薄、本國相場硬化と二重三重に好材料の發生に爆發的相場を出現し市價は本年初期に比し年末には約十割に近き騰貴を示した。

全 國	七 年	一、〇五七、八三擔	一、三、三四千圓	六 年	七五五、八八擔	八、四九〇千圓
阪神兩港	四、五、三〇八	五、四九	二九、三六	二、二、六七	—	—
餘	—	—	—	—	—	—

### 鐵板 (電鍍せざるもの)

全 國	七 年	三、七三、四四擔	三、〇九千圓	六 年	五〇九、二四擔	三、四六千圓
一四五	—	—	—	—	—	—

阪神兩港

三、八七三

一、五七

三、五〇三

一、一六

阪神兩港本年の輸入額は數量二十二萬八千七百擔餘、價額百五十九萬七千圓にして前年に比し數量十二萬二千三百六十九擔、價額七十八萬八千圓の減退であつた。

由來本品は輸入鐵類中最も重要な地位を占め厚物は造船、橋梁、薄物は珐瑯鐵器等の材料として使用せられ従つて厚板の需要は海運界の盛衰等に左右せらるゝこと大である。

今や世界經濟の大勢は恐慌深刻化の傾向を示し、加之關稅引上、輸入制限、貿易管理等極端なる保護政策の擡頭を見、世界經濟は細分化傾向を招來するに至りたり、然るに翻つて我國は日支事變勃發し國家的重大事件に逢着したるも金輸再禁止以來爲替漸落に依り對中華民國を除きたる對外貿易は概ね幾分順調に經過せるものゝ如くであつた。

而して之が輸入状況を見るに獨逸を除きたる諸國は何れも著しき減少を示し一昨年に比すれば實に半分にも足らざる大激減振りであつた。

之れ爲替安に因る輸入不利なる點もあれど特に近年我國に於ける製板技術の發達に因りたるは見逃し得ず、特殊品を除きては之が輸入漸減の運命を辿るものゝ様である。

ワイヤロツド

全 國

四、四八三擔

二、四三三擔

一、〇六、一三擔

四、二九千圓

阪神兩港本年の輸入は數量二十五萬六百擔餘、價額百三十八萬五千圓を見前年に比し數量五十六萬三千三百五十八擔、價額百七十一萬三千圓の激減であつた。

本品は鐵釘及鐵線製造に用ひられ之が需要は運輸關係の發達に伴ひ製釘、製鋸、製線工場を増設と共に増加するに至り、數年前に於ける國內の産額は需要の過半に過ぎず之が不足を輸入品に俟つの外なき状態にありしが近來此の種

の産業は著しき發展の緒に就き一部特殊品を除きては既に國産品を以て充分代用なし得る現狀に到達せることゝて政府の保護政策と相俟つて本品の輸入は漸次遞減の一途を辿るべきものと觀られる。

而して之が仕出國は獨逸最も多く次いで北米合衆國、白耳義、瑞典、佛蘭西等である。

市價推移 神戸稅關調査に依れば(噸建)

一月	七・五五	五月	八・七〇	九月	八・〇〇	生 産 製鐵所參考資料に依れば(單位噸)
三月	六・五〇	六月	六・〇〇	十月	八・〇〇	製 鐵 所
三月	八・〇〇	七月	六・〇〇	十一月	七・〇〇	民間製鐵所
四月	八・〇〇	八月	八・〇〇	十二月	一〇・〇〇	計
						六 年
						七 年

錫 (塊及錠)

全 國

七 年

五、二七擔

五、九六千圓

三、五七千圓

阪神兩港本年の輸入は數量二萬五千七十四擔、價額二百七十二萬一千圓を見前年に比し數量七百二擔、價額百十萬九千圓の増加であつた。

本品は青銅、活字合金、ハンダ鐵等の合金製造用原料として使用せらるゝ外或は箔として又は鍍力板として其の用途は頗る廣汎である、加之青銅其他の合金は各種兵器の部分品、附屬品として軍需上缺くべからざるものである、然るに内地生産は極めて少く需要の八割内外を輸入に俟たねばならぬ現狀である。

而して之が仕出地は本品輸入總量の過半を占むる海峽殖民地を首位とし香港、蘭領印度、中華民國等が之に次いでゐる。

各國に於ける錫生産額

七 年

六 年

馬來半島	二六、八五〇	五、四五七
ボリビヤ	二〇、九三三	三、二二一
蘭領印度	一五、一四三	二、七八三
暹羅	九、四〇九	二、四五一
中華民國	六、六九九	六、三三六
ニゼリヤ	四、六四四	七、三六五
日本	一、四三三	一、四三三
其他諸國共計	九六、三五四	一四八、九九三

(資源局調査に依る)

### 鉛 (塊及錠)

全 國	七 年	六 年
阪神兩港	九三、三三三擔	八五、二五擔
	五九、七三三	四〇、〇〇〇
	五、六六九	四、三三五

阪神兩港本年の輸入は數量五十六萬九千七百擔餘、價額五百九十六萬九千圓に上り前年に比し數量十四萬九千六百八十擔、價額百七十一萬四千圓餘の増加を見た。

本品の用途は頗る廣く或は合金として彈丸を作り活字を製し半田鑼を作り其他工業用材料として逐年需要増加の傾向にあり、然るに内地に於ては之が生産極めて少く爲に殆んど輸入品によりて其の需要を充たし居る状態である。

之が供給國を見るに從來加奈陀、米國、濠洲の順位なりしが、一時極端なる減少を見たる濠洲品再び擡頭し却つて米國を凌駕せる結果を來してゐる。

近年内地財界極度の不振により本品の輸入も亦減退に傾きつゝありしが日支事變勃發を契機とし本年は軍需方面の消費相當多く經濟界も幾分の安定を見市況頗る活況を呈し前表の如き増加を招くに至つた。

市價推移 商工省調査に依る當大阪市の卸賣相場は (百疋建)

一月	一八、四二	五月	一五、三三	九月	一九、九〇
二月	一八、三三	六月	一三、六六	十月	一八、六六
三月	一五、六六	七月	一三、九六	十一月	一三、三三
四月	一四、七七	八月	一六、六六	十二月	一八、九〇

生産 日本銀行調査に依る各國の鉛生産額は

米 國	七 年	六 年
濠 洲	三五、八八佛噸	三七、二四佛噸
墨 西 哥	一七、九五三	一五、八二八
加 奈 陀	一三〇、四二六	二二、三六六
西 班 牙	二四、四八八	二九、三七一
獨 逸	一一、四八二	一九、七九
其他諸國共計	六、三三四	一〇、一〇〇
	一、七、一三三	一、一〇、〇〇〇

### アルミニウム (塊、錠及粒)

全 國	七 年	六 年
阪神兩港	七九、八五擔	四六、四七擔
	五九、四三六	三二、八三三
	三、八〇九	一、五〇九

阪神兩港本年の輸入は數量五萬九千四百三十八擔、價額三百八十萬九千圓に上り前年に比し數量二萬七千六百十五擔、價額二百三十萬圓の増加であつた。

アルミニウムは白色輕金屬として近年用途著しく擴大せられ先づ日常家庭用品より醫療器、電線、航空機材料、自動車部分品に至る迄逐年銅鐵の王座を侵すの勢にも拘らず内地の生産は皆無にして例年米國、獨逸、瑞西、加奈陀等より輸入を仰ぐ状態である。

而して前年には内地工業の不振に因り激減を見たるも本年は先高見越の内地需要増加等殊に軍需工業の活況により斯くの如き増加を招致するに至つた。

尙本品は神戸港の減少に反し大阪港に増加を見たるは即ち之が加工々業の中心地は依然大阪地方なる關係上各船會社の航路延長に伴ひ業者は同運賃にて専ら大阪港揚とせる結果に因るものと觀られる。

生産 製鐵所參考資料に依る各國の生産額は

國	七年	六年
米	四七、五五越	八〇、五三越
諸國	一九、五〇〇	二二、三〇〇
加奈陀	一七、八〇〇	三〇、九〇〇
佛蘭西	一四、二〇〇	二四、四〇〇
瑞恩	一三、八〇〇	一六、〇〇〇
獨逸	一三、七五五	二六、七〇〇
伊太利	一三、一〇〇	一一、五〇〇
英吉利	八、八三五	一五、〇〇〇
其他共計	一五、二九五	三〇、四三三

市價推移 商工省調査に依る當大阪市の卸賣相場は (二冠建)

月	七年	六年
一月	一一二	一四八
二月	一一六	一四七
三月	一一八	一三七
四月	一一八	一八三
五月	一一三	一八七
六月	一一三	一七六

### 亞鉛 (塊、錠及粒)

國	七年	六年
全	三、四八、四〇九擔	四、六四、四〇〇
阪神兩港	三、六九、三三五	三、四四、四
其他	三、六九、三三五	三、四四、四

阪神兩港本年の輸入は數量二十六萬九千二百三十五擔、價額三百四十二萬四千圓にして前年に比し數量五百七十七擔の減少に反し價額百九萬七千圓の増加を示した。

本品は平浪鐵板、針金、釘、瓦斯管等に主として使用せらるゝ外、或は眞鍮、ベイント又はゴム、人絹製造等に消費

され殊に最近に至りては軍需工業品としての實需其他航空機具にも相當の量を見、供給國は加奈陀、濠洲にして總量の九割を占め米國之に次いでゐる。

而して市況を觀るに先づ當初に於ける上海の形勢險惡化に伴ひ先高見越の買物旺盛を極め、市價の暴騰を始めとし例年の閑散期にも拘らずローザンヌ會議の成功、國際第二錫プールの設立、國際商品の騰勢、米財界の好轉等の世界的強材料出揃ひ内地市場も強調の折柄爲替安は一段と拍車をかけ一向に大勢は下押す模様がなく、其の間海外市場は英國政界動搖、米國大統領選舉を控へ反動的情勢を惹起し、斯くの如く本年は奔騰にまた奔騰の足跡を残し、亞鉛を原料とする諸製品の値上りは亦著しかつた。

生産 日本銀行調査に依る各國の生産額は

國	七年	六年
米	二二、三四七米噸	三〇、七八米噸
白耳義	一〇、九一〇	一五、三六二
波蘭	九、〇〇〇	一四、九六〇
加奈陀	八、八六六	一一、三三三
英國及濠洲	八、八四三	八、七六六
佛國	五、二三三	六、九三三
其他諸國共計	八七、三三二	一一、二九、八六八

市價推移 日本輸出亞鉛鐵板工業合組の調査に依れば (百冠建 A%物)

月	七年	六年
一月	二五・〇〇	二七・八〇
二月	二五・〇〇	二八・五〇
三月	二五・五〇	二九・八〇
四月	二三・〇〇	二九・二〇
五月	二四・〇〇	四一・三〇
六月	二四・三〇	四一・〇〇

### 毛織物

國	七年	六年
全	二〇、四七千圓	九、九三千圓
阪神兩港	五、五八四	五、五三三



本年度中輸入額は前年に比し四十九萬四千圓、約五分の増加を示してゐる。  
 本品の輸入は最近本邦毛織物工業の發達により生産著しく増加すると共に技術の進歩は羅紗、セルジス等の洋服地をも生産するに至り、之等は内地の需要に供給するのみならず海外諸國にも輸出するの状況にして特種品以外の一般毛織物地の輸入は之を阻止するに至り漸減の状態にある、本年度英國より輸入せられたる洋服地及婦人小兒服地の價格が圓價崩落により割高なりし爲輸入價額を増加せしめた。  
 本年度輸入せられたるものは英、獨、佛、諸國の生産に係る一平方米の重さ五〇〇瓦以下のセルジス及綿毛製一平方米の重さ二〇〇瓦以下のアルパカ類にして小兒服及裏地用として需要しつゝあるものを主とし其他は高級品に屬する羊毛製品、毛絹綿交織物、天鵝絨、ブラシユ類の縞もの變織等、男女洋裝地及室内裝飾品材料として輸入せられたるものである。

品 種 別 輸 入	七 年		六 年	
	圓	方碼	圓	方碼
天鵝絨及ブラツシユ類(絹及綿入共)	二、一〇五、四〇〇	四、千圓	三、三〇八、方碼	二一
毛製羅紗セルチアルパカ類	二、三六五、一〇〇	六、五五八	二、五三三、五二二	六、〇三三
一平方米二〇〇瓦以下	一、六五五、四八四	三、三三	二、九七、四三三	四、八〇
同 五〇〇瓦以下	二、〇九三、二五三	五、六六七	二、〇四一、五九〇	四、九〇〇
其 他	一、〇六、三六三	五、六七	一、七四、四九九	六、五三
毛 綿 製	四、四一五、〇七六	三、五七五	四、六一五、五〇五	三、五四〇
一平方米二〇〇瓦以下	三、七三三、三〇五	二、七五	三、七五二、〇六七	二、六七七
同 五〇〇瓦以下	三、五、〇八二	七、七五	七三三、二九五	七三
其 他	二、六、六九	四〇	一、四二、四三三	一四一
毛絹及毛綿絹製	一、〇、四七	三、六四	一、四、七	四、〇七
計	一〇、四七	一〇、四七	九、九三	九、九三

英國より輸入せらるゝ男子洋服地は前年財界の不況と國産品愛用獎勵により輸入著しく減少し、本年度は其滞貨殆んど消費せられたるが故に相當の輸入を見獨逸品の輸入は一昨年同地有數の毛織會社倒壞以來減少し佛伊品の輸入は最近英米品の輸入に壓倒せられたると本邦財界不況による需要減により減少を見たのである。

國 別 輸 入 額	七 年		六 年	
	圓	方碼	圓	方碼
英 國	八、五九七、千圓	七、八四、千圓	七、八四、千圓	二、九四
佛 國	一、五七	一、九四	一、九四	一、九四
獨 逸	一、五四二	一、六九	一、六九	一、六九
伊 國	七	二	二	二
米 國	一、六	二〇	二〇	二〇
其 他	一、六四	一、九二	一、九二	一、九二
計	一〇、四七	一〇、四七	九、九三	九、九三

### 紡績機械

全 國	七 年		六 年	
	圓	方碼	圓	方碼
阪神兩港	一、四〇、三六擔	七、九、千圓	六、三、四九擔	三、五、三、千圓
計	一、〇、六、三	五、五、三	六、三、三、五	三、〇、四、三

阪神兩港本年の輸入は數量十一萬六千八百八十擔餘、價額五百五十二萬圓に上り前年に比し數量四萬五千四百四十七擔價額二百四十七萬九千圓の増加を示した。

之金輪再禁止直後に現はれたる財界の好轉を契機として各社一齊の増産設備を見、更に輸出部面未曾有の活況に依り又會社の新設ありて爲替漸落に先ち急遽之が輸入を促進せし結果に因りしものと思はる。  
 從來英國、佛蘭西等より輸入せらるゝものは綿紡機を主とし、獨逸、瑞西よりは紡毛用紡機を主とせしが本年英國

品に増加せるは前年中に於ける既發註文の本年に輸入を見たる結果にして専ら綿紡機であつたと言はれてゐる。

### 金屬工及木工機械

全 國	七 年		六 年	
	數量	價額	數量	價額
阪神兩港	二八九、三九斤	五、八八千圓	三八六、九三擔	三、〇五千圓
獨逸	一一四、七四六	二、〇五	一一四、七三六	一、四六
米 國	一〇一、四四萬圓	二二、四四萬圓	一一、四七	三、九三
英 國	三三、七	三、四	六、〇	〇、一
佛 國	四、五	〇、一	〇、一	〇、一
日 本	〇、一	〇、一	〇、一	〇、一

### 各國に於ける工作機械輸出高

阪神兩港本年の輸入額は數量百十四萬五千七百四十六斤、價額二百九萬三千圓に上り前年に比し數量四千三十斤、價額五十九萬七千圓の増加であつた。

之れ本年は軍需工場の活況に依り内地品の供給不足を來したるため右の如く著しく増加を見たのである。

本品中其の大部分を占むるは重量二千五百疋を超えざる範圍のものにして前年に比し實に二倍半に及び輸出國は英國、獨逸、米國等である。

### 自動車及同部分品

阪神兩港本年の輸入額は五百四十八萬七千圓にして前年に比し三十一萬三千圓餘の減少に止つたが此圓爲替軟調による單價の騰貴に因るもので實質的には可成りの激減であつた事左表から推し得よう。

### 阪神自動車及同部分品輸入額

自 動 車	七 年		六 年	
	數量	價額	數量	價額
シャツシ	三九八	三二、一四五	五三三	四五四、八一
タイヤ	一六、五三斤	一四九、七六	九四、九〇斤	七五、八七六
其 他	—	四、二七〇	—	三、九三、七三
阪 神	—	五、四七、〇三	—	五、七九、三五
全 國	—	一四、八二、四三	—	一六、三九、二六

本品は關稅の關係から部分品としての輸入多く主として米國よりの供給に俟つものであるが本年はわが國爲替の軟調に因る輸入採算不利のため前記の減少を見たるものにして尙前記數字の大半は上半期圓爲替の先安を見越しての思惑輸入に負ふ所多く下半期の輸入は著減を見たと思はれる。

而して本年の輸入減が爲替動搖に在つたことは勿論とする所であるが亦一面本邦内地自動車工業の發達と内地需要の漸く飽和状態に達した點も大いに影響せるやに思はれる。

即ち資源局調査に依る七年八月末の本邦自動車數現在高は十萬三千餘輛に達し大體に飽和状態に達せるもの、如く其の需要増加率は著しく減じ來つた由でこれが最近の前年比較増加率を見るに昭和二年二八%、三年二四%、四年三二%と遞増せるもこれを峠として五年一〇%、六年九%、七年五%と顯著なる遞減を示せることかうした事情も本年輸入減に多少の動因を與へたものと思はれる。

# 大阪港輸出入品國別明細表

	輸出之部	輸入之部
第一類 植物及動物	一	三
第二類 穀物、澱粉、澱粉及種子	一	三
第三類 飲食物及煙草	二	三
第四類 皮毛角牙類同製品	九	六
第五類 油脂蠟及同製品	一〇	七
第六類 藥材化學藥及爆發藥	三	七
第七類 染料顏料及塗料類	一六	七
第八類 絲織繩索及同材料	一七	八
第九類 布帛及同製品	一九	八
第十類 衣類及同附屬品	三	八
第十一類 紙及紙製品	三六	七
第十二類 礦物及同製品	四	七
第十三類 陶磁器及硝子類	三	七
第十四類 鐵及金屬	四	七
第十五類 金屬製品	四	七
第十六類 時計、學術器、船車及機械類	五〇	一〇三
第十七類 雜品	五	一〇

# 大阪港輸出品〇八類別

① 其ノ他ノ植物及動物		② 支佛		精		支中		香		印		海		水		蘭		佛		獨	
國名	數量	價額	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
支北	一、七五	一、七五	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇
支北	一、七五	一、七五	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇	三、五〇

計 其ノ他ノ米及粉		大		計		支北		支北		支北		支北		支北		支北		支北		支北	
數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一、三六	一、三六	二、三六	二、三六	三、三六	三、三六	四、三六	四、三六	五、三六	五、三六	六、三六	六、三六	七、三六	七、三六	八、三六	八、三六	九、三六	九、三六	一〇、三六	一〇、三六	一一、三六	一一、三六
一、三六	一、三六	二、三六	二、三六	三、三六	三、三六	四、三六	四、三六	五、三六	五、三六	六、三六	六、三六	七、三六	七、三六	八、三六	八、三六	九、三六	九、三六	一〇、三六	一〇、三六	一一、三六	一一、三六

計 其ノ他ノ豆類		大		計		支北		支北		支北		支北		支北		支北		支北		支北	
數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一、三六	一、三六	二、三六	二、三六	三、三六	三、三六	四、三六	四、三六	五、三六	五、三六	六、三六	六、三六	七、三六	七、三六	八、三六	八、三六	九、三六	九、三六	一〇、三六	一〇、三六	一一、三六	一一、三六
一、三六	一、三六	二、三六	二、三六	三、三六	三、三六	四、三六	四、三六	五、三六	五、三六	六、三六	六、三六	七、三六	七、三六	八、三六	八、三六	九、三六	九、三六	一〇、三六	一〇、三六	一一、三六	一一、三六

計 小		大		計		支北		支北		支北		支北		支北		支北		支北		支北	
數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一、三六	一、三六	二、三六	二、三六	三、三六	三、三六	四、三六	四、三六	五、三六	五、三六	六、三六	六、三六	七、三六	七、三六	八、三六	八、三六	九、三六	九、三六	一〇、三六	一〇、三六	一一、三六	一一、三六
一、三六	一、三六	二、三六	二、三六	三、三六	三、三六	四、三六	四、三六	五、三六	五、三六	六、三六	六、三六	七、三六	七、三六	八、三六	八、三六	九、三六	九、三六	一〇、三六	一〇、三六	一一、三六	一一、三六

支滿	密	計	濠	合	西	伊	獨	比	蘭	海	印	香	關	南	中	北	支滿	蔬	菜	ノ	漬	物	計	其	他	濠	土	西	伊	
一三、五三	六、七六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八、九二	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九
一三、五三	六、七六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八、九二	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九

關	支	中	北	其	他	ノ	果	實	核	子	計	海	印	關	支	中	北	支	中	北	林	計	其	他	濠	土	西	伊		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

香	關	支	中	北	其	他	ノ	茶	計	濠	獨	比	蘭	海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	支	中	北	支	中	北		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

關	支	中	北	其	他	ノ	糖	計	比	印	香	關	支	中	北	水	計	關	支	中	北	精	計	合	獨	佛	比	蘭	海	印	香	關	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

3

海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	其	他	ノ	穀	粉	計	濠	比	蘭	海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	支	中	北				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	其	他	ノ	生	蔬	菜	計	濠	比	蘭	海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	支	中	北				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

支	中	北	干	計	濠	獨	佛	暹	比	蘭	海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	支	中	北	支	中	北	支	中	北	支	中	北					
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

獨	佛	暹	比	蘭	海	印	香	關	南	中	北	支	中	北	其	他	ノ	乾	蔬	菜	計	濠	比	蘭	海	印	香	關	南									
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

2



**同 (其ノ他ノ飲料)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
八九	二五二	一四四	一五	六	六	三	六	九	三	二	一	一	一	一	二	六
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (調味料)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
六、六九	二、四九	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八	一、二八
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (其ノ他ノ魚)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
一、二九	三、〇〇	二、八〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (其ノ他ノ鳥獸肉)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
七、六〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (其ノ他ノ飲料)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
二、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (蟹)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
六、四〇	二、四〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (其ノ他ノ魚)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
五、三三	三、二八	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

**同 (其ノ他ノ貝)**

計	滿	支	滿	北	中	南	關	香	印	海	水	蘭	比	佛	合	計
五、三三	三、二八	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

西	士	伯	東	澤	布	計	紙	卷	煙	草	其	他	ノ	煙	草	支	滿	北	關	支	毛	關	中	北	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合							
							三	八	、	三	五	、	六	、	三	三	八									二	六	、	一	、	七	、	六						
							五	、	六	、	八	、	二	、	七	、	八									二	六	、	一	、	七	、	六						

加	墨	漆	新	其	他	計	其	他	ノ	皮	毛	骨	角	齒	牙	支	滿	北	關	支	毛	關	中	北	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合	加	新							
							五	、	二	、	七	、	五	、	八	、											一	、	一	、	一	、	一	、							
							一	、	四	、	一	、	一	、	一	、											三	、	三	、	三	、	三	、	五	、					

計	其	他	ノ	皮	毛	骨	角	齒	牙	支	滿	北	關	支	毛	關	中	北	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合

計	其	他	ノ	皮	毛	骨	角	齒	牙	支	滿	北	關	支	毛	關	中	北	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合

同	蔬	菜	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合	同	調	味	料	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合					

同	清	酒	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合	同	其	他	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合								

同	麥	酒	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合	同	其	他	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合									

同	其	他	ノ	食	料	支	滿	北	關	支	毛	計	英	佛	獨	伊	合																				









Explosives table with columns for various regions and values. Includes '爆薬' and '燐寸'.

Explosives table with columns for various regions and values. Includes '燐寸' and '爆薬'.

Lead table with columns for various regions and values. Includes '鉛' and '丹'.

Lead table with columns for various regions and values. Includes '鉛' and '丹'.

Spinning and cord table with columns for various regions and values. Includes '麻絲及麻線' and '繩'.

Spinning and cord table with columns for various regions and values. Includes '鉛筆(金銀ヲ用ヒタルモノヲ除ク)' and 'コイルタール及ビツチ'.

Other line cord table with columns for various regions and values. Includes '其他ノ線繩紐類'.

Other line cord table with columns for various regions and values. Includes '其ノ他ノ線繩紐類'.

眞綿											
紡績絹織糸											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一八、七六八(斤)	三、四、九五	三、七、三五	三、八、二七	一、一、一五	一、一、二二	一、一、二九	一、一、三六	一、一、四三	一、一、五〇	一、一、五七	一、一、六四
二、一、三三	二、二、〇〇	二、二、六七	二、三、三四	二、四、〇一	二、四、六八	二、五、三五	二、六、〇二	二、六、六九	二、七、三六	二、八、〇三	二、八、七〇

テグ											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
三、八、九〇	四、〇、五七	一、〇、二七	五、七、八	五、一、三三	五、二、〇〇	五、二、六七	五、三、三四	五、三、〇一	五、三、六八	五、三、三五	五、三、〇二
一、八、九〇	一、九、五七	二、〇、二四	二、〇、九一	二、一、五八	二、二、二五	二、二、九二	二、三、五九	二、四、二六	二、四、九三	二、五、六〇	二、六、二七

其、他ノ絲縷繩索及同材											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一、一、二	一、八、〇〇	五、一	二、二	三、〇	九、一	一、八	二、七	三、六	一、〇	二、一	三、二
一、二	二、九	一、一	二、二	三、三	四、四	五、五	六、六	七、七	八、八	九、九	一、〇

⑨生地綿布(大尺巾)											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七	一、五、八七

綿織糸(20番迄)											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇

同 (40番迄)											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇

同 (其、他)											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇

麻類(屑及故ヲ含ム)											
支滿											
支滿	北	中	南	支滿	北	中	南	支滿	北	中	南
一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇



同(フランネル)

支滿	二、六九五(方碼)	五七三
北	三、〇七九	五八三
中	三、四九六	五、五七八
關	三、四九六	七、四九四
香	六、九七三	一、三、四七一
印	二、六	五
海	三、八六五	五、七九七
蘭	二、四三三	三、九一九
比	二、六七九	五、一九〇
亞	三、六五五	七、三
南	七、〇〇〇	一、五三〇
埃	一、六八六	二、一九四
東	一、四〇二	三、三一
阿	一、四〇二	一、五八、三〇六
計	七、五、六、六、六	一、五八、三〇六

同(金布)「幅34吋以上」

支滿	四、三、六、五(方碼)	空、五、一
北	五、八、五、一	八、二、八、八
中	三、八、九、九、八	三、〇、九、七、五
關	八、七、三、七、七	一、三、七、二、八〇
香	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
印	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
海	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
蘭	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
比	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
亞	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
南	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
埃	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
東	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
阿	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇
計	一、三、七、二、八〇	一、三、七、二、八〇

同(粗布)

支滿	四、〇、〇、〇(方碼)	四、八、五
北	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
中	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
關	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
香	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
印	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
海	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
蘭	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
比	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
亞	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
南	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
埃	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
東	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
阿	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇
計	四、〇、〇、〇	四、〇、〇、〇

同(其他)

支滿	九、七、九、九(方碼)	八、七、三
北	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
中	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
關	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
香	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
印	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
海	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
蘭	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
比	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
亞	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
南	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
埃	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
東	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
阿	一、三、一、三	二、〇、〇、〇
計	一、三、一、三	二、〇、〇、〇

其他ノ綿布(縞三綾、絲染)

支滿	二、六、七、三(方碼)	四、九、六、五
北	一、九、四、七	一、二、五、八
中	九、〇、〇、〇	一、一、二、五
關	一、一、五、三、一、五	一、一、五、三、一、五
香	二、二、五、七、五	三、三、三、二、七
印	一、〇、九、〇、三、三	一、三、八、四、三、一
海	一、七、三、三、〇、五	一、五、九、〇、九
蘭	一、六、〇、〇、〇	三、九
比	二、五、三、五、四、九	三、九、三、五、四、九
亞	八、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇
南	七、五、六、八、五	二、〇、〇、〇、九
埃	一、九、四、二、三、七	一、七、〇、三、三
東	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
阿	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
計	七、三、四、四、一〇	一、〇、三、一、三、三
支滿	一、九、四、二、三、七	一、七、〇、三、三
北	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
中	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
關	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
香	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
印	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
海	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
蘭	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
比	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
亞	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
南	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
埃	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
東	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
阿	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三
計	三、三、一、三、一	一、七、〇、三、三

同(其他ノ綾木綿)

支滿	三、七、三、六、二	一、四、六、〇、〇
北	九、九、三、六、二	一、四、六、〇、〇
中	一、〇、八、八	一、五、一
關	三、三、〇、〇	四、七、七
香	三、三、〇、〇	四、七、七
印	三、三、〇、〇	四、七、七
海	三、三、〇、〇	四、七、七
蘭	三、三、〇、〇	四、七、七
比	三、三、〇、〇	四、七、七
亞	三、三、〇、〇	四、七、七
南	三、三、〇、〇	四、七、七
埃	三、三、〇、〇	四、七、七
東	三、三、〇、〇	四、七、七
阿	三、三、〇、〇	四、七、七
計	三、三、〇、〇	四、七、七

同(其ノ他ノ綾木綿)

支滿	一、一、四、四(方碼)	一、八
北	三、三	五、一
中	九、四、五	二、二、七
關	一、七、〇、二	二、二、七
香	八、九	七、三、三
印	六、四、六	七、三、三
海	八、八	一、四、一
蘭	六、四、六	一、四、一
比	六、四、六	一、四、一
亞	六、四、六	一、四、一
南	六、四、六	一、四、一
埃	六、四、六	一、四、一
東	六、四、六	一、四、一
阿	六、四、六	一、四、一
計	六、四、六	一、四、一

同(其ノ他ノ綾木綿)

支滿	二、三、〇、七(方碼)	三、八、六
北	三、三、〇、七	三、八、六
中	三、三、〇、七	三、八、六
關	三、三、〇、七	三、八、六
香	三、三、〇、七	三、八、六
印	三、三、〇、七	三、八、六
海	三、三、〇、七	三、八、六
蘭	三、三、〇、七	三、八、六
比	三、三、〇、七	三、八、六
亞	三、三、〇、七	三、八、六
南	三、三、〇、七	三、八、六
埃	三、三、〇、七	三、八、六
東	三、三、〇、七	三、八、六
阿	三、三、〇、七	三、八、六
計	三、三、〇、七	三、八、六

同(其ノ他ノ綾木綿)

支滿	一、二、三、四(方碼)	二、三、四
北	一、二、三、四	二、三、四
中	一、二、三、四	二、三、四
關	一、二、三、四	二、三、四
香	一、二、三、四	二、三、四
印	一、二、三、四	二、三、四
海	一、二、三、四	二、三、四
蘭	一、二、三、四	二、三、四
比	一、二、三、四	二、三、四
亞	一、二、三、四	二、三、四
南	一、二、三、四	二、三、四
埃	一、二、三、四	二、三、四
東	一、二、三、四	二、三、四
阿	一、二、三、四	二、三、四
計	一、二、三、四	二、三、四

支滿	計	土	ア	邁	蘭	印	香	關	支	中	北
支滿	計	土	ア	邁 <td>蘭</td> <td>印</td> <td>香</td> <td>關</td> <td>支</td> <td>中</td> <td>北</td>	蘭	印	香	關	支	中	北
五八,三五三	一五,九九五	三,二八六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六
三二,八三四											

支滿	計	新	湓	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
支滿	計	新	湓	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
三,三五五	一四,八八六	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	二,二八	

支滿	計	湓	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
支滿	計	湓	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
一三,二八八	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四

支滿	計	土	ア	邁	蘭	印	香	關	支	中	北
支滿	計	土	ア	邁 <td>蘭</td> <td>印</td> <td>香</td> <td>關</td> <td>支</td> <td>中</td> <td>北</td>	蘭	印	香	關	支	中	北
一八,一三五	三六,三三三	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四	一,一八四

支滿	計	土	ア	邁	蘭	印	香	關	支	中	北
支滿	計	土	ア	邁 <td>蘭</td> <td>印</td> <td>香</td> <td>關</td> <td>支</td> <td>中</td> <td>北</td>	蘭	印	香	關	支	中	北
一三,八三四	一五,九九五	三,二八六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六

支滿	計	弗	東	阿	埃	葡	土	希	和	佛	英	細	ア	邁	蘭	印	香	關	支	中	北	
支滿	計	弗	東	阿	埃	葡	土	希	和	佛	英	細	ア	邁	蘭	印	香	關	支	中	北	
七,一六七	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五	一〇,二四五

支滿	計	英	ア	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
支滿	計	英	ア	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
一三,八三四	一五,九九五	三,二八六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六

支滿	計	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
支滿	計	比	蘭	海	印	香	關	支	中	北
一三,八三四	一五,九九五	三,二八六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六	一,六六六



東	1,500	553
計	860,603	355,704
同 (染繻子)	1,277,977 (方碼)	533,590
支滿	378,209	95,186
北	40,257,207	9,847,676
中	5,640,376	1,290,766
南	7,000	1,640
關	5,980,823	1,507,331
香	2,311,434	458,633
印	3,831,033	777,222
海	3,233,562	722,933
比	2,434,550	2,757,622
蘭	2,100	567
暹	2,577,995	577,912
ア	2,021,211	1,433
細	455,466	98,600
獨	2,833	451
典	1,683	480
諾	1,500	451
土	2,900,000	25,298
埃	370,757	68,957
阿	9,799	2,033
東	2,949,999	23,133
其他	1,200	1,848
計	7,977,833	1,777,667
同 (捺染繻子)	2,950 (方碼)	28,000

支滿	1,011,266	21,999
中	2,711,307	687,533
北	1,440,334	341,673
計	5,162,867	1,251,165
同 (四綾)	9,611,250	1,399,433
支滿	1,596,733 (方碼)	88,553
北	899,278	15,533
中	2,447,798	5,633,255
南	6,244,499	1,444,744
關	2,509,698	3,447,755
香	85,633	19,475
印	9,111,333	17,297
海	7,000	1,000
比	1,667	598
暹	2,375,666	20,433
ア	1,599,666	3,660
細	1,599,666	4,127

佛	4,667	1,383
土	4,667	1,133
埃	955,574	195,987
東	2,333	370
非	7,000	1,565
其他	700	1,500
計	5,788,000	2,791,506
同 (變り織)	777,677 (方碼)	333,421
支滿	1,633,394	367,707
北	1,947,711	446,150
中	767,574	173,500
南	7,777,574	1,758,874
關	1,623,333	333,421
香	700,211	175,210
印	2,683,333	333,421
海	6,833	20,500
比	3,500	74
蘭	9,333	2760
暹	4,098	10,000
土	2,683,333	3,449,666
埃	7,760	14,857
阿	1,833	3,622
東	4,900	9,499
其他	8,333,666	1,941,500
計	8,333,666	2,704,900
同 (ポプリン)	377,799	9,900

北	1,244,333	377,999
中	5,883	2,667
計	6,333,211	1,991,886
同 (其他)	1,277,977 (方碼)	258,666
支滿	2,333,562	708,833
北	2,307,261	568,433
中	9,933,277	2,878,899
南	3,333	38
關	3,333,562	799,800
香	2,711,150	544,333
印	1,066,666	2,488,533
海	5,127,133	865,071
比	6,733	1,051

蘭	15,810,677	2,933,198
比	577,633	14,509
暹	2,844,333	3,200
ア	2,766,666	3,779
細	5,521,211	110,877
英	5,133	3,956
伊	10,000	3,200
土	6,662	5,133
歐	3,000	3,6
亞	2,333,333	3,833
南	2,633	850
埃	4,444,500	7,300,966
阿	2,844,333	6,577
東	1,711,666	4,500
非	6,666,666	8,333
其他	9,900	2,974
計	44,677,066	8,981,557
同 (綿入共)	2,600 (方碼)	110
支滿	1,444	3,577
北	1,906,555	2,199
中	444	6,733
計	3,855	7,508
同 (綿入共)	2,600 (方碼)	110
支滿	1,444	3,577
北	1,906,555	2,199
中	444	6,733
計	3,855	7,508
同 (綿入共)	2,600 (方碼)	110
支滿	1,444	3,577
北	1,906,555	2,199
中	444	6,733
計	3,855	7,508

中	9,500	5,533
關	5,533	844
印	1,444	1,444
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974

計	2,340,477	2,081,455
同 (綿入共)	2,340,477	2,081,455
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974

計	3,100	633
同 (綿入共)	3,100	633
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974
同 (同)	1,444 (方碼)	2,966
支滿	1,444	2,966
北	1,444	3,974
中	2,133	3,974
計	2,133	3,974

其ノ他ノ絹織物(綿入ヲ含ム)

蘭	八五九	一、三三〇
細	三、〇三〇	三、四〇〇
埃	五八	七
東	三三三	一、五九
布	三三	五、六
計	六、二九五	六、六六四
支	六、二九五	六、六六四
滿	六、二九五	六、六六四
中	六、二九五	六、六六四
北	六、二九五	六、六六四
關	六、二九五	六、六六四
印	六、二九五	六、六六四
海	六、二九五	六、六六四
蘭	六、二九五	六、六六四
暹	六、二九五	六、六六四
南	六、二九五	六、六六四
海	六、二九五	六、六六四
印	六、二九五	六、六六四
關	六、二九五	六、六六四
支	六、二九五	六、六六四
北	六、二九五	六、六六四
中	六、二九五	六、六六四
計	六、二九五	六、六六四

人絹琥珀及ボブリン(同)

東	四二	一、五〇四
弗	八五〇	一、九〇〇
計	六、九八八	一、〇五〇
支	六、九八八	一、〇五〇
滿	六、九八八	一、〇五〇
中	六、九八八	一、〇五〇
北	六、九八八	一、〇五〇
關	六、九八八	一、〇五〇
印	六、九八八	一、〇五〇
海	六、九八八	一、〇五〇
蘭	六、九八八	一、〇五〇
暹	六、九八八	一、〇五〇
南	六、九八八	一、〇五〇
海	六、九八八	一、〇五〇
印	六、九八八	一、〇五〇
關	六、九八八	一、〇五〇
支	六、九八八	一、〇五〇
北	六、九八八	一、〇五〇
中	六、九八八	一、〇五〇
計	六、九八八	一、〇五〇

人絹縮緬及壁織(同)

計	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
支	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
滿	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
中	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
北	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
關	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
印	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
海	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
蘭	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
暹	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
南	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
海	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
印	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
關	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
支	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
北	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
中	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五
計	一、三、九七、七九	三、三、三、二九五

其ノ他ノ人絹織物(同)

合	八五〇	三、八三
南	三、三三五	七、五九四
埃	二、七五	一、六四五
東	五、六〇	一、九八三
弗	三、五八三	一、八五一
計	九、〇〇	四、四
支	九、〇〇	四、四
滿	九、〇〇	四、四
中	九、〇〇	四、四
北	九、〇〇	四、四
關	九、〇〇	四、四
印	九、〇〇	四、四
海	九、〇〇	四、四
蘭	九、〇〇	四、四
暹	九、〇〇	四、四
南	九、〇〇	四、四
海	九、〇〇	四、四
印	九、〇〇	四、四
關	九、〇〇	四、四
支	九、〇〇	四、四
北	九、〇〇	四、四
中	九、〇〇	四、四
計	九、〇〇	四、四

メリヤス地

埃	一、八七、六四一
阿	三、三、六二七
東	一、五、九七五
弗	一、〇七、三五〇
計	三、三、三
支	三、三、三
滿	三、三、三
中	三、三、三
北	三、三、三
關	三、三、三
印	三、三、三
海	三、三、三
蘭	三、三、三
暹	三、三、三
南	三、三、三
海	三、三、三
印	三、三、三
關	三、三、三
支	三、三、三
北	三、三、三
中	三、三、三
計	三、三、三

其ノ他ノ布帛

關	一、三、五、五	二、〇、二、五
香	八、五、九	八、七
印	一、五、七	五、〇、六
海	一、五、七	五、〇、六
計	一、五、七	五、〇、六
支	一、五、七	五、〇、六
滿	一、五、七	五、〇、六
中	一、五、七	五、〇、六
北	一、五、七	五、〇、六
關	一、五、七	五、〇、六
印	一、五、七	五、〇、六
海	一、五、七	五、〇、六
蘭	一、五、七	五、〇、六
暹	一、五、七	五、〇、六
南	一、五、七	五、〇、六
海	一、五、七	五、〇、六
印	一、五、七	五、〇、六
關	一、五、七	五、〇、六
支	一、五、七	五、〇、六
北	一、五、七	五、〇、六
中	一、五、七	五、〇、六
計	一、五、七	五、〇、六

ブランケット(綿製)

北	三	三、三
合	三	三、三
細	二	一、七〇
暹	四、八三	三、六四
比	一、三三	九、六四
フ	一、三三	二、九四
蘭	一、三三	六、三六
海	一、三三	二、九四
印	一、三三	二、九四
關	一、三三	二、九四
支	一、三三	二、九四
滿	一、三三	二、九四
中	一、三三	二、九四
北	一、三三	二、九四
關	一、三三	二、九四
印	一、三三	二、九四
海	一、三三	二、九四
蘭	一、三三	二、九四
暹	一、三三	二、九四
南	一、三三	二、九四
海	一、三三	二、九四
印	一、三三	二、九四
關	一、三三	二、九四
支	一、三三	二、九四
北	一、三三	二、九四
中	一、三三	二、九四
計	一、三三	二、九四

同(毛製及毛綿製)

中	四、七	四、七
南	四、七	四、七
埃	一、六	一、六
阿	一、六	一、六
東	一、六	一、六
弗	一、六	一、六
計	一、六	一、六
支	一、六	一、六
滿	一、六	一、六
中	一、六	一、六
北	一、六	一、六
關	一、六	一、六
印	一、六	一、六
海	一、六	一、六
蘭	一、六	一、六
暹	一、六	一、六
南	一、六	一、六
海	一、六	一、六
印	一、六	一、六
關	一、六	一、六
支	一、六	一、六
北	一、六	一、六
中	一、六	一、六
計	一、六	一、六

其ノ他ノ地氈

計	二、三、九、二(方碼)	一、二、九
支	二、三、九、二	一、二、九
滿	二、三、九、二	一、二、九
中	二、三、九、二	一、二、九
北	二、三、九、二	一、二、九
關	二、三、九、二	一、二、九
印	二、三、九、二	一、二、九
海	二、三、九、二	一、二、九
蘭	二、三、九、二	一、二、九
暹	二、三、九、二	一、二、九
南	二、三、九、二	一、二、九
海	二、三、九、二	一、二、九
印	二、三、九、二	一、二、九
關	二、三、九、二	一、二、九
支	二、三、九、二	一、二、九
北	二、三、九、二	一、二、九
中	二、三、九、二	一、二、九
計	二、三、九、二	一、二、九











封筒

支滿	二,五〇七
北	一,六八五
中	七五五
南	三〇
計	二,五〇七
支滿	三,九〇三
北	一,〇八八
中	一,〇八八
南	三,九〇三
計	三,九〇三
支滿	七,二五八
北	八,〇八八
中	五八
南	二,五八八
計	七,二五八
支滿	三,九〇三
北	三,九〇三
中	三,九〇三
南	三,九〇三
計	三,九〇三
支滿	三,九〇三
北	三,九〇三
中	三,九〇三
南	三,九〇三
計	三,九〇三

煙草用吸口

支滿	一,八四三
北	一〇一
中	一〇一
南	一,八四三
計	一,八四三
支滿	一,八四三
北	一,八四三
中	一,八四三
南	一,八四三
計	一,八四三

紙製ナブキン

支滿	一,八四三
北	一〇一
中	一〇一
南	一,八四三
計	一,八四三

書籍及雜誌類

支滿	二,五〇七
北	一,六八五
中	七五五
南	三〇
計	二,五〇七

其ノ他ノ印刷物

支滿	一,八四三
北	一〇一
中	一〇一
南	一,八四三
計	一,八四三

層紙(古新聞ヲ含ム)

支滿	一,八四三
北	一〇一
中	一〇一
南	一,八四三
計	一,八四三

石綿及同製品

支滿	一,八四三
北	一〇一
中	一〇一
南	一,八四三
計	一,八四三

其ノ他ノ印刷物及同製品

支滿	一,八四三
北	一〇一
中	一〇一
南	一,八四三
計	一,八四三





關中	南	北	支	滿	計	其他	漆	東	阿	埃	伯	合	歐	英	細	ア	暹	比	フ	蘭	海	印	香	關	中
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
25,077	10,741	1,216	18,654	4,600	87,299	3,631	4	179	73	131	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

關中	南	北	支	滿	計	其他	漆	東	阿	埃	加	希	伊	英	細	ア	暹	比	フ	蘭	海	印	香	關
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3,674	2,204	23	4,901	2,336	37,000	3,075	9	15	33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

比	ソ	蘭	海	關	中	支	滿	計	比	蘭	香	關	支	北	鐵	其	獨	佛	印	香
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
61	33	2	1	80	2,336	17,479	2,762	1,163	1,753	1,631	1,931	833	1,771	3,040	773	476	1,300	1,300	1,300	1,300

印	香	關	中	支	滿	計	英	暹	比	ソ	フ	蘭	海	印	香	關	南	中	支	滿	計
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2,366	3,474	3	5,366	2,506	3,923	9,599	100	81	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

支	滿	計	ア	暹	比	蘭	海	印	香	關	中	支	滿	計	和	暹	比	ソ	蘭	海	印	香	關	中
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10,796	6,481	17,277	5,877	7	15	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

支	滿	計	蘭	香	關	中	支	滿	計	埃	和	英	ア	暹	比	ソ	蘭	海	印	香	關
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1,235	3,726	5,000	1,279	850	542	1,999	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235	1,235

計	伊	獨	英	海	印	關	支	北	銅	計	英	細	印	香	關	中	支	滿	計	暹	比	ソ	蘭	海	印	香	關
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
2,336	1,235	867	7,500	433	76	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	

計	諸	海	印	香	關	南	中	支	滿	計	其他	漆	埃	比	蘭	海	印	關	中	支	滿	計
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4,581	4,581	5	531	30	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165	

滿	計	阿	埃	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	農	計	埃	合	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	其	他	銅	
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北
九,010	四,四一八	二,九八	一,四三三	四,三〇九	一,一六六	一,五五九	三,八八八	一,一〇五	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一

九,010	四,四一八	二,九八	一,四三三	四,三〇九	一,一六六	一,五五九	三,八八八	一,一〇五	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一
-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

比	ソ	蘭	海	印	香	關	支	滿	鐵	計	淡	墨	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	錫	計	印	關	支	滿	
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	
九,010	四,四一八	二,九八	一,四三三	四,三〇九	一,一六六	一,五五九	三,八八八	一,一〇五	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一	一,〇五一

東	阿	埃	加	歐	和	細	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	及	計	淡	東	和	英	暹	支	滿	物	類		
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	
八,五五	七,〇〇〇	二,一〇〇	六,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇

海	印	香	關	支	滿	計	東	合	細	ア	暹	印	香	關	支	滿	縫	計	其他	布	深	支	滿	珠	瑯	
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北
六,四八四	五,三三〇	五,七八三	一,五五	二,五六	一,二二	一,四九	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	一,七〇	

關	支	滿	鉛	計	伯	諾	和	伊	白	獨	佛	英	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	其	他	銅		
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北
二,〇三	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇

二,〇三	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

同	計	比	蘭	印	香	關	支	滿	真	計	比	蘭	支	滿	安	知	母	尼	錫	計	印	關	支	滿		
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北
二,〇三	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇

同	計	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	同	計	細	ア	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	其	他	
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北
二,〇三	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	

南	中	北	支	滿	計	獨	英	暹	比	蘭	海	印	香	關	支	滿	其	他	金	屬	支	滿	計	印	關	支	滿
南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南	中	北	南
七,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	二,〇	

